



お墓と供養の しきたり

矢田石材店 矢田敏起



お墓と供養のしきたり

矢田石材店 矢田敏起

はじめに

【先が分かっている】ことほど安心出来る事はない。

何事においても先がわからないから不安になるし、心配してしまう。

私たちの仕事はその不安を取り除く仕事だ。

「墓石店が？」と思われるのもムリはない。

しかし考えてみて頂きたい。

お墓をつくることは誰もが知っている事だろうか。

お墓を直した後、どうなるのか予測できる人はいるだろうか。

お墓を片付けたとしたら……。

お墓をつくらなかったとしたら……いったいどうなるのか。

亡くなられた家族をお墓で祭った時とそうでない時、どのような違いがあるのか。

ほとんどの方にとっては知らない事、わからない事になる。

「子供に迷惑をかけたくないからお墓をつくらない」

このような事をメディアは挙って報道する。

まるでお墓をつくること子供に迷惑をかけているかの如く。

それは事実だろうか。

本当にお墓をつくること子供に迷惑をかけることになるのだろうか。

もしお墓をつくらなかった時のデメリットについて、知っている人はいるのだろうか。

その事を伝える人はいるのだろうか。

お墓をつくっただけでお参りもせず、次世代に伝えることも伝えずに放置することが迷惑であつて、お墓をつくることが迷惑なわけではない。

お墓をつくることは亡くなられた家族の人生に対し、尊厳をもたらす行為である。

記憶の中にある家族の愛に対して、形として想いを残すのがお墓である。

あちらの世界に旅立たれた故人に対して幸せになつて欲しいという、死者救済の願いの結晶がお墓なのだ。

【お墓をつくつてあげたい】と思うことは、家族の死に尊厳を与える尊いことであると自覚してほしい。

あなたの周りから聞こえる、お墓に対して後ろ向きな話に耳を傾けないで欲しい。

気持ちの赴くままにお墓を通じて故人との関係性を再構築しようとする、

そんな感情が芽生えているのだとしたら大切に育ててください。

そんなことを伝えたいがために、7年余りラジオで話し続けてきました。

皆さまにとつてわからない事、知らない事であるお墓の話を、知っている事、予測できること、

お墓をつくとどうなるかわかることにしていただく為にさまざまな角度からお墓のことを伝えてきました。

この冊子では、300回以上の放送を通じて私が皆さんに伝えてきたお墓や供養の話の中から70話を厳選。

ガッチリ真面目な話から、ゆるーい話題まで揃っています。

ひとつの話は見開き2ページで完結します。

はじめから順番にお読みくださっても構いませんし、気になる話だけお読みいただいても構いません。

これからお墓事をはじめようとする方々の後押しとなればうれしいです。

お墓のことが【わからない】から【わかる】【知っている】を目指して。

1 お墓の迷信	5	20 岡崎の「高級石材」を使って至れり尽くせりのお墓づくり	43
2 「終活」子の心親知らず	7	21 お墓との相性も抜群！日本国中で有名な「大島石」とは	45
3 二か所あるお墓の継承者	9	22 「花崗岩のダイヤモンド」と呼ばれている庵治石の魅力	47
4 お墓に入りたくない嫁	11	23 地元の石でお墓づくり！歴史ある岡崎の石の起源に迫る	49
5 お墓の継承者問題	13	24 美しい宮城県伊達冠石の魅力とは？	51
6 お骨の代わりになるもの	15	25 海外の宗教と日本のお墓との関わり	53
7 お墓に関わる家系図の作り方	17	26 お釈迦様のお墓と日本のお墓	55
8 永代供養墓	19	27 宗派替えをしたお墓はトラブル発生の原因に	57
9 お墓づくりの心構え	21	28 日本人の宗教行為	59
10 お墓建立の予算の話	23	29 仏教のお墓と神道のお墓との違い	61
11 お墓の完成はいつを目指すべきなのか	25	30 宗派の違うお墓をまとめる	63
12 お墓づくり前段階の悩み	27	31 宗教や宗派の違う家のお墓づくり	65
13 お墓づくりの流れ① お墓づくりのコンセプト	29	32 墓地の探し方	67
14 お墓づくりの流れ② お墓の種類とデザイン	31	33 墓地に行くことの重要性	69
15 お墓づくりの流れ③ 墓石選びのポイント	33	34 墓地の売買	71
16 お墓づくりの流れ④ 日本の石・地元の石	35	35 事故に注意！墓地で気をつける3つの出来事	73
17 お墓づくりの流れ⑤ 墓石の加工や構造注意点	37	36 お墓の民間信仰	75
18 お墓づくりの流れ⑥ お墓の保証	39	37 今やって良いのか、私がやって良いのか	77
19 神話から読み解くお墓はなぜ石なのか	41	38 お墓に巻くさらしの話し	79

39	お地藏さまの話	81
40	お墓が出来上がるまでの期間	83
41	お墓のデザインの移り変わり	85
42	お墓の元祖「五輪塔」とは	87
43	みんなが気になるお墓づくりの基礎工事	89
44	自分のお墓をつくる場合に気をつけたい罫とは	91
45	お墓をまとめる時の序列	93
46	お墓の改葬	95
47	お墓の片づけ	97
48	お墓の引越	99
49	お墓を守る意味と方法	101
50	お墓の傾き	103
51	お墓のまとめ方	105
52	お墓の水染みなどのご質問にお応えします	107
53	お墓を片付ける前に知って欲しい事	109
54	お墓にまつわる儀礼・式典	111
55	お墓参りの基本	113
56	線香の話	115
57	お墓に手向けるお供物	117
58	世界の埋葬	119
59	お墓参りの良い話	121

60	春のお彼岸	123
61	七夕とお墓の関係	125
62	お盆のお墓参り	127
63	お盆の起源	129
64	海外のお盆	131
65	お墓の災害対策	133
66	地震に備えてお墓で何をしたらいいのか？	135
67	戒名を彫るのは墓石か墓誌か	137
68	建立者の名前	139
69	お墓に刻む年齢の話	141
70	お墓の建立日	143
71	お墓と戒名の関わり	145
72	お墓の正面文字についての話	147
73	文字の色、彫刻の色	149
74	家紋の話	151

お墓の迷信

全国各地、さまざまな人から伝え聞くお墓の迷信。その真偽は一体どうなのでしょう。今回は「傾いているお墓を直してもらいたいが、お墓に関する迷信が心配になって悩んでいる」という方のご相談を元に、お墓の迷信について考えてみましょう。

「墓石が傾くと、家が傾く」などの迷信

お墓の迷信については、昔からの言い伝え、噂話などさまざまなことが言われてきています。たとえば「生前にお墓をつくと早死にする」とか「一度仏様が祭られたお墓は一切触ってはいけない」「墓石が欠けたら家系が途絶える」など。さらに「墓石が傾くと家が傾く」「墓石の色が黒だと縁起が悪い」などの伝承がごいます。

しかしながらこれらの話はほとんど根拠のないものです。たとえば「黒い石でお墓をつくと不幸になる」の類い。実は関東地方、東北地方の半数以上のお墓は黒御

影石でつくられています。もし黒い石でつくられたお墓が不幸になるのであれば、その地域にお住いの皆さんはほとんど不幸になってしまう。ですが決してそういう訳ではありません。

お墓の迷信は「墓相」から

実は「お墓の迷信」に関しては「墓相」に端を発するものが多く、方位学が基本になっていることが見受けられます。「地理的な場所が悪い」「お墓の向きが悪い」とはよく言われます。しかし墓地のルールに沿った場合、方位に関しては選択肢がないことも事実なのです。

そもそも選択肢が無いことに対して憂いでいると、皆さんの運気が悪くなってしまう。石の色などばかり気にしていると、本来お墓は家族の幸せを願う「祈り」の対象なのに、何か忌まわしい「呪い」のイメージに変わってしまいます。心身の健康にとっても良くはないでしょう。悪気はなくてもマイナスの言葉は人を不安にするものなのです。

お墓の考え方に絶対はない

「墓相」はそもそもお墓をよりよく導くための考え方であり、マイナスを探して指摘するためではありません。そして結果はあくまで確率論で、絶対という訳でもないのです。世の中には、口は出すけど金が出さないという方が沢山いらっしゃいます。誰かに言われたことで疑問を持ち、納得のいかないまま実行してしまったら後悔につながります。

このような事でお困りの際はよい対処方法がございますので、このようにお伝えください。「よいアドバイスがあります」とありますが、大変よいお考えでその通りにしたいたのですが、それを実現する為に必要なお金が足りません。少しでも構いませんので援助して頂けませんか？」
こう伝えると大体おとなしくして下さるでしょう。

お墓参りに行ける環境を整える事が大切

お墓はお亡くなりになられた方への「感謝のしるし」です。お墓をつくったり、直したりする事は、お墓参りに行ける環境を整える事ですから、心に平安をもたらす正しい行為。

要はお墓を守っていく方が「どうすれば心が落ち着くのか」「どんなお墓なら守っていけるのか」ということを考えて行動すればよいのです。私共は皆さん其々のお考えを尊重します。どんな事でもお困りになった時は矢田石材店にご相談ください。心から安心出来るお墓についてのアドバイスを差し上げます。どうぞご利用ください。

「終活」子の心親知らず

お墓やお葬式に関心のある子供世代

今回は中日新聞に載っていた記事の中から、お墓についての興味深いお話がございましたので、その内容を元に、いろいろと「世代間ギャップ」についてお伝えさせていただきます。まずタイトルですが「終活、子の心親知らず」となっています。新聞記事によりますと、子供世代と親世代では「終活」で取り組みたいことが大きくかけ離れているそうです。

具体的な数字から見えますと、子供世代には「親と一緒に取り組みたい終活」、親世代には「自分自身の終活で取り組みたいこと」を尋ねたところ、「お墓」について子供側の関心が72%に対して親側は7%とかなり大きな開きがございました。

「お葬式」については子供72%、親14%、そして「財産の整理」についても4%以上の開きがあったと記載されています。ちなみに同記事中には親側が終活で興味があ

ることをあげていますが「持ち物の整理」や「思い出づくり」が上位となっていました。

送る側と送られる側の「終活」についての意識の違い

このことから、送る側と送られる側の「終活」についての意識の違いが、あらためて浮き彫りになったと言えるでしょう。弊社にお墓のことでご相談に来られる方々の中にも、親世代と子供世代では考え方に大きな隔たりのある事がございます。

生前にお墓づくりを考えている方々の中には「自分が入るためのお墓」をつくるという考えの方と「子供たちが困らないお墓をつくる」という考えの方がいらっしやる。

どちらもお親世代がお亡くなりになった後、結局は残されたお子さま達で遺族がお墓に入れてくれることになるのですが、中には自分勝手に行動した結果、とんでもない事になったケースもございます。

世代間ギャップによるお墓のトラブルも

まず一つ目のケースです。生前にお父さんが家族に内緒でお墓をつくったのですが、お墓の所在を知らせる前にお亡くなりになりました。場所がわからないということ、結局は息子さん世代の住む地域でお墓をつくり、ご遺骨を収めたというお話。

続いて二つ目のケースは、先祖代々のお墓を守っていたご家族が、お墓があると子供たちが大変だろうということで、独断でお墓を片付けてしまいました。しかし親世代が亡くなった後、お骨をどう納めるか迷い、結局きちんと祭ろうという話になり、再度お墓をつくられたというお話。

そして極めつけは、あるご家族の勇み足話です。代々のお墓がたくさんあり、守って行くのは大変だということとで石材店にお墓の片付けを頼みました。しかしこともあろうに守るべきお墓まで片付けてしまったそうです。親戚からは「何で勝手な事をするんだ！」とものすごく非難されたということでした。

親子での話し合いがとても重要

これらのトラブルは、「お墓を建てたり」「お墓を片付けたりする」と、将来どうなるのか？という展望が甘かったため、起こったと言わざるを得ません。本来お墓は自分の為につくるのではなく、お亡くなりになられた家族を想ってつくられるものです。「誰かの為に」という意識が重要です。

親世代がお亡くなりになられたのであれば、子供世代が亡くなった方の為にお墓をつくりまします。生前に自分のお墓をつくるのであれば、残されたご家族が自分の死によって困る事のないようにと、お墓を準備する。そんな考え方が大切です。

結論と致しまして「お墓」や「終活」全般に関しては、独断に偏らず、家族との話し合いをする事が重要になってきます。自分のことだけを考えるのではなく、ご家族や周りの方々との関わりや繋がりをしっかり正しておくことを、まずは行って頂きたいと願います。どうぞご参考ください。

二か所あるお墓の継承者

岡崎市と名古屋市にある2つの墓

今回は、岡崎市にあるお墓と名古屋市にあるお墓を1カ所にまとめたというご相談にお応えします。この2つのお墓ですが、岡崎にはご自身の両親とご先祖さまが祭られています。名古屋には姉夫婦のお墓があり、そこに若くしてお亡くなりになったお姉さんのご主人とお姉さんが一緒に祭られているそうです。姉夫婦に子供はいなかったということでした。

ご相談者は岡崎と名古屋、2つのお墓を守っていた訳ですが、最近になって体調を崩し、将来に対する不安から2つあるお墓をまとめようとご決断されたそうです。ところが自分たちの次世代のことを考えて行くうちに、どうしてよいか分からなくなってしまうそうです。

長女の息子をお墓の継承者にしてはどうか

この方にはお子さんが3人います。ご長男は東京で働き、家も建てています。ただ長男夫婦にはお子さんがいらっしゃるやいません。なので長女の息子をお墓の継承者にしてはどうかということになりました。

しかし長男夫婦にお子さんがいないからと言って、長男を飛ばして長女の息子を後継者にするのは考えが飛躍しすぎです。まずはご長男が後継者となり、その後の事はご長男夫妻が次の世代について考える事なのです。

将来を杞憂しすぎるのは良くない

また今回は嫁いだ娘の子が跡取りになる事を考えて、お墓の正面を「先祖代々墓」に変更。花立は家の名を彫らずに蓮を刻み、家紋もなく、将来苗字が変わるかもわからないため、建立者もフルネームは止めるおつもりでした。しかしそれでは何のためのお墓で、誰のためのお墓なのか分からなくなってしまうです。

あれこれと考えすぎて、本来供養すべき故人さまや、ご先祖さまのことをないがしろにするのはよくありません。たしかに後の世代のことを考えてお墓をつくってい

くことは重要です。しかし一番に考えるべきことは「誰を供養するのか?」「誰がお墓に手を合わせるのか?」なのです。まずそこを大切にしてください。

家族の問題はドッシリ構えて

次の世代に先祖供養の大切さを伝えるためには、考えすぎتهはいけません。ギツチリとレールを敷いてしまつては、お子さんやお孫さんを縛ることにつながります。ご自身の考える供養について信念を持って行い続けければ、必ず次世代にまで想いは伝わります。

早とちりせずにドッシリ構えてお墓と向き合いましう。そうする事によつて、たとえさまざまな家族問題があつたとしても、今からお孫さんの代の事まで考え込まなくてもよいと思えるようになるはずでう。どうぞご参考ください。

そして行き詰つたらどうぞ私どもにご相談ください。最適なご供養とその継承を一緒に考えます。ご利用ください。

お墓に入りたくない嫁

非常に根の深いお話

何時の時代にもお嫁さん問題は必ずついて回ります。「本家に嫁いだお嫁さんが、先祖代々のお墓に入りたくないと言っている」という内容のご相談を頂きました。お嫁さんのご主人（本家当主）が亡くなられたので、お嫁さんがお墓そのものを片付けてしまうのでは？というお悩みです。

ご相談者は亡くなったご主人の妹さんです。今は嫁いで家を出ています。ですが実家のお墓が無くなってしまつては両親やご先祖さまに申し訳ないということで、何とかしたいというお話でした。

解決の糸口を見つけるためには 根気よく取り組むこと

お墓の片づけに関して、お嫁さんの一存で墓石自体を

片づけることは出来ます。ですがお骨は簡単に持ち出したり、捨てることは出来ません。

お骨をお墓から移動させるには、役所の認めた改葬許可証がなければ法的に許されないので。その事実を伝えたり、どんなお気持ちがあつてお墓を片付けたいとなつてしまったのか、ご相談者さん達がお嫁さんと交渉を行うしかありません。お墓を片付けてしまいたいお嫁さんの気持ちを理解し、その負担を引き受ければ、状況は少しずつ改善していくはずです。

お墓は亡くなった方々を供養するためにつくられますが、残されたご遺族が明るく元気に生きて行くことも願われます。お墓をつくるのがきつかけで不幸になるとは、絶対にあつてはいけない事です。必ず解決の糸口を見つけられるはずです。お嫁さんと一緒に根気よく話し合つて取り組んでいきましょう。

昔は供養というものが自然に伝わっていた

このように墓石店の仕事はお悩み相談業に近づいています。一昔前の墓石店と言えば、石を仕入れてお墓の形に加工できれば成り立つ仕事でした。現に私の祖父や父の世代では、加工技術を磨くことが墓石店としてもっとも大切な事でした。墓石店があらためて供養とは何ぞや

ということを切り出さなくても良かったのです。

というのも以前は墓石店が墓石さえつくれば、あとはお施主さま達がお寺の住職さんからご指導頂いたり、おじいちゃん・おばあちゃんから習ったり、地域の方々からしきたりや習慣を教わって、供養というものが自然と伝わっていたからです。

最近の墓石店は供養のため心のケアも担当

しかし今回のご相談もそうですが、現代の家族は人と人とのつながりが分断されており、地域の方々や住職さんとの結びつきも非常に弱いものになっています。そんな状況の中で、私たち墓石店は墓石をつくるだけでなく、どうやったらご先祖さまや亡くなった方のご供養につながるのかまでお伝えすることを担うのです。

墓石というハードの上に、「想い」とか「ご供養」そのものをお伝えするというソフトの部分が重要になっています。お墓をつくる方々にとっての心のケアが大切なのです。

やりがいのある仕事を一緒にどうですか？

ここで一つ告知をさせて頂きたいのですが、このような私どもの仕事をやってみようかなという方がいらつしゃいれば、ぜひお声がけください。覚えることはたくさんありますし、決して楽な仕事ではありませんが、悩んでいる人の役に立ったり、涙を流して感謝される本当にやりがいのある仕事です。興味のある方は、まずはお電話ください。一緒にお墓を通じてこの世界をより良くして行きましょう！お待ちしております。

お墓の継承者問題

後継者は誰が・・・

皆さんが知っているようで意外と知らない「お墓の後継者」。今回はその考え方などについてお伝えします。お墓のご相談に来られた方からお墓の継承について「うちの場合、誰が後継者になるのか？」とよく聞かれます。一番間違いない答えとして後継者は「出来る人がやる」事です、そこに至るまで家族や親戚皆さんに納得していただく必要があります。

分家で新しいお墓をつくる場合

これからお墓をつくる場合、お祭りされる方は分家初代です。たとえば子供さんは息子が3人。そこで母親と3人の息子さんでお墓をつくる事になれば、兄弟の中で誰が跡を取るかということが問題です。

たとえば長男は県外に就職。そのまま結婚して家も建

てた。実家に戻ってくる可能性はとても低い。ご葬儀の喪主は長男が行ったが、家の跡取りは同居の次男、三男のどちらかになって欲しいというような話。このような場合は、同居しているご兄弟の中から跡継ぎを選ぶ事が多いです。

独身の長男が継承して、

その後は次男や三男がなるケースも

別のケースでは、ご長男がおひとり身。次男さんと三男さん、下のご兄弟がご結婚されてお子さんもいる場合。このようなケースは判断が難しくなりますが、未婚で子供も居ないからといって、ご長男をすっ飛ばしていくのは、ちよつと勇み足の可能性があります。

ひとり身だから継承させないとなると「どうせ俺なんか」と、スネてしまう可能性もあります。慎重に事をお運びください。いったんご長男が継承し、その後に次男さんや三男さんが継承すれば、その子供さんたちが継承していくことも可能です。早合点せずに、将来のことも考えてしっかりと話し合いを行なってください。

先祖代々のお墓の後継ぎが女子の場合

お子さんが女の子ばかりのケースもあります。一人っ子同士がご結婚されたケースも含め、今はこのようなご家族が非常に多い。後継ぎが女の子しかいないため、お墓の建立を躊躇したり、永代供養のお墓にするケースも。しかし墓地が元々用意されていたとか、そもそも代々のお墓があるという場合には、どうしようかと迷われます。このようなケースは、いったん今の枠組みを取っ払って大きく考えてみることをお勧めします。

お墓と家を継ぐのは男子だけではない

お墓の継承に関しては、長兄でなければいけないとか、男の子でなければいけないというような法的な定めはありません。地域の風習や慣例もありますが、時代も変わってきています。柔軟に考えてみてください。

実は市営の霊園では、血縁者であれば普通に継承者が女性でも許可されています。またお墓の継承に関しては、相続税などの費用が発生致しません。金銭的な負担は皆さまが想像するよりも少ないはず。お墓の継承者になるということは、家を継ぐということにも直結することです。

す。お墓に関しては継承者と平常時のお墓守の方が別というケースも考えられます。さまざまな可能性を考えて、よく話し合っご家族、ご親族皆さまが納得のいく継承をなさってください。

お骨の代わりになるもの

親の供養ために

「お墓をつくったけれど、お骨の代わりに納めていいもの、いけないものはありますか？」というご質問を頂きました。この方は亡くなられたお母様のためにお墓をつくられました。実はお父様も以前にお亡くなりになられていたのですが、理由がありご遺骨はありませんでした。しかし折角なので、お墓にはお父様、お母様お二人の戒名を刻みました。

納骨の時、お母さんのご遺骨はあるものの、お父さんのご遺骨はありません。そこでご遺骨の代わりに生前に使っていた箸や筆等を納められました。そのことについて「あれでよかったのだろうか」と悩まれたそうです。

お骨の代わりに納めてもよい場合

まず大前提の話ですが、墓地の規則でお骨以外を納め

てはいけない場合、そのルールにしたがってください。とくに明記していないのであれば、常識の範囲内であれば許されます。ではどのような物であるならより良いのでしょうか。お墓の本質を考えたら自ずと答えは見えてきます。お墓とは、そもそもお亡くなりになられた方をご供養し、あちらの世界で幸せになつて欲しいと残されたご遺族が願いを込めてつくるもの。

なのでお墓に納めてよいものとしては、基本的な考えとして生前身に付けていたものが好ましい。たとえば「服の一部」であったり「金属製の装飾品」や「メガネ」などです。

生前にいつも身に付けていたものから選ぶ

目には見えない私たちの願いはカタチのある物に宿ります。その最上級がお墓。そしてお亡くなりになられた方への願いを込めるため、お骨を大切に扱います。この行為が死者に尊厳を与え、仏教的な救済へとつながります。しかしお骨が無い場合、代わりとなる依り代があれば、その願いはより強く届くのです。

そのため身に付けていたものや、祈りや願いが込められやすい物質である金属が好ましいとされているわけです。ちなみに故人の好きだったものは旅立ちのお供とし

てダメではありませんが、私たちの想いが強く反映する助けにはなりません。やはり身に付けていたものなどのほうがよいでしょう。

個別のご相談はご予約を

今回のようなご質問に対するお話は、お墓をつくるすべての方が知るべきことではありません。通常のご案内ではあまりお伝えしてはけません。より具体的に個別のご相談がある方には、個々にお伝えしております。お墓のことでお迷いのある場合はぜひご予約の上お越しください。

お墓に関わる家系図の 作り方

ご先祖さまのお名前を確認する

たくさんあるお墓をまとめる時、ご先祖さまのお名前を確認するという作業を通して、一体どんな人たちだったのかを想像したり、調べたりすることはとても有益なことです。今回はそのきっかけになる「家系図の作り方」についてお伝えしましょう。

具体的な家系図作りに関しては、まず始めに情報収集が必要です。お墓があれば、刻まれているお名前、その他の情報を書き写します。古いお墓で文字が読めないときは、表面の汚れを落とし、色水を刻まれている溝に流し込むことによって、ある程度文字を鮮明にする事も出来ます。

本家やお寺の過去帳を調べてもらう

その他の資料と致しましては、仏壇に祭られているお位牌、過去帳、戸籍謄本、除籍謄本などです。また本家の過去帳や菩提寺の過去帳にも記載があるとは思いますが、過去帳を調べることはとても大変な事。なのでお願いする時は調べてくれる相手の手間を考えて、誠心誠意頭を下げましょう。間違っても「調べるのが遅い」とか「断るなんてどうかしてる」などと思わないように。お氣をつけください。

そして出来る限り情報収集は文字に頼るのではなく、両親や祖父母、親戚縁者のご健在であれば聞いて確かめる事を大切にしてください。なぜかという、残っている書類では「誰」は分かっても「どんな人」か、ということとは分からないからです。

集めた情報をまとめる

「どんな人」なのか分かったら、自分のルーツを具体的に確認でき、想像する事も出来ます。今まで生きてきた人生の裏付けになる事もありますし、これから挑戦しようとしている、夢に向かう自信にもつながるはずです。人

すべての情報がたくさん得られるかどうかで、家系図作りが自分のルーツを探る大冒険になるか、ただの紙切れづくりになるかの分かれ目になります。

集めた情報のまとめ方については、ポストイットなどのメモ用紙一枚につき一人の情報を書き込みます。「生前の名前」「戒名」「生年月日」「お亡くなりになった日」「享年」そして「その人の人となり」です。わかりやすくするために、男性は青、女性は赤の紙やペンを使うとよいでしょう。男性は□、女性は○、といった感じで目印をつけてもかまいません。このあたりはご自身のやりやすい様式で行ってください。もちろんご自身の名前や家族も書き出すことをお忘れないように。

大きな模造紙などにメモを貼りつける

一人ずつの情報をメモに書き出した後は、大きな模造紙などにその情報を貼り付けます。まず自分の名前を模造紙の下の方に貼りつける。兄弟がいる場合はとなりに並べます。奥さんは兄弟の反対側に配置し、二重線を引きます。子供は下です。自分の場所から上に線を一本ひき、父・母が上で並ぶようにしてください。父Ⅱ母の下に引いた線の先が自分です。

この作業を続け、調べた人たちを並べて貼っていきま

す。お名前などだけではなく、調べた人のなりや気になったこともいっぱい書き出しましょう。この作業を、お子さんがいれば一緒にやって頂きたい。場合によっては夏休みの自由研究にもなります。

先祖代々の家系図からは自分の存在も確認できる

出来上がった家系図を見て、この中の一人でも欠ければ自分は存在しない、ということをお子さんに話す事によつて、親に対する感謝が湧き、先祖を敬うよい子に育ちます。

ちなみに矢田家の場合は曾祖父母が両方とも養子。代々石工の家系ではありますが、その血筋を途絶えさせないために、ご先祖さまはそれなりに苦労されたのです。そのことを知った時、あらためて自分が引き継いだ責任の重さに身が引き締まる思いが致しました。ぜひ皆さんも同じような感覚を得て頂きたい。お時間のある時に少しずつでも構いませんので挑戦してみてください。

永代供養墓

2通りのつくり方のある永代のお墓

最近よく耳にする「永代供養墓」とはどんなお墓なのでしょう。ぼんやりと文字から想像できますが、今回のお話では少し詳しい内容をお伝えします。

永代供養墓とは、個々でお墓参りをしなくても、お寺側で責任を持って永代にわたり供養してくれるお墓のことで、大きく分けて2通りのつくり方があります。ご遺骨をまとめて埋葬する合祀タイプ。個別のお部屋、柵に骨壺を保管する個別保管タイプ。どちらもこのような言い方が正しいかどうかわかりませんが、一般的には初期費用だけで、後々に掛かってくるお金はありません。

都会の方やお墓を閉じた方などが利用

永代供養墓は都会にお住まいの方が、墓地を手に入れることの出来ない場合によく利用されています。愛知県

はまだそこまでの環境ではありませんから、墓地は手に入れる気になれば手に入ります。

また元々あったお墓を片付けた為、ご遺骨の行き場が無くなり、お寺の合祀墓で祭ってもらうケースもございます。ご身内の中で、本家のお墓に入ることが出来ない方。たとえば一人身で亡くなったおじさん、おばさんを供養してあげたいと思う方も永代供養墓を利用します。

お墓の片づけを心配する声も

最近はテレビ番組でも、お墓を片づける話がよく特集されています。私共のような墓石店でも墓石そのものを片づけることは出来ませんが、ご遺骨の行先はやはり永代供養墓、もしくは海、空みたいです。そのまま放っておくことはできませんので。

「自分達の世代が亡くなる頃にはどうなっているんだろうか」と心配される方も多いですが、弊社にご相談下されば、お墓を中心としたさまざまなご供養をご提案させていただきます。ご安心ください

合祀のお墓には注意を

ただ注意することがございます。合祀のお墓は一度ご遺骨を納めてしまうと、二度と取り出せません。後で移動させることはムリなのです。

「やっぱり個別で祭りたい」と後で思っても、分骨することは不可能です。なので自分自身の考えだけではなく、周りのご家族や親族のお話をしっかりと聞いたうえで判断してください。中には訴訟になった事例もあります。お気をつけください。

お墓についてのトラブルは心の問題

お墓についてのトラブルで気をつけなければいけないのは、石の問題ではなく、人の気持ち、心の問題です。手を合わせて祈る対象である以上、お墓やご遺骨を物として扱ってはいけません。邪魔だから片づけるとか、お墓やご遺骨の存在自体を負担に考えるとかなさらないで、家族でしっかりと話し合いを行ってください。

ご相談は遠慮なく

永代供養のお墓は、お墓守が途絶えてしまう方々の受け皿となっているため、今後はより重要な形式のお墓として位置付けられると考えられます。私共のところにも、寺院さまから永代供養のお墓建立に関しての問い合わせが年々増加中です。

皆さんが普通のお墓をつくらなくなってしまったら困りますが、お手伝いできる場合はお手伝いをしています。アドバイスを差し上げる事しか出来ない場合もあります。が、遠慮なくご相談ください。

お墓づくりの心構え

お墓づくりに必要な心構え、準備についてお伝えします。まずは「誰のためにお墓をつくるのか」と「何のためにお墓をつくるのか」について考えてください。

ご家族皆さままで考えていただくこと

「誰のために」については、故人さまやご先祖さまのためにお墓をつくるのは当然として、誰がこのお墓を守って行くのかということについても考える必要があります。とくに次の世代の方々をできる限り巻きこみながら考えてください。その上で「何のために」お墓をつくるのかということ、家族一緒になって話し合ってください。

「何のために」については、お墓で祭られる方々のご供養であったり、感謝を示すためだったりします。ご家族皆さまが、何のためにお墓をつくるのかを考えることによつて、ご自身達の未来を想像する事につながるのです。お墓づくりとは、ご家族皆様の過去、現在、未来を考

えるためのきつかけという側面もございます。ぜひ、その辺りのことを話し合つて、その上でカタチや石の種類などをお選びいただきたい。ご面倒だと思われるかもしれませんが、これが大切な心構えです。

誰が何のためにお墓をつくり、守って行くのか

多くのお客様は、年月が経つても変化の少ない石をご希望されます。ですがお墓づくりの骨組み部分としての心構えが出来ていれば、誰が何のためにお墓をつくるのか、という根拠も加わり、石の種類をご検討いただく時にも家族の想いがブレずに済みます。

たとえば現在は墓地からすぐ近くに家族が住んでいて、いつでもお墓参りに行ける。けれども子供たちが将来墓地から離れて暮らす場合、お墓参りには頻繁に来れなくなるだろうと予測がつくのです。

そう考えると、見た目重視で美しい石を使い、凝ったデザインのお墓をつくるよりも大切なことが思い浮かぶことになるでしょう。見た目のこだわりよりも、手入れの必要がほとんどない石を使い、デザインもよりシンプルにして、お掃除がさつと終わるお墓にしようという意識が

働きます。

お墓づくりは家族の未来を考えること

またお墓の設計をする時には立ってお墓参りをするのか、座ってお墓参りをするのかを考えます。お墓に手を合わせる時はしゃがんで行うことが一般的です。しかしご家族の中に足腰の悪い方がいらつしゃる場合、腰を下ろさず立ったままの状態で、お香やお花が手向けられるように配慮します。

ご遺骨の納め方も家族の未来を考えることで、答えは自ずと決まってきます。愛知県ではご遺骨を壺から出して土に還す方式が主流です。しかし将来的にお墓の引越しが予想される場合、土に還さず骨壺のまま保管する形式の方がよいかもしれません。

家族の集まれる場所としてのお墓とは

お子さんの立場からすると、親が子供のことも考えてお墓をつくってくれた事が伝われば、たとえ生活圏が遠方になった場合においても、お墓が負担になるとは考えません。お墓をつくることで家族が離れるのではなく、

将来にわたって家族が集まれる場所をつくるという意識を持って、お墓づくりに臨んで頂ければ幸甚に存じます。

お墓建立の予算の話

よいお墓には基準がある

弊社で定期的に行っているイベント、「お墓づくり勉強会」について少しお伝えします。この勉強会は、より多くの「よいお墓」をこの世にたくさん作り出すために開催しています。私共の考える、よいお墓づくりの基準となる事を、皆さんにお伝えするのが目的です。ご参加いただくための費用は無料です。

勉強会では90分というまとまった時間を使い、じっくりとお墓づくりのコツをお伝えします。ラジオなどでお伝えできない、少し内輪な情報もございます。

お墓づくり勉強会の内容とは

「よいお墓とはどのようなものなのか？」詳しくわかる勉強会なので、「これからお墓をつくらうかな」という方にぴったりの内容です。たとえば……

● 後世まで残るお墓をつくる人はここが違う！
● 建てる前に知っておきたかったお墓づくりの正しい方法

● 建立予算はいくらが正しいのか？

● 親類・縁者から認められるためのプロ目線

● あなたが知っておくべき、最低限の基礎知識

● デキる建立者のお墓の建て方、ダメな建立者のお墓の建て方

● よい墓石デザイン、悪い墓石デザイン

● 宗派的に正しいお墓のつくり方

● 墓地を上手に買う方法・墓石を上手に買う方法など、多岐にわたっています。

お墓にまつわるお金について

他にも「お墓を守るみんなのためのお墓相談」というQ & Aコーナーも用意。お墓にまつわる「お金」についてもお伝えしています。具体的なお話をひとつご紹介しましょう。

お墓建立のために必要な予算について。皆さま状況が違いますので、一概には言えませんが、目安としては、6か月分の月給（年収の半分）という説が各地で言われています。たとえば月収30万円ということであれば、予

算180万円。かなり立派なお墓を建てる事が出来ますね。年収200万円の方であれば100万円。世帯年収だとしたらちよつと予算をかけすぎな気がしますね。このお給料の6ヶ月分という目安については、あくまでも全国の平均値や中央値を元にした数字です。

お墓建立のためのご予算は 墓地の広さによっても変わる

それではお墓にかかる金額の平均はいかほどなのか？全国平均で168万円。愛知県は157万円となっています。愛知県は全国平均より少し少ないという現実。この数字を6カ月で割ってみると、約25万円となり、妥当とも言える金額です。ただ墓地の広さによって、必要となる費用は大きく変動しますので、あまりこの数字は気にしなくても構いません。

1㎡の墓所であれば、お墓を一基だけ建てます。10㎡もある墓所であれば、お墓を建てる以外に外柵や土台などが必要です。あるいは周囲に石垣を組む必要があるかもしれません。この費用だけでも数10万円、あるいは100万円以上になるかもしれません。なのでお墓のご予算は平均などを気になさらずに、墓地の広さと、ご自

身がどの程度お金を使えるか、ということの方が重要です。どうぞご参考ください。

「実際にうちの場合はどの程度必要なのだろう」と気になられたら、いつでも遠慮なくご相談ください。状況を詳しくお聞きして、最適なご予算をお伝えします。

お墓の完成は いつを目指すべきなのか

矢田石材店では「墓石見学会」を定期的に開催しております。その中でも、秋口にお越し下さるお客様は大きく2つの傾向に分かれています。

1つのグループは年末にお墓を建立して、新年に帰省などで集まるご家族、ご親族に新しいお墓をお披露目したいと思われる方。そしてもう1つのグループは翌年の暖かくなる頃までにお墓を建立し、春彼岸をメドに開眼・納骨式を予定される方々です。お墓づくりにおいては、「いつやるの?」というタイミングはとても重要になってきます。

そこで大切にしたい項目が3つあります。

1. お祭りされる仏さまの命日
2. ご家族、ご親族が集まれるタイミング

3. どんな石を使い、どういったお墓をつくるか?
今回はこれらを詳しくお伝えします。

1. お祭りされる仏様の命日

大切な方がお亡くなりになられてから一年を過ぎている場合、節目となるのは「一周忌」です。宗派や地域によつて異なりますが、「一周忌」と同時に納骨式も一緒にされる場合、それまでにお墓をつくります。また「一周忌」までに納骨を済ませ、近い方々のみでお墓の開眼・納骨式を行うお披露目の場合、一周忌以前のお墓の完成となります。どちらかが正しい訳ではなく、一周忌に集まる方々のことや、ご家族の状況などを考慮してお決めになるとよいでしょう。

2. ご家族、ご親族が集まれるタイミング

これは遠方のご親族多数の場合で、とくにご家族で海外勤務の方がいらっしゃる場合に考慮します。一年を通じて、家族・親族が集まれる時期が限られている場合です。(たとえば年末年始やお盆休み) そういった場合は、必然的にその時期に合わせます。「年末年始までにお墓をつく

り、新年は家族・親族で新しいお墓にお参りを」という方は、このケースが多いと思われます。

3. どんな石を使い、どういったお墓をつくるか？

通常一般的な墓石であれば、ご契約いただいてから石材の加工で約1ヶ月、墓地での施工を約2週間で行います。なので約2〜3ヶ月でお墓を完成させることが出来ます。自然石を使ったお墓の場合など、先に好みの自然石があり、それでお墓をつくる時も同様です。選んだ石材やお墓のカタチが特殊な場合、完成時期に合わせて開眼・納骨式を行います。また地元岡崎の石や香川県の庵治石などのように、最高級な石の場合、石材を厳選してつくるので、通常のお墓に比べ1〜2ヶ月ほど多く時間が必要です。

その他・墓石のデザインなども

ご契約を頂いた後、ご希望に沿った石材を探しに行く場合、地域によっては雪積で石探しに時間を要したり、岩盤が凍って暖かかくなるまで採掘できない地域もあり

ます。そのような石材の場合は、冬場の建立は不可能です。墓石のデザイン以外にも、難しい文字を彫刻したり、書家先生の文字を使用する場合、意外と時間が必要となります。通常の仕事と違う事を行う場合、それなりにリスクがございますので、長めの納期が必要です。

もっともよい供養につながるお墓づくりとは

お墓づくりを決断されてから、完成までの道のりそのものがお亡くなりになられた故人さまにとっての供養につながります。故人さまのことを頭に思い描きながら、「どんなお墓なら喜んでもらえるのだろうか?」「いつならば、あの人にとってよい時期になるのかな?」と心の中で考えたり、家族で話をする行為自体が、よい供養につながります。どうぞご参考ください。

もし具体的な時期をお知りになりたいときは、遠慮なくご相談ください。ご家族のメンバー構成なども考慮して最適な時期をお伝えします。

お墓づくり前段階の悩み

お墓づくりにはさまざまな悩みが付き物ですが、今回は「お墓づくりの心構え」の前段階の悩みについてお伝えします。お墓についてのお悩みに関しては、『お墓をどうしたらいいの?』とか、『お墓をつくった後、どうなるの?』あるいは『お墓をつくらなかったらどうなるの?』というような、漠然とした疑問や不安が多く寄せられます。

跡取り問題とお墓についてのお悩み

先日お墓づくりのご相談にいられた方は、親のお墓についての話し合いが、いつの間にか本家の跡取りをどうするのかということになってしまい、養子縁組をする? しない? の話にまで発展しました。

「お墓が必要になったので、つくってくれないか」というストレートな依頼は、年々減少傾向にあります。

近年、家族の構成も流動的に変わってきております。ひと昔前のように長男が家を継いで、次男、三男が分家の初代となるようなご家庭は、少なくなりました。お墓について真剣に考えていくと、家族の未来につながるのです。

女の子ばかりでお墓をつくってもよいのか

男子の跡取り問題とは逆ですが、お子さんが女子だけの場合もあります。亡くなったご主人を供養する為に、墓地の確保はひとまず出来た。しかし将来娘たちがお墓を負担に思ってしまったら心配で、お墓をつくるべきか迷っている。そんなご相談も増えています。

また御夫婦にお子さんがいらつしやらないため、自分たちが元気なうちはお墓を守ることが出来るけれど、二人とも亡くなった場合、お墓を見る人がいない・・・というご相談も。

最近は結婚をしないで、独身のまま生涯を終える方もいます。そういった場合、お墓をつくるのがそもそも出来ないというケースとなります。多くの場合、お墓を持つているご親族と一緒に面倒を見たり、縁のあるなたが供養する場所を探すことになるようです。

遠く離れた都会で故郷にあるお墓とどう付き合っていけばよいのか

そしてまったく逆の悩みを持つ方もいます。たとえば「先祖から受け継いだお墓がいくつもある。だけど自分は故郷から遠く離れた都会に出てきてしまった」「遠方のお墓とどう付き合っていけばいいのかわからない」このようなお墓もご相談もごさいます。

お墓を取り巻く環境は、人の移動や習慣、生活様式の変化により、かなり様変わりしました。どなたも真剣にお墓について悩まれており、親御さんや自分が死んだ後、お墓はどうなってしまうのか、皆さま不安を感じています。

お墓づくりと人生を豊かにする生活について 真剣に考える

これらのご相談は、お一人で完結いたしません。本来は家族や親戚との話し合いをしながら、時間をかけ、少しずつ解決すべきものなのです。私たち墓石店が出来ることは、より明確に具体的なお墓のある生活を想像できるようにお手伝いすることです。

お墓のある生活と無い生活、どちらがお客さまの人生をより豊かにするのか。その一点を真剣に一緒になって考えます。

矢田石材店では経験豊富な者たちが、出口のないようなお墓相談にもお答えしています。ご都合のつく方はぜひ一度お越しください。話をするだけでも気が晴れると評判です。

お墓づくりの流れ①

お墓づくりのコンセプト

新しいお墓の完成を目指す方々に向けて、お墓づくりの流れについて、何回かに分けてお伝えします。本来、お墓づくりはご検討の期間なども含めて、半年ほど必要です。そんな中でまずはじめに取り組んでほしいのは「お墓のコンセプトづくり」です。

なぜお墓をつくるのか

お墓のコンセプトがあれば、お墓の形やデザインなどを検討するときに思いがブレません。お墓づくりで一番大切な「なぜお墓をつくるのか」という部分を最初にハッキリさせておくことで、後々「こんなことがしたかった訳じゃない・・・」という後悔がなくなります。

お墓づくりを決意され、前に進もうとされている方が陥る間違いとして、石やデザインなど、目で見えることばかりに夢中になってしまう事が上げられます。

お墓づくりについての考えをまとめる

たしかにそれらのことも大切なのですが、その前に、お墓づくりの核となる部分「何のためにお墓をつくるのか」「誰のためにお墓をつくるのか」ということを、真剣に考えてください。とはいえ何もないところから「お墓のコンセプトは？」といわれても、スラスラと出てくるはずありません。お墓づくりの考えをまとめるツールがご紹介しますので紹介します。

情報伝達の考え方を応用したワークシート

弊社主催の「お墓づくり勉強会」では、「お墓の5W1Hを考えよう」というワークシートを使って、お墓のコンセプトづくりに取り組んでいただきます。5W1Hとは、その内容をまとめて伝えると、情報がわかりやすくなり、抜けや漏れのない伝達が出来る考え方です。この情報伝達の考え方をお墓づくりにも応用しています。

お墓の5W1Hを考えよう

5W1Hとは、いつ (When) どこで (Where) だれが (Who) なにを (What) なぜ (Why) のように (How) という「6つの要素をまとめた情報伝達」のポイントのことです。

いつ【When】何時までお墓につくらなければいけないのでしょうか？また最適な時期はいつなのでしょう。

どこで【Where】何処にお墓をつくる予定ですか？墓地がある方は所在地、無い方は墓地の希望を思い描いてください。自宅から観た最適方位が気になる方はご検討項目に追加してください。

誰が【Who】お墓をつくる人は誰ですか？完成したお墓に対し、お参りする方は誰ですか？

どのように【How】お墓そのものについてお考えください。宗派のしきたりに沿ったお墓なのか、地域的な慣例に沿ったお墓なのか、それとも自由に家族の意見をまとめたお墓にするのか、など。お骨の納め方や、形、石材の種類などについても希望を出してみましよう。

何のため【What】お墓で祭られる方は誰でしょうか。また今後お墓で祭られる可能性があるのはどなたでしょうか。考えられるすべての方、その可能性を広げて考えてください。

なぜつくるのか【Why】そもそもの話ですが、なぜお墓をつくるのですか？お墓をつくることで期待されることは何でしょうか？出来上がったお墓をどのように守って行くのですか？

ご家族の意見を1つにしたコンセプトを完成させる

これらの6項目についてご家族皆さんで意見を出し合い、その上でお墓づくりのコンセプトを一言で表します。たとえば「家族みんなが帰って来ることのできる場所づくり」「母への感謝をお墓にする」「私たちらしさの象徴としてお墓をつくる」などです。

このような内容を考えるのは正直、骨の折れる大変な作業です。しかしお伝えした6項目に対して、お墓づくりに関わる皆さんの意見や意識が反映・統一されていれば、お墓づくりが頓挫することはありません。後々「こんなはずじゃなかったのに…」という後悔も起こりません。

お墓づくりの流れ②

お墓の種類とデザイン

お墓づくりの流れ第2段階です。今回はコンセプトづくりがある程度カタチになったという前提で、「何を」「どのように」の項目に該当する「お墓の種類とデザイン」についてお伝えします。

宗教的な意味合いを強く反映させるかどうか選択

お墓のデザインについては、そのカタチが各宗派や宗教的な意味合いを強く反映させるかどうかということと、地域性を取り入れて周囲の方々との調和やしきたりを重んじるのか、否か。そしてどの程度まで、自分たち家族の独創性を出していくのがポイントです。

まずカタチの注意点として、「和型墓石」とか「洋型墓石」などといった事よりも、仏教式なのか神道式なのか、それともキリスト教式なのかという宗旨宗派を前段階で

ご確認ください。その上で、たとえば神道の方ならば、昔ながらの神道式のお墓をつくるのか、否か。落ち着いた石目の石材を使うのか、それとも最近のお墓に見られるような、独自性のある石の色を使うのかなどを検討します。他にも思想的な意味合いを強くするかどうかなど。宗派ごとの特色をカタチで表現する場合、お花立や線香立の有無、卒塔婆を立てるかどうかなども検討します。

地域的なしきたりに従うかどうかを選択

地域的なしきたりに関しては、たとえば提灯立を配備するか、どうなのかなどの検討事項がございます。地域によつては、お盆の時期に墓前で火を灯すための台座が必要な場合もありますし、お墓の大きさを考える時、絶対に本家より大きなお墓をつくつてはいけない地域もあるでしょう。時には暗黙の了解で、あの家のお墓よりも越えてはマズいというような独自ルールの存在する墓地もあります。普段から地域のコミュニティに所属して、墓地委員の担当者や、地域の重鎮方々からアドバイスが頂けるような努力を致しましょう。

独自発想のお墓にするなら

またどれくらい自分たち家族の独自性をデザインに盛り込むのかという問題。思想も関わってくることで、ひとりで済ますことは出来ません。お墓は死者に尊厳をもたらす礼拝の対象です。以前にデイズニーランドみたいなお墓をつくりたいという方がいらっしゃいました。理由が「楽しそうだし、変なお墓はいっぱいある」との事でした。さらには「隠れミッキーをたくさん彫刻したい」と相談されましたが、お墓の本質やあるべき姿をお伝えし、断念して頂きました。

お墓は私たち墓石店が考えてつくるものではありません。お墓をつくり、守って行く方々の想いや、故人さま、ご先祖さまへの願いが反映されて然るべきものです。自分達らしさを反映させるのであれば、お墓参りに来た誰もが、自然に手を合わせて頂けるような、そんなお墓を目指してください。くれぐれもデザインの懲りすぎはなさらないように。ご自身達だけでは判断できなくなってきたら、いつでも遠慮なくご相談ください。

お墓づくりの流れ③

墓石選びのポイント

実物を確認すること

お墓のデザインなど、実際のカタチが決まったら次に石選びの段階へと移ります。「石を選ぶ」という項目は、お客様からいただく御声の中でも、「一番わかりづらい」と言われます。その理由としては、石の見定めがまず出来ないということ。そして教えてもらったとしても、よい、悪い、の判断がしづらい事が上げられます。今回は出来るだけわかりやすく、石選びのポイントについてお伝えします。

石選びは見た目でお選びいただくのが一番

宝石や観賞用の石の目利きを得意として、鑑定する仕事は世にございますが、お墓の材料となる墓石用の石を鑑定する仕事はありません。お墓の石を「この石は上玉だ」

「イマイチだ」というやり取りは、石材店が行うだけ。墓石に使われる石の目利きについては、決まった鑑定方法などなく、経験と知識のみが頼りとなります。少々厳しい言葉ですが、未経験の方に墓石用の石材を見分ける事は出来ません。

ではどうしたらよいのか。私共のお奨めとしては、石選びは出来るだけ余分な情報を見聞きする前に、ご自身のインスピレーションを頼りに見た目でお選びいただく事が一番です。色合いや石の柄、模様などを見て「キレイだな」と思う石や、なんとなくいい雰囲気で気持ちの落ち着く石を選んでください。選んだ石が高額な場合は、予算に応じて似た雰囲気の石をご提案することも出来ます。

出身地域の有名石材や環境に合わせた石材もオススメ

その他の判断基準としては、石の採掘場や地域で選ぶという方法があります。もともと典型的なわかりやすい選び方です。愛知県の方であれば、地元岡崎や豊田の石を選んでいただく。九州や四国出身の方であれば、ご両親やご自身の出身地で採掘されている石材を選ぶ。その

他、家族の思い出の場所辺りで採掘されている石を選ばれる方もいます。

もう1つのポイントは、お墓がつくられる場所の特性を考え、石の持つ性質に重点を置いて選ぶ方法。たとえば海が近い墓所なので、潮風に強い石材を選ぶなど。湿気の多い地域であれば、吸水しても変化や劣化しにくい性質の石を選びます。鉄工所や線路沿いの墓地でお墓をつくる場合、鉄粉によって石がさびることが予想されます。そのような墓所の場合はさびにくい石や、さびても見た目の変化が分りづらい石を選んでいただく。墓地の環境に合わせて石を選ぶことは、お墓の美観を長くきれいに保つコツとなります。

失敗の経験がモノをいう石材選び

石の見分け方については、私たちのこれまでの知識の蓄積と、数多くの石に触れてきた経験が担保です。ある程度、こちらにお任せいただくしかありません。毎年時間をとり、定期的にさまざまな地域や国へ足を運び、自分の目と手で確認するように心がけています。

私をはじめ世の石材店の方々は、過去それなりの失敗があるのです。時には大金を失うこともあり……。その体験が蓄積され、目利きとなります。海外の石材が

輸入されはじめた頃には、海外の石材を日本の石だと偽って買わされたこともあります。有名ブランド石材と思って石を仕入れましたが、実は違う山で採掘されていたこともありました。さまざまな失敗を重ねて知識を得ていきます。石選びに失敗はつきものですが、皆さまのお墓づくりに失敗は許されません。なので私どものような数多くの失敗を経験した石材店と組むことが、よいお墓づくりへの近道です。どうぞご活用ください。

お墓づくりの流れ④

日本の石・地元の石

「お墓の石の選び方」についてのお話で、いくつか石選びのポイントをお伝えしました。今回はとくに日本の石、地元の石に特化して石の特性など詳しく解説します。

岡崎の石や豊田の石

この中部圏でお墓用の石材と言えば、岡崎の花崗岩。その中でも青石と呼ばれる、「牛岩石」「吉祥石」「小呂石」が最高級墓石材として有名です。その特徴は「細目」と呼ばれている、きめの細かい美しい柄です。色合いは青みがかった濃いグレーとなっていて、よく知る「青」とは少し違います。その他には、「中目」の石で、夏山石、宇寿石などの白っぽい石です。岡崎の石は全般的に、光が当たると石の表面がキラキラと輝いて見える成分が多く含まれていますので、墓石として加工されると、とても品があり美しい仕上がりとなるのです。

そして意外と知られていませんが、豊田市にも採掘場がございます。豊田の石は少量ですが、お墓用の材料として使われています。また足助で採掘されている石は「荒目」と呼ばれ、大まかな柄の石です。お隣岐阜県で有名なのは蛭川のさび石です。墓石用としてはあまり使われていませんが、灯籠や建築石材として使われています。

愛媛県の大島石、香川県の庵治石など

その他の地域の石では、愛媛県の大島石、香川県の庵治石などが有名です。庵治石は「細目」「中細目」「中目」というように、石目の細かさで大きく3分類されます。この石目の細かさを表す分類がわかりづらい。

一般的な石の分類で細かい柄を「細目」、反対の細くないものを「粗目」といいます。その中間の石が「中目」。その「細目」よりさらに細かい「糠目」と呼ばれる石もあります。ちなみに太目という表現や細かめという言葉の使い方はいたしませんから、少々ややこしくなっています。

インスピレーションで石を選ぶ

お客様が「石の選び方が分らない！」と困惑される要因として、石の名前や種類などの情報が、一般的な表現などからかけ離れて入れて、専門的すぎる事が上げられます。なのでそのことを理解する為に時間を割くよりは、インスピレーションを大切にしていただき、「お父さんだったら、どの石だと喜ぶかなあ」と想像しながらお選びください。亡くなられた故人様を想いながらお墓をつくる事が、一番のご供養ですから。心に「ビビビ！」っと、感じたお石をお選びいただくことが一番です。

石を選んで頂いて、その石が墓地に馴染むかどうかは専門家である私どもにお任せください。石は見せ方や表現の仕方でいかようにも見栄えが変わります。どうぞ遠慮なくご相談ください。

お墓づくりの流れ⑤

墓石の加工や構造注意点

石選びの次のトピックとして、墓石の加工や構造について幾つか気を付けて欲しいことがございます。墓地に行って完成したお墓を見れば、外見からお墓のカタチがどういったものかは、ご想像がつくと思います。しかしお墓がどのように加工されて出来ているのか、そしてお墓の中の構造については意外と知られておりません。今回は石の加工やお墓の構造についてお伝えします。

お墓のカタチに切った石の面を 砥石で磨くと光る

まずは加工について。お墓に使われる石はピカピカに磨いてあります。しかし元々はあんなに光り輝いていません。ゴツゴツした石をお墓のカタチに切断し、切った面を砥石で磨くとピカピカに光るのです。

磨きの工程は各石材店によって違います。弊社では7

〜9工程で磨き上げます。粗い砥石から順番に下地をつくっていき、細かい砥石で仕上げるのです。最後は表面に汚れが付きにくくなる加工を施し、出荷となります。海外で加工される石もおおむね同じ流れですが、工程の数が国内の方が若干多めです。

長い期間、劣化しないお墓は シンプルに作ること

現代では、かつての途中工程が石の表面仕上げに使われる場合もございます。

たとえばビシャン仕上げといって、石の表面を叩いて荒らし、独特の風合いを醸し出す技法。この加工方法は灯籠などに多く用いられていますが、お墓の表現方法としても用いられています。

この他には、石の磨きを少し抑えて、ピカピカにしない「水磨き」という加工法もあります。艶消しな雰囲気です。磨き部分と、艶消し部分とのコントラストでお墓の表現に幅を持たせる方法です。

知っておいて欲しいことは、機械で研磨した輝きと、手加工で研磨した輝きは、年月が経ったときに艶の残り方に差が生じます。長い期間劣化しないお墓をお望みで

あれば、細かい細工は極力減らし、できるだけシンプル
なつくりにされることをお勧めします。

地震に強い内部構造に加工する

内部の構造の加工については、完成後は確認できません。石に凸凹とくぼみを加工して組み合わせると、出来上がりは同じようなお墓に見えても、強度の上でかなりの違いが生じます。お墓の構造で地震に弱い部分は「竿石」と呼ばれる一番上の細長い部分と、土台部分を構成する石の内部に出来る空間です。

竿石が弱い理由はわかるとは思います、内部の空間については少し補足をします。この地域のお墓は、ご遺骨を骨壺から出して、土に還す方式の納骨方法で祭られます。そのため中心部を空洞にする必要があるのです。

しかしこの内部空間は地震に弱く、度々起こる大震災で墓石が倒壊する原因とされています。空洞部分を石で囲うだけでは、大きな揺れや衝撃があつた際に壊れるのです。弊社では必ず金具で補強を行い、石材同士が支え合い、内側に倒れない構造となる加工を施しています。

石材の加工が施されているか 購入前にしっかり確認

その他、加工に関して気を付けてほしい事としては、海外製の墓石です。近年のお墓は海外から輸入される、加工済みの石材が主材料となっています。しかし海外の石材をそのまま墓地へ運ぶのは、雑なお墓づくりになりかねません。弊社では必ず自社工場再度加工を施しています。補強を施すなり、なんらかの手を加えないと、きちんとしたお墓にはならないと考えているからです。

ご先祖さまやお亡くなりになられたご家族を、丁寧に
ご供養されたいのであれば、石材の加工がどのように施
されているか、お墓購入前にしっかりとご確認ください。
弊社各展示場ではお墓の内部構造をご覧いただけます。
ご希望の方には詳しくご案内しますので、遠慮なくご相
談ください。

お墓づくりの流れ⑥ お墓の保証

お墓の保証についてお伝えします。はじめに重要となるのは、石という特殊な素材を用いてお墓をつくっているという認識です。大前提として、石の見た目は必ず変化します。そして墓石は100%天然素材によってつくられています。同じ石製品の石灯籠や石仏などは、その変化を楽しむものと言われています。この事をまずは頭に入れておいてください。

それぞれの石材の特性を考慮

あまりにも激しい変化以外は、石という素材を使用している以上、起こり得るものとして、お客様にはその事を受け入れて下さるよう事前に説明しております。ただ石にキズやヒビが入ってしまった時などは、お取り換えや修繕という対応となります。これは石の経年変化と違って、墓石が壊れてしまう可能性があるからです。普

段使いのお墓としての強度が保てなくなる場合は、こちらで判断してお取り換えしています。

石にキズやヒビが入る原因

石材のキズやヒビなどは、石の内部にある「こもり傷」などが原因となります。お墓の材料となる石材は、地中の岩盤から大きな石を切り出したものですが、その中で石にかかっていた地面の圧力が無くなり膨張することがあるのです。丁度深海魚を釣り上げてふくれる光景と同じようなもので、石の内部が膨らむ結果、表面にキズやヒビが入ってしまうという訳です。

ちなみに石を岩盤からはがす時に火薬を使いますが、その時の衝撃で内部の傷が刺激され、少しずつ開いてく場合もあります。とくに冬場、寒い地域では凍結が起きます。墓石の表面や内部に水分が残っていると、凍結による膨張で石肌が痛み、傷が表面化する訳です。

矢田石材店では毎年一回お墓のメンテナンス

このような墓石のキズやヒビを見つけるにはコツが必要です。一般の方々では見つけられないキズもあるので

さい。

す。弊社ではお墓を建立してくださった方へのサービスとして、毎年一回、職人が墓地に伺ってキズなどの確認や、汚れ落としのお掃除メンテナンスを行います。プロの視点で、石の異常を見つけるといいう仕組みがあるのです。

石の変化を前向きに楽しむ

石の変化については、日本のとある石材に関してお伝えしますと、鉄分が多いため、経年で赤やオレンジ色に変化します。その変化を「仏様が来てくださった」「魂が入った」と前向きに考える流派もごございます。

目に見えない現象を、あえて変化する石を用いて可視化する試みです。この話は一例ですが、石の変化をよいものとして捉えるか、ダメなものとして捉えるかで気持ちには随分と変わります。

車や冷蔵庫も長い間使用していれば、なんらかの異常が発生して修理も必要です。それらのすべてを保証対象とするのか、経年劣化ととらえるのかで、金額も対応も随分変わってくるものです。墓石の場合であれば、石は必ず変化するものと認識してください。変化自体を楽しむ気持ちでいてくださると、つくるこちら側も、保証なりメンテナンスを快く行えます。どうかこの辺りの石の特性をご理解いただいて、お墓の建立に取り組んでくだ

神話から読み解く お墓はなぜ石なのか

日本神話にはすべての答えが書いてある？

令和となって見直されている日本の神話から、お墓はなぜ石なのかを読み解いていきましょう。新元号「令和」の語源が「万葉集」にあることや、天皇陛下の即位の儀式などで3種の神器がクローズアップされ、日本書紀や古事記などの古典が話題になり、書店でも大きなスペースで展開されています。古事記にはお墓がなぜ石でつくられているのか、そしてお墓に備わった役目などが書かれています。

まずはじめにお断りしておきますが、古事記に書かれていることは寓話です。歴史書としての意味合いもございいますが、各地に伝わる伝承や神話をまとめて教訓のようにした物語。「ヤマトノオロチなど存在しないじゃないか」何ていう夢の無いクレームは勘弁してくださいね。

黄泉の国めぐり

それで古事記の中にあるお話でお墓と深くかわりがあるのは「黄泉の国めぐり」です。日本という国をつくったイザナキノミコトとイザナミノミコト。二人は協力して沢山の神様をおつくりになるのですが、火の神を出産したことにより、イザナミがお亡くなりになるという悲劇が起りました。どうしても妻をあきらめきれないイザナキは、死んだ人が行く黄泉の国へイザナミを探しに行きます。しかしイザナミは黄泉の国の食物を食べたため、現世には戻れない体になっていました。おどろいたイザナキはこの世へ逃げる訳ですが、イザナミは追いかけてきます。

そして現世と黄泉の国との境に、千人居てやっと動かせるほどの大きな石を置いて、お別れの言葉を交わしました。イザナミは「愛しい夫よ、私は毎日1000人殺してやる」といい、イザナキは「愛しい妻よ、それでは1500人生まれるようにしよう」と最後のお話をされたのです。この話は、人が生まれ、死ぬことになった起源です。今の日本では逆転現象が起こつてしまい、減る方が増えましたが、人の生き死についての示唆にあふれています。

お墓の話に戻しますと、石が関連して出てきましたよね。生きている私たちの世界と、亡くなられた方の世界は石によって隔てられるということ。そしてその石は加工された石である事。その辺りに転がっている石をそのままお墓にするのではなく、亡くなられた方を埋葬し、その上に石を乗せる事が読み取れます。そして重要なことなのですが、その石、墓石のことですが、石を通じて現世に居る私たちはあの世の方々とお話が出来るということです。墓石が通信装置となつて、私たちの想いをあの世の方々に伝えることが出来るというお話です。

お墓の原点千引石（ちびきいわ）

この千人がかりで動かせる石が千引石（ちびきいわ）。これが日本人のお墓の原点と言われています。千引石は「道返の大神（ちかえしのおおかみ）」と「塞ります黄泉戸大神（さやりますよみとのおおかみ）」といひます。「道返の大神（ちかえしのおおかみ）」は【道を返す】ということ、死者に対してこの世へ戻つてきてはいけませんよ、あの世で安らかに眠りください、という意味が含まれます。「塞ります黄泉戸大神（さやりますよみとのおおかみ）」は【黄泉の国の扉を塞ぐ】という意味があり、この石にはこの世とあの世の境界となる霊力があり、お

互い別の世界へ踏み入つてはいけません、ということを示すのです。

このことから、イザナキをこの世、イザナミがあの世という対比構造があり、石がその境界であると読み取れます。そしてその石を通じてお別れの言葉を交わしたとされているところですが、これについて昔は男性優位の社会で、男の人から女の人への三行半と読み取る方も居ますが、墓石店さん達はそう読み取っていません。ここでも対比構造としてイザナキを文化、イザナミを自然、その比喩であると捉えます。自然の理である死そのものがイザナミです。人は必ず亡くなります。これは動物も同じ。しかし人間である私たちはその死に意味を持たせます。「死んでしまった」「腐ってしまった」ではなく、大切な人の死に尊厳をもたらしめます。それが死者を埋葬し、墓石をつくり、お参りをする行為です。そうすることで文化が生まれ、思想が育まれます。なのでイザナキが文化なのです。

古の時代からやつぱりお墓は石だったということ、そして石である理由がしっかりと、神話にも書かれているという話でした。古事記をはじめとする神話は、メタファー、たとえ話なので、文面そのままに読むでは本質を見逃して荒唐無稽なただの作り話になってしまう。世界各国の神話も同じく、その民族の文化、思想に大きく影響しています。ご参考下さい。

岡崎の「高級石材」を 使って至れり尽くせりの お墓づくり

「青石、三州みかげ」と呼ばれている 地元岡崎の石の種類

地元岡崎の石は「青石」や「三州みかげ」と呼ばれています。実は採掘される山によつて、もつと細かく名前が付けられています。有名なのは「牛岩石」「吉祥石」「小呂石」の3種類。その中でも一番人気があつて高級とされているのが「牛岩石」。矢田石材店でも一年を通してもつとも出荷数の多いものが、この「牛岩石」です。

「牛岩石」など、岡崎の石の特長

これらの石の特長としては、山から石を切り出して、工場で加工して墓地までの流通がとても透明である事。

岡崎以外にも有名な石があるのですが、それらは採掘業者だけでも何十社とあり、どこの石かハッキリしないものもあるのです。

たとえば香川県の庵治石や愛媛県の大島石では、産地証明書が石材の真偽の担保となりますが、岡崎の石は違います。「牛岩石」であれば出元は一つしかありません。だから私たちのようなお墓を最終消費者にお届けする地元の墓石店にとっては、一番安心して使える石でもあるのです。

人気の秘密は最高級の石である事

人気の秘密は石そのものの質がよい事ではなく、見た目の美しさや品の良さ・そして最高級の石であるというブランドとしての価値です。岡崎の石についてハッキリ申し上げると、他の石に比べて手間がかかります。たとえばエルメスのブランドバックなどと同じで、見た目が美しく品がよい分、その状態を長く保つ為に、お手入れの手間が掛かります。

エルメスのバックは一回使うごとにクリームを塗って大切に保管しますが、最高級と呼ばれる石も同じです。正しくお手入れしないと、見た目の美しさが損なわれ、表面に汚れが付き、傷みも激しくなってしまう。そ

こで矢田石材店では定期的なメンテナンスを行なっています。

最近のお墓のトレンドと高級石材

岡崎の石など、日本の高級石材はどちらかというと加工やお手入れのしやすいデザインでつくられてきました。具体的には四角い部材が多い和型墓石です。しかし最近になって、こういった高級な石材を使った洋型のお墓やデザイン墓石が増加する傾向にあります。

本来、洋型デザインのお墓は丸く加工したり斜めにカットするため、歩留まりが悪く、石そのものの値段が高額な日本石は敬遠されてきました。ところが最近の傾向は大きな部材ひとつで形づくるのではなく、細かい石材の組み合わせで石材のロスを減らします。そしてすべてを国内産の高級石材でつくるのではなく、一部に安価な海外の石を使うなどして、組み合わせを工夫したお墓づくりが増えていっています。

また強度については一つの石から削り出しでつくる方が強いと言えますが、補強金具や内部構造を工夫することによってお墓としての使用に十分耐えられる強さを確保します。そうすることで出来るだけ安く、格好のよいデザインのお墓をつくる事が可能になっています。

価値観を共有して一緒になってお墓づくり

地元岡崎の高級石材を使ってお墓をつくる場合は、お施主さまの価値観がとても重要です。「お金さえ払えばいいだろう」という方は、正直厳しいです。私たちも時間をかけてさまざまな工夫や研究を行って、より価値のあるお墓づくりを心掛けております。その姿勢にご共感下さり、一緒になってお墓をつくらうという方には、「至れり尽くせり」で、これでもかというほどのお墓となります。地元の石でお墓づくりを成される場合は、とくに完成を期待して頂きたいですね。

お墓との相性も抜群！

日本国中で有名な

「大島石」とは

岡山県の石材加工場で知った愛媛県の石事情

岡山県で仕入れて来たお話です。まずは岡山県の石には「北木石」、「万成石」という名の有名な石があります。これは2つとも特徴のある石で「北木石」は中目で山が大きく、長いものや大きなものが採れるため、お墓以外にも色々な建物に使われています。

万成石は淡いピンク色の石材です。日本には万成石と同じような石が少なく、重宝される素敵な石材です。しかし今回はこの岡山県の石材加工場などへ行った時に耳に入った、愛媛県の石事情について詳しくお伝えします。

日本を代表する石材、愛媛県の「大島石」

愛媛県と言えば大島石が有名です。大島という名の離島から採掘されている石。大島石は日本全国で流通されていて、石材店だけではなく、お墓をつくらうかなと思っただけの方にもある程度知名度があります。皆さんが石の事などを調べようとすると、まず名前があがってくるような、かなり認知度の高い石で、お墓関係の本やカタログには必ずと言っててもよいほど記載されている日本を代表する石材となっております。

採掘されている量も非常に多く、年間で12万才（さい）です。※才とは石材の量を示す単位で、約30cmです。花崗岩の1才（さい）あたりの重さは約80キロですから、9600トンの石が採掘されていて、日本一の採掘量です。ちなみに日本第2位の採掘量は茨城県の真壁石で、大島石の約半分の採掘量。もともと掘った石のすべてがお墓になるわけではありませんが・・・。

どんな地域にもあった飽きのこない石材

なぜ小さな島で採掘されている大島石が日本一の採掘量を誇っているのでしょうか。その理由は小さな島で採

掘されている為、石を運ぶ手段がすべて海運ということ
です。重たい石は陸を通って運ぶよりも、船で海を渡っ
て運ぶ方が適した素材です。関東や関西の都心に近い山
で採掘されている石以上に、大島石の方が大きな石を大
量に石を供給できたという訳です。

こういった経緯もあり、日本全国で大島石が流通し、
名前も知れわたり、数多く使われてきました。しかし大
島石の特徴を地元の方々に聞いてみると、「特徴の無いの
が特徴」と言われます。白色の中目系の石で、どこにで
もあるような石材です。逆にその特徴の無さが、どんな
地域の石造物やお墓とも相性がよい理由なのです。食卓
にならぶ白飯のように、どんなおかずにも合いますし、
毎日食べても飽きがこない、そんな石材が「大島石」です。

矢田石材店で取り扱っている大島石は 最上級品

矢田石材店の展示場にある大島石でつくられた墓石を
見ると、皆さん驚かれます。「大島石ってこんなに色が濃
くてきれいだったけ」と、そして値段を見て「よその墓石
店さんで見たモノよりもだいぶお高いね」とさらに驚か
れます。実は、矢田石材店で取り扱っている大島石は、

数ある大島石の丁場の中でも最上級のピッカピカの特級
品。大島石に興味ある方はぜひ一度お越しただいて、
その実物をご覧ください。※もちろん、その他の普通の
大島石も取り扱っています。ご予算に応じてご提案しま
すのでご安心ください。

「花崗岩のダイヤモンド」と呼ばれている庵治石の魅力

香川県の庵治石は日本一

お墓に使われる石の事を様々お伝えしていますが、今回は「庵治石」をご紹介します。庵治石は「日本三大産地」の一つ香川県の石で「花崗岩のダイヤモンド」と呼ばれていることもあり、お墓用の高級石材として日本中で高く評価されています。全国的に使われている石材の中では希少性が高く、採掘場に行くと防犯カメラとバリゲートでガードされており、簡単に言ってしまうと、日本一高額な石なのです。

庵治石の特徴とは

庵治石の特徴はきめ細かな石肌で風化に強く、磨けば磨くほどツヤが増していきます。「斑（フ）」と呼ばれる

斑点が、石の全面で綺麗に見られ、他の石には無い珍しい表情が現れます。本当に綺麗な石になれば表面が立体的に見えるほどです。

実はこの斑点は、庵治石以外の石材でも時折みられる特徴です。しかし切り出した石全体に綺麗な斑点が揃い、美しい見た目になるのはこの「庵治石」だけになります。他の石材の場合は「ムラ」とか「流れ」などと呼ばれて、高級材どころか排除対象となります。広い範囲で綺麗な斑点を見られるのが庵治石最大の特徴です。

水晶に近い硬度を持つ庵治石は貴重品

庵治石以外の石材全般にも言えることなのですが、花崗岩は石の組織の大きさによって、細目（こまめ）と中目（ちゅうめ）、粗目（あらめ）と分類されます。庵治石も同じで細目と中目に分類されていて、貴重品種として高い値で取引されているのは、きめ細かな模様の細目（こまめ）です。その中でも特に石目が美しいものは「細目極上」という名称で取引されています。

また水晶に近い硬度を持っているのも「庵治石」の特徴。彫られた文字・模様が200年以上も崩れず、変色したりツヤが無くならないのも、この硬さのお蔭です。

日本中の人を惹きつける圧倒的な存在感を持った石

高額な「庵治石」は誰にでもお勧めできる石材ではありません。採掘量を岡崎の石と比べた場合、庵治石の方がはるかに多いのですが、日本全国から注文が入るため、希少価値が高まるのです。とはいえそのことが人気の秘密ではありません。特徴的な美しい見た目、建立された時の圧倒的な存在感、「庵治石」は他の石には無い日本中の人を惹きつける力を持っているため、人気になっているのです。

よい石を手に入れたい方は実績のある弊社へ

ちなみに最近ではお墓をインターネット通販で安く買う人もいますが、「庵治石」のようなよい石を初心者が入れるのは非常に難しいです。よい石を選ぶとすると実績がモノをいうのはどんな世界も同じ。弊社は先代の頃から香川県の石材業者と深い交流がありますので、庵治石の最上級品からお値打ち品までご用意できます。どうぞご活用ください。

地元の石でお墓づくり！ 歴史ある岡崎の石の 起源に迫る

岡崎は石材の日本三大産地の一つ

お墓で使われている「岡崎の石」についてご紹介します。岡崎市は全国に名高い石の町で、日本石材三大産地の一つとされています。三大産地とは「茨城県の真壁」、「香川県の庵治」、そして、「愛知県の岡崎」です。それぞれ真壁は関東圏、庵治は関西圏、岡崎が中部圏の石の供給源ということになります。

日本においての石材産地はよい質の石がとれるだけではなく、石を加工して品質のよい石製品をつくる機能があることを同時に意味します。岡崎も石が採れるだけではなく、腕のよい石の職人がたくさんいるため、産地として認められているのです。岡崎の石の歴史について少しお伝えすると、今から約400年以上前までさかのぼ

ります。

石都・岡崎の歴史とは

天正十八（1590）年、岡崎城主の田中吉政が城下町整備に関わる堀や石垣づくりに必要な石工を河内・泉（今の大阪あたり）から招き、隋念寺門前の土地に住まわせ保護しました。このことが岡崎における石工業の起源といわれています。他にも起源については諸説ありますが、いずれも400年以上の歴史があると伝えられています。石垣づくりを終えた石工たちがそのまま岡崎に住み着いた理由としては、岡崎で良質の花崗岩が産出されたことが大きな要因です。そして当時は東海道の宿場町として多くの旅人が訪れ、石工たちの作った石製品が良質なものと全国に知れ渡りました。石製品の運搬に関しても、矢作川から三河湾へつながる海運によって、江戸やその他の地域へ運ぶことが出来たものの、産地として発展してこれた要因の一つです。これらの背景があり「石都岡崎」として、全国的にも珍しい独特の石産地としての歴史を積み重ねてきたのです。

岡崎市内で採掘される青石

「岡崎の石」の特徴としては、良質な御影石（花崗岩）ということ。主には石目の細かい細目と呼ばれる青石系と、白色の中目と2種類あります。墓石の高級材として使われるのは「青石」の方です。グレーといえば、グレーですが、石の中では青みがかった色合いで目が細く、硬度が高いため形状が崩れません。

岡崎市内で採掘される青石には「牛岩石」「吉祥石」「小呂石」などがあります。地元で採掘されているので、運賃などがかららないため、他の地域の石材よりも安価だろうと思われる方がいらつしやいますが、残念ながら逆なのです。原材料である石の原価は全国の石材と比較してもかなり高額。また色合いが濃いので、綺麗にそろえるために多くの石材から厳選する必要があります。その結果、自ずと加工賃も高額になっていきます。

岡崎の石が高額な理由をさらに深掘しますと、郊外で石が採れる産地では、土地の価格も安く、石も割安です。しかし他の産地と違い岡崎は市街地から近い所で石を採っているために土地の価格も高く、採掘コストが膨らみます。墓石用の石として採掘されている石材の中では、全国トップクラスの金額です。さらに採掘してきた原石が墓石になる製材率も10%程度。結果的に岡崎の青石で

つくるお墓は高価となってしまいます。

地元の石でお墓をつくって故人の供養に

とはいえやっぱり地元の石です。私どものお店でもっとも多いオーダーは「岡崎の石」なのです。お墓をつくることは社会的にも経済的にも一人前になった証ですし、お亡くなりになった大切な人を供養するのにふさわしい石は何か？と考えたときに、やっぱり地元の石でお墓をつくってあげることが、故人さまのご供養になると考える方が多くいらつしやいます。

矢田石材店の各展示場には岡崎の牛岩石、小呂石、吉祥石の見本がございます。ぜひお時間のある方は見学に来てください。太陽と影の関係で、午後の方がより見え良くご見学いただけます。

美しい宮城県の伊達冠石の魅力とは？

日本各地の山へ

私は毎年時間を作って、各地の山へ石を見に行っています。宮城、福島、茨城あたり、四国の愛媛県や香川県、九州は佐賀県・・・もちろん岡崎と豊田の石も見に行きます。そういった日本の山で採掘されている石の産地に足を運んで、石そのもの、そして石について情報を仕入れています。今回は日本の鉱山の中から、矢田石材店でよく使われている石材でもっとも特徴的な、宮城県の「伊達冠（だてかんむり）石」を紹介します。

宮城県の伊達冠石

「伊達冠（だてかんむり）石」は、丸くて黒い石の表面をチョコレートでコーティングしたようなイメージの石

です。別名「泥かぶり」とも言われ、一見すると泥が被っているようにも見える独特な風合いを持ちます。日本国内だけではなく、海外の石を含めても独特の見た目や風合いのため、希少性も高く、つくる職人の工夫や技能によって仕上がりが変わってきます。

また、自然な風合いを生かせる石のため、出来上がったお墓は2つとして同じ形が無いものとなります。つまりオンリーワンということ。たとえ同じ石、同じサイズでつくったとしても、世界でたった一つだけのお墓になります。

美しい色の变化を楽しめる石

「伊達冠（だてかんむり）石」が持つ他の特徴としては、大きく変化する石ということです。通常、墓石は時間が経つと劣化し汚れてしまします。経年劣化に關しましては、普通はアンチエイジングとまではいきませんが、なるべく汚れないようにするため、石の変化が少なくなるような加工や施工を施します。

しかし「伊達冠（だてかんむり）石」は逆に変化を楽しめる石。どういふことかと申しますと、経年変化で少し青みがかった黒色から、赤っぽい色合いへと変化していきます。これは石に含まれている鉄分が空気や太陽光

に触れることで、酸化が進み二酸化鉄となり、その結果、鉄錆色を帯びることとで石の持つ本来の美しさを引き立たせます。まさに「年が経てば経つほど味がでてくる」石なのです。私の様な年々劣化していくおっさんからすると、なんとも羨ましい石です。

また原石そのままの風合いと、内部の黒いところを磨いた部分との色合いのコントラストや模様も変化します。「石は生きている」ということが実感出来る素材なのです。

彫刻家のイサム・ノグチさんの作品にも使われた伊達冠石

その美しさは、墓石のみならず空間設計・現代アートなど、さまざまな場面で用いられており、世界的に有名な彫刻家のイサム・ノグチさんの作品にも数多く使われたことでも有名です。採掘場にはイサム・ノグチさんが使っていたとされる工房があつて、永久保存とされています。また「伊達冠（だてかんむり）石」は岩盤から切り出してくるのではなく、土の中に埋まっている玉石を掘り出しています。

山に行つて石を見つける醍醐味

山に行くと色々な形状、大きさの石がゴロゴロ転がっています。その中から祈りの対象として、よいお墓になりそうな石を探します。たくさん石を見て、細長い石を見つけたらメインの竿石。まん丸のコロッとした石は輪切りにして墓誌にする。台座用にぼつてりした石を探すなど、山に行くと石探しが面白くて時間がいくらあつても足りません。

持つて帰れる石にも限りがありますので、候補をいくつか挙げておいて、いいお墓になりそうな石を最終的に厳選してトラックに載せて帰ります。定期的に山へ行つてよい石を探していますし、展示場にはお墓のカタチになった見本も並んでいます。ご興味を持っていただけましたらぜひ一度ご覧になつてください。お待ちしております。

海外の宗教と日本のお墓との関わり

日本のお墓について調べ始めると誰でも宗教との関わりが気になるものではないでしょうか？そこで今回は少し趣向を変え、海外の宗教と日本のお墓との関わりについてお伝え致します。

文化としてのクリスマスやハロウィンを楽しむ日本人

海外の宗教について言えば、まず思い浮かぶのはクリスマスです。ご存じのように元々はイエスさまの誕生日を祝うキリスト教の宗教儀礼ですが、日本国内ではサンタクロースが登場して、こども達にプレゼントを配って家族で賑わう一日となっています。また最近では仮装した人々が行進するハロウィンイベントも、元はヨーロッパ各国の宗教儀礼の一つでした。最近の日本ではクリスマス

スのような大きなイベントになっています。

日本人は色々な宗教儀礼を文化として取り込んで楽しむことのできる素敵な民族だと思っています。なぜかといえばこのように元々海外にあった宗教文化に「日本らしき」を加えて楽しいものに変化させる柔軟さがあるからです。考えてみれば、さまざまな仏教行事も同じことが言えて、お盆には「盆踊り」を行って楽しめますし、神社への「初詣」では気持ちも高揚して楽しい気分になります。

日本のお墓の元々はお釈迦様から

日本のお墓についても元々はインドのお釈迦様から始まり、中国を通り日本に渡ってきた事で、さまざまな変化を遂げて来ています。日本の仏教には各宗派ございます。お墓をつくるとき、「教義に沿ったお墓をつくりたい」という方もいれば、無宗教でも「お墓だけはつくってあげたい」という方もいます。このような考えを持つ方がいる中で、すべてのお墓を同じ形式に押し込んでいくことは、ほぼ不可能で、今後ますます厳しくなっていくのではと感じています。

さまざまに変化するお墓の本質とは

日本の人口は1億を越えています。これだけ多くの人がいれば、考え方や家族の状況もさまざまです。お一人毎日を過ごされている方もいらっしゃる訳で、多様化の時代にこれからのお墓はより一層さまざまな変化をしていくと予測されます。

最近では、これまでの一般的なお墓以外に「永代供養」や「樹木葬」などの様式も見かけるようになりました。見慣れないお墓を毛嫌いされる方もいらっしゃいますが、実はお墓には正しい、正しくないという基準がございません。想いを伝える場所なので、100人いれば100通りのお墓があつて然るべきなのです。

たとえば外国人の家族のお墓も日本式に合わせて作られます。弊社では以前に横浜の外国人墓地でドイツの方のお墓をつくらせて頂きました。お父さまがお亡くなりになられたということで、納骨のお手伝いにも伺いました。もちろん私はドイツ本国のお墓や宗教儀礼に関して詳しくなく、ご本人の希望でもありましたが、ある程度日本式のやり方や儀礼に合わせて行いました。この経験から私は、お墓の本質的なところはどの国も同じで、お亡くなりになられた方を家族が大切に想い、丁寧にお祭りし、故人へ感謝を伝えるためにあるのだと思います。

お墓とは幸せを交換する場所

お墓の本質について繰り返しますが、お墓とはお亡くなりになられた「故人の幸せを願う」場所で、家族は故人に愛されていたというありがたい気持ちを頂いて、こちらからは「ありがとう」という感謝を届けるという「幸せを交換する場」だと思います。遠方のご家族・ご親族が集まる機会がある時は、どのような関りでも構わないのでお墓と向き合つて楽しくお過ごしください。お墓参りやお墓をつくることを義務と思わずに、出来るだけムリのないように楽しんで頂けたら幸いに存じます。

お墓をつくる事や守ることを負担に感じられましたら、いつでも遠慮なくご相談ください。ご状況に合わせてアドバイス差し上げます。

お釈迦様のお墓と 日本のお墓

4月8日は花祭りに当たる日です。花祭りというのはお釈迦様の誕生を祝う行事で、全国各地のお寺では、この日に甘茶を振舞ったりしてお祭りを行います。そんなお釈迦様の誕生日を祝う花祭りに因んで、「お釈迦様のお墓と日本のお墓の関り」についてお伝え致します。

お釈迦様のお墓はサンスクリット語で仏塔という建築物を意味する「ストウーパ」と呼ばれるものですが、日本ではこのストウーパを「卒塔婆」と書いて「そとうば」と読んでいます。皆様にはお寺でいただくお塔婆の方が馴染みあるかもしれませんね。

お釈迦様のお墓については、「大般涅槃經」というお経に詳しく書かれております。このお経は、お釈迦様が亡くなる時に語られた遺言の様なお話がまとめられて、その中にお釈迦様が亡くなる直前「私が死んだら塔を建ててお骨をそこに入れ礼拝供養をしてください。顔料・

香料・花輪を手向けて清い心で祈りを捧げれば幸せが長く得られます」と説かれた様子が書かれているのです。

日本のお墓における供養の仕方

日本で顔料はお水、香料はお線香、花輪は生花や切り花として、それぞれお墓に手向けられます。顔料、お水はお墓をきれいにするためのもの。香料や線香はお墓の周りをいい香りで清めなさいという意味。花輪や生花を手向けるのは無機物である墓石、石塔に命を吹き込むために手向けられるのです。

またストウーパは積み上げるといふ語源を含んでいて「目に見える現象としては石を積み上げること」、「目に見えない本質からいふと徳を積み上げること」となります。なので日本をはじめ仏教思想のある国のお墓は石塔と呼ばれ、石を積み上げて作るのが基本なのです。

お墓は石を積み上げて作るのが基本

皆さんがお墓と聞いて想像する形は、このような仏教思想が元になってつくられた経緯があるのです。最近ではこのような話から逸れてしまったお墓も若干あります

が、基本的にお墓は下の土台が大きく、上の台座になるほど小さくなり、一番上のお石が細長く出来ています。これは積み上げた時に安定するように三角形のシルエツトになるように設計されているからです。

賽の河原でも、幼子がお父さんお母さんを供養するために、石を延々と積み上げると言われています。石を積み上げるのは、やはり仏教という「功德」を積み上げることなのです。仏教以外の国のお墓が平たい感じに作られているのは、このような思想とは違う思想を持たれているからです。

お墓参りの功德とは

このようにお香を焚くことも、水をあげることとも思想的な意味がきちんとあります。日本のお墓には、お伝えしたような仏教の思想がしっかりと残っていますから「お墓参りをすれば功德が得られます」と伝えられています。「うちの祖父はお釈迦様ではないけれど・・・」と思われる方も多いと思いますが、その為に戒名を頂き、ご先祖さまを仏弟子として供養して頂いているのです。

皆さんが何気なくお墓にお参りしている一つ一つの出来事に意味があつて、元々はお釈迦様のお墓から来ている

思想が、日本のお墓の根本にもある訳です。お墓参りの時にはこういう事を意識していただくのもよいかなと思います。

自家のお墓が正しいか間違っているかご心配な方は、いつでも遠慮なくご相談ください。お待ちしております。

宗派替えをしたお墓は トラブル発生の原因に

お墓や仏壇をどうしたらよいのか

最近「家族の都合で宗派を変えたら、お墓も建て替えてはいけけないのでしょうか？」とご相談をされる方が増えています。今回は宗派替えをした時のお墓の扱いについて考えてきましょう。

お墓において「宗派替え」という言葉は耳慣れない言葉です。簡単にいいますと、前の代からのご宗派を引き継がずに、自分の代で別の宗派や宗教に変えてしまう事をいいます。

なぜそのような状況になってしまったのかといえば、「葬儀の時、近所に実家と同じ宗派がなかった」とか「よく分からなかったので、奥さんの実家と同じお寺さんで世話になった」というケース。そして後になり「元々うちは〇〇宗なのに宗派が変わってしまった。お墓や仏壇

をどうしたらよいのか？」と、問題が発生します。

お寺の墓地などでは宗派が異なると 受け入れNGも

このように宗派変更をしてしまった場合、お墓も含めさまざまなトラブルが起ります。まず墓地には宗旨・宗派を問わない公営墓地もありますが、お寺などが運営している墓地では、宗派が異なると受け入れられない場合が多く、退去を命じられる可能性もあります。

仮に宗派を問わない場合でも、竿石と呼ばれる正面の文字が刻んである部分が「●●家之墓」や「先祖代々之墓」だったら影響はありませんが、宗教上の名号や題目が書いてある場合、手を加えるケースもございます。

お墓については4つの対応策の どれが必要

お墓に「南無妙法蓮華經」や「南無阿弥陀仏」と書いてある竿石は要注意です。宗派変更の場合は、文字を変更します。その場合、お墓については4つの対応策があります。

- ① 卒石を取りかえる
- ② 文字の部分を取り取り、磨き直し、新たに文字を刻む。
(卒石の痛み具合が少ない場合)
- ③ 板状の石を貼り、新しい文字を刻む。
- ④ お墓そのものを建て替える。

さらに宗派変更に伴って戒名も変わります。戒名はお葬儀の時に頂いているはずですから、過去のご先祖様達とは異なる戒名になるということ。この場合、ご先祖様の代までさかのぼる事は致しません。生前やお亡くなりになられた時に頂いた戒名は、その時々の方の状況に合わせてつけて頂いているはずですので、戒名を変えてしまう事は、家の歴史改ざんになってしまいます。すでに刻まれている戒名などはそのまま構いません。

宗派替えの影響によるトラブルを避けるには

このように宗派替えは意外と面倒なことも多く、後々親戚や家族間のトラブルにもなりかねません。宗旨宗派は前の世代から引き継いだ方が無難で、すべて丸く収まると思って頂きたいです。お葬儀の時に面倒だからと、楽な選択をすると、逆に後々面倒な事になるため、その場しのぎの宗派替えは極力お控えください。

宗派が違っても他人の葬式には手を合わせられますが、身内や親のお墓にはお参りが出来ないという話もよく聞きます。宗派替えは後でさまざまな影響が勃発します。トラブルにならない為にご家族・ご親戚としっかり話し合ってください。すべてが決まった後からでは遅いのです。

話し合いがまとまらなかったり、お寺に相談出来ない方のお話も伺います。長い話になりそうなときは、事前に御予約をお願い致します。時間をとって、じっくりご相談に乗らせて頂きます。

日本人の宗教行為

私の家では、毎年年末にお墓掃除に行つて、年始には家族揃つてお墓参りに行くという習慣です。我が家のお墓はお寺様の境内にありますので、最初にお寺の御本尊に礼拝し、その後でお墓に向かいます。子供たちは賽銭箱に小銭を入れる事が大好きなので、事前に細かいお金をたくさん用意しておきます。硬貨がないと紙幣を入れることになってしまいますから。子供のうちは「質より量」です。お寺へのご挨拶は、お参りをすべて済ませてからが我が家の習慣です。

もっとも多い「初詣」と二番目の「お墓参り」

日本人の宗教行為としてもっとも多いとされているのが「初詣」で、続いて「墓参り」が二番目となりますが、私はいつかお墓参りが初詣を追い越す日が来るのを夢見ています。矢田家は毎月お墓参りに行きますので、矢田家の統計では、すでにお墓参りは神社への参拝を越えて

しまいました。もっとも初詣は初と付くだけあって、一年で一回だけですが・・・お墓参りは一年中何回も行くことが出来ますので、回数だけはすでにお墓参りの方が多いと思います。

日本人がお墓参りに行く回数

さてここで日本人がお墓参りに行く回数について考えてみましょう。一年間の平均は何回くらいだと思いますか？ 諸説ありますが、私の持っているお墓についての意識調査データによりますと、平均すると一年に2回から3回の方が一番多く、全体の70パーセントです。また毎月1回はお墓に参りに行くという方は5パーセント、ほぼ毎日や週に一回はお墓参りに行くという方も1パーセントほどいらつしやいます。しかし残念なことに15パーセントほどの方はお墓参りに行かないという結果も出ています。この機会に一人でも多くの方がお墓参りに行かれると嬉しいです。

お墓参りのタイミング

またお墓参りのタイミングについて一番多いのはお盆、

二番目が春秋のお彼岸、三番目に故人さまの命日、そして四番目がお正月となっています。その他では故人さまの誕生日や法事、父の日そして母の日などにお墓参りをされる方もいらっしゃるようです。しかしこれらのデー々にとらわれることなく、行きたくなかった時に行ける環境の方は、気構えることなく頻繁にお墓に足を運んで頂きたいです。

海外のお墓参り事情は

日本でも地域によって習慣の違いがあるように、海外のお墓参り事情も国別、地域別にさまざま変わります。たとえば中国のお墓参りですが、日本でいうところのお盆は清明節（せいめいせつ）の時期で、4月のはじめ頃です。中国ではお国柄なのか、日本のように厳かなお参りをするのではなく、紙のお札や供物を燃やし、爆竹で大騒ぎして宴を開くものと聞いております。

またアメリカのお墓参りについては、宗教的にクリスマスが多い事と、文化的にもこちらとは違うため、日本のように熱心にお墓参りに行くという話は聞いたことがありません。墓地はどこまでも御遺体の安置所なので、死者のためにあるものという考え方や、死者を供養するという意識も私たち日本人と比べると少ないのではない

かと思えます。

お墓参りを通して生きていく活力を

日本のお墓を海外のお墓と比較して、どちらがよいとか悪いということはありません。また上下もありません。お互い違う者同士、認め合って、受け入れ、共存して行くことが大切です。日本のお墓参りに関しても回数や時間を競うのではなく、人それぞれ自分自身の思うままに足を運び、お墓参りを通して生きて行く活力を得られれば、それでよいのではと思っています。私はお墓という場所は争いではなく、自己を見つめ、他者を認める共存の場であって欲しいと考えています。

仏教のお墓と神道のお墓との違い

お墓のカタチで宗派を見分ける

お墓には「竿石」とよばれる細長い石材があります。一番上に載せられている部材。この竿石の形状を見れば、どんな宗派か大体わかります。たとえばてっぺんが尖っているカタチのお墓をご存じでしょうか？実はこれ、仏教ではなく、神道のお墓。神様を信仰する宗教として神道のお墓は、竿石の先端をトキン型（四角錐）に加工して尖らせます。

また仏教式の墓石に比べて、神道のお墓は細長くなる傾向です。一説によりますと、この形状は日本神話3種の神器でもある「草薙の剣（くさなぎのつるぎ）」をイメージしているといわれています。ちなみに仏教式の墓石で頭が丸くなっているのは禅宗のお墓。丸、円を大切にするため、お墓の先端の頭を丸くするそうです。すべての

お墓がそうになっている訳ではありませんが、おおむねそのような特徴がございます。

宗教によって変わるお墓の正面文字

仏教と神道のお墓で、その他の大きな違いといえば正面の文字です。通常お墓の正面には「〇〇家之墓」と刻まれています。神道の場合「〇〇家之奥津城（おくつき）」と刻みます。

そして仏教の墓石の花立は蓮の花を彫刻しますが、神道では御幣（ごへい）を彫刻するのが一般的。線香を手向けることもありませんので、香炉はつくらない。その代わりに玉串や供物を乗せるための八足台という台が必要となります。仏教式のお墓と比べてシンプルなのが神道式のお墓です。

神道には故人に諡（おくりな）が付けられる

神道に戒名はないため、お墓に戒名を刻みません。その代わりに諡（おくりな）というものが付けられます。お名前の最後に、男性であれば大人名（うしのみこと）、女性であれば刀自命（とじのみこと）と付け加えられます。

最近は自由なデザインのお墓も

お墓の形や様式は多種多様です。難しく考えると訳が分からなくなりますが、大切なことはカタチではありません。最近では市営墓地を中心に、神道の方でも自由なデザインの墓をつくる方も増えてきました。それに加え、お墓の形は流行り廃りがございます。

仮に形状や祭り方が間違っていたとしても、お亡くなりになった方を偲ぶ場所としてのお墓であれば許されるものです。ご先祖さま達に感謝して手を合わせることも、お墓としてはあるべき姿。危険なカタチや強度に問題があつてはいけません。自由に石材を加工する技術が確立されている今日ですから、許される範囲でお墓づくりをしてもかまわないと思います。

とはいえやつてはいけない事もいくつかございますので、具体的なアドバイスが必要な方はご相談ください。

男 女 幼		少年		青年		成人		老年	
稚郎子	(わかいらつこ)	稚郎女	(わかいらつめ)	郎子	(いらつこ)	郎女	(いらつめ)	彦	(ひこ)
姫	(ひめ)	大人	(うし)	刀自	(とじ)	翁	(おきな)	媼	(おうな)

宗派の違うお墓をまとめる

弊社では毎日皆さんからご質問を頂きますが、その中でも「宗派の違うお墓をまとめるにはどうしたらよいのか？」というのがありました。今回はそのことについてお伝えさせていただきます。

仏教であれば問題は起こらない？

同じ仏教でも宗派が違うケースがございます。たとえばご主人の実家が浄土真宗。奥さまのご実家が日蓮宗という場合。「南無阿弥陀仏」と「南無妙法蓮華經」の違いがあります。しかし根本を辿ればお釈迦様から始まった同じ日本の伝統仏教。今まで祭られてきた方の戒名を新しく付けなおす必要はございません。今後中心となってお墓を守る家の宗派で大丈夫です。

最近はお寺でも伝統仏教であれば、他宗派の方も受け入れて下さることが多くなってきました。腹を割ってお話しただければ何とかなるもの。同じ仏教であれば、

今までの経験上それほど問題は起こりません。また神様をまつる神道と仏教では思想が違いますが、そもそもご先祖様の進化形が氏神様という見方もあります。気持的な部分の融合は比較的容易です。

宗教の違いが考え方・生き方の違いに直結

ご納得いただく事が難しいのはキリスト教・諸外国の宗教の方。そもそも「お墓は要らないよ」というケースも多く、本人たちからしてみれば、お墓が無くても良かった訳です。残されたご遺族がお墓をつくりたい場合、故人の意思を尊重するか否かで悩まれます。

お墓は亡くなった方を祭り、供養するための施設です。お墓に行って先祖供養をして、故人に感謝の気持ちを伝えるのは残された方々です。他にもご遺族の心を癒し、「荒ぶる気持ち」とか「やる気」を整える効果効能もございます。

最終的には故人の意思を尊重しつつも、残された方々で総合的に判断して、どのような供養にするかをお決めください。

お墓をまとめる場合の基本の型とは

私どもは皆さんが納得される着地点を常に探しています。少し特殊なお墓をつくる場合は、パートナーとなる墓石店の持つアイデアとか、過去の経験が大変重要です。幾つもあるお墓をまとめる場合、まず墓地をどこにするか決めます。その次はどの墓石をメインにするのか。私であれば、今建っているお墓の中で、もっとも傷みが少なく、長持ちしそうなお墓を選びます。その他にもお墓をまとめる基本の型も存在します。

大きく分けて3パターン。まず一つ目は、先ほどお伝えした「傷みが一番少なく、今後もっとも長持ちする墓石をメインに据える方法」。次に「新しく象徴となる墓石をつくり、それをメインに据える方法」。この2つの方法の混合型も考えられます。新しい仏さまは新しい墓石で祭り、今までのご先祖さまは、過去建てられた墓石の中から一つを供養塔として、集約してお祭りする。このケースは逆も然り。一番長持ちしそうな墓石を修繕し、新しい仏さまをお祭りし、その上で新たに五輪塔など供養塔をつくり、そこで今までのご先祖様をお祭りします。

新しいお墓づくりには慎重なプランが必要

最後の方法として「すべてのお墓を一つの墓所に集約するケース」がございます。墓石一つひとつの全パーツを集めてくるのは大変なこと。なので一番上の竿石のみをずらつと並べます。過去一番多くのお墓を並べた数は40ほど。16代続くお家柄の方で、お墓に刻まれた文字をていねいに調べながら、たくさんのお墓を集約致しました。

どのケースでも今のお墓の現状を把握して、過去にどのような方が祭られてきたのか、そして今後はどの程度お墓守に関われるかを考えてプランをつくります。断片的に考えず、「お墓づくり」そのものを一連の事業プランとして取り組むことが大切です。新しくお墓をつくることはいつでも出来ますが、一度集約してしまうと後戻りはできません。お墓のおまとめは、慎重に話を進めていくて欲しいです。

具体的な方法が知りたいときは、遠慮なくご相談ください。御家にあつたプランを作成します。

宗教や宗派の違う家のお墓づくり

あるご夫婦からのご相談

今回は「宗派や宗教が違うご家族のお墓づくり」について、より具体的なご相談を元にお伝えします。ご相談いただいたのはあるご夫婦の話。ご主人の実家にはすでにお墓があります。しかし奥さまはクリスチャン。キリスト教ですから、仏教とはそもそも死生観が違います。

一つは伝統仏教のお墓、 もう一つはキリスト教のお墓

このまま放っておけば、いずれ別のお墓をつくることになる、子供たちのお参りするお墓が2つになってしまう。そうになったらいろいろ困るだろうということ、親御さんがお嫁さんだけの為にお墓の横スペースを確保

してくれました。

お墓が今すぐ必要になる訳ではないけれども、元気な内に準備をしておこうということでした。

墓所全体を統一感のある感じに見せる

それで具体的なお話を伺い、いろいろな祭り方を一緒に考えました。結果的には、今立っているご実家のお墓が普通の和型墓石なので、その雰囲気壊さないよう、新しいお墓は背を低くして控えめな感じになりました。

そして別の家のお墓みたいにはしたくなかったので、外柵は2つの墓所を囲うようにつくりまします。ひと家族のお墓ですが、眠れる場所が2つある。一つは伝統仏教のお墓、もう一つはキリスト教のお墓。そんな雰囲気できとまりました。

公共の墓地の同一墓所内に 2つ以上のお墓をつくる

使う石は奇をてらうことなく、今あるお墓に合わせます。デザインもシンプルにまとめ、墓石自体のカタチは違っても、墓所全体で見たら統一感のある感じ。そんな

にうまくいくのかな？と思われるでしょうが、関わる墓石店の力量で、問題解決のご提案はさまざまございます。今回のケースでは「公共の墓地」であるということと、「同一墓所内に2つ以上のお墓をつくることが可能」という規約があったから成立した話です。

お墓を建てられないとあきらめずにご相談を

伝統仏教の寺院さま墓地では、キリスト教のお墓は許されませんし、墓地によっては同一墓所に納骨施設を二つ以上つくつてはいけなと定めているところもあります。今回のケースはあくまでも一つの事例。その辺りは個別で確認が必要です。

今回のお話のように、ご家族の状況が詳しくわかるほど、よい解決策がうまれます。ご自身の状況を特殊だと感じて、お墓を建てられないと悲観している方もいらっしゃると思います。あきらめてはいけません。あきらめたらそこで終わりです。くよくよ悩む前にぜひ一度ご相談ください。

お話をしていたただけでも、スッキリと気持ちが晴れるみたいです。皆さんそう言つて下さつております。上手に墓石店をご活用ください。

墓地の探し方

墓地は3つに分類

矢田石材店では、お墓の専門知識がない方のために墓石見学会やお墓についてのミニセミナーを行っております。さまざまなお話をするのですが、今回はその中でも人気講座である「墓地の探し方」についてお伝えしましょう。

墓地は管理者の違いによって大きく3つに分類されます。「公共墓地」「地域墓地」そして「寺院墓地」です。民間墓地は寺院墓地に含めています。墓地を探すときは、この3つの特性を意識して探します。

抽選で当たれば取得できる「公共墓地」

まずは市などで運営する公営の墓地です。年に1、2回の募集があり、応募して抽選で当たれば取得できます。墓地取得のための永代使用料や管理費など、比較的安く

抑えられる傾向にあります。ただ高さや外柵の形状などに細かな決まりもあり、書類も多くなりがちです。

お骨を保有していることが条件になる場合が多く、生前購入は不可能な墓地がほとんどです。各役所のホームページや、「市政だより」などに情報が載っています。気になる方は電話などでお問い合わせください。

意外と受け入れてくれる「寺院墓地」

寺院墓地はその名の通りお寺が運営しています。基本的にはお寺の檀家になったり、寺院の考えに従います。他の墓地と比べ、ご住職さまに守られているという安心感が得られることが特徴です。永代使用料や管理費、檀家になるのかどうかなど、明確な規約のないことが多く、事前に確認しておくことが重要です。

また公益法人や宗教法人が運営する民営の墓地もあり、広告やチラシなどで募集をかけています。最近では「墓檀家」として、お墓のみのお付き合いを許可するお寺も増えてきました。宗派が違ふからとあきらめずに、ご相談されると、意外と受け入れてくれますのでお試しください。

「コミュニティー活動ありきの『地域墓地』」

地域墓地は町内会や自治会が管理していることが多く、市が保有して自治体で管理するというケースもごさいます。これらの墓地は、インターネットなどではほとんど調べる事が出来ないのので、自分の足で探さなければわかりません。近所の方に聞き込みをしたり、町内の役員さんや会長さんなど、町の中心人物に聞いていただければ、意外と見つかります。

他地域の方を受け入れる墓地も増えてきてはいますが、基本的に地域墓地はその地域にお住まいの方のお墓が対象です。金銭のやり取り以上に、地域のコミュニティーとして、奉仕活動が重要。そのあたりのことを怠らないようにお気を付けください。

お墓探しなら矢田石材店にご相談を

近所のお寺や地域墓地は実際に自分で訪れ、場所を確かめながら進める方法が、一番間違いないありません。私共も地域の情報をできるだけお伝えできるように努めておりますが、自分で動き、労力をかける事自体が故人様のご供養です。ご家族の満足度も高まる傾向にあるように

す。労を惜しまずに探しましょう。

ただ専門知識のない方が、よい墓地を探し当てることは難しい面もございます。そんな時はお墓探しのパートナーとして弊社をご活用ください。愛知県内各地でお墓づくりを行っていますから、さまざまな墓地の情報を持っています。ご要望の地域であったり、希望の広さやお墓の大きさや管理費など、普段はよくわからないお墓事も含めてご相談いただければ、一緒に墓地を探します。どうぞご活用ください。

墓地に行くことの重要性

知識や情報以上に大切なこと

お墓づくりの際に確認できる数字や寸法、そしてカタチについて、普段皆さんが使っている常識と、実際のお墓づくりにおける常識の違いがお墓についての情報を難しくさせてしまっている原因です。

今回はそのような知識や情報以上に大切なことをお伝えします。それは実際に墓地へ赴くことです。墓地で話することが、お墓づくりにはとても重要なことなのです。

現場100回、墓地で顔を見合わせ、じっくりお話しする

「現場100回」という言葉がありますように、墓石店の展示場や、図面だけではわからない事柄が墓地には沢山あります。紙の上に描いた図面で想像してお墓づく

りのお話をする前に、一度墓地で顔を見合わせ、じっくりとお話しすることがとても大切です。

そうすることによって、墓石店とお客さまの間に「共通言語」をつくるのが出来ます。とくに「大きい」「小さい」「広い」「狭い」などの言葉は人それぞれ認識が違います。何か基準があつて「大きい」「小さい」「広い」「狭い」なので、その基準を共有するために墓地での計測や観測が必要になるという訳です。

困った時は墓地で判断するのが一番

矢田石材店の職人や営業の人達は「困ったら墓地へ行く」を合言葉に仕事をしています。とくに大きさや高さを検討する場合には、図面上で数字をひねくり回すよりも墓地へ行くのが一番です。実際に体を使って「大きい」「小さい」を判断すれば間違いは起こりません。

たとえば「立ってお参りをするのか、座ってお参りをするのか」迷われている場合、墓地に行けばどちらがオススメなのかわかります。なぜなら座ってお参り出来ない墓地もあれば、参道が狭く、お参りスペースがない墓地もあるからです。お客様の年齢や体格なども考慮してアドバイスできます。

お墓の出来栄えは周りとの比較で決まる

お墓の前の通路を参拝スペースとして使う事を前提とした墓地のつくりもあれば、それぞれの墓所の中に入ってお参りする事が望ましい墓地もあります。それらの情報は墓地の広さだけ分かってもダメなのです。周辺の状況を把握することで、正しいご提案が作成できます。またお墓をつくる墓所だけではなく、近隣のお墓の大きさやどんな石が使われているかを知ること、どのようなお墓であれば墓地に馴染むのか、より具体的に提案できます。

外柵の高さやデザインの傾向も重要です。お墓の出来栄えは固体そのもので完結するのではなく、必ず相対的な周りとの比較で決まるものです。タンスなどの家具を購入して、部屋に入れた時と家具屋の展示場でみた時と大きく印象が変わってしまったことはありませんか？墓石と墓地も同じです。展示場の墓石はあくまでもその周辺の景観も含めての雰囲気です。そっくりそのまま墓地に持っていけば、必ず違和感を覚えてしまいます。ましてや紙に書かれた図面などは尚更です。

お墓のデザインはお施主さまと同行することで失敗なし

お墓のデザインをつくる担当者は、まずは墓地の状況をしつかり把握することが重要です。その際はお施主さまと同行する事が一番です。そうすることにより、こちらからのご提案について、お施主さまがより理解を深めて頂く事も出来ます。

お墓づくりを何から始めてよいかわからないという方は、まずは墓地に行き、さまざまなお墓をご覧になることをお勧めします。「墓地100回」を達成する事ができれば、お墓づくりで失敗することはないでしょう。

墓地の売買

永代使用権とは

今回は「お墓の土地の売買」についてお伝えします。はじめに結論ですが、個人で墓地の売買や貸し借りは出来ません。法律は墓地を個人で所有する権利を認めていません。長きにわたって墓地を使うことのできる権利である「永代使用権」という「使うことのできる権利」を取得することになるのです。もし墓地を手放すことになったとしても、使用できなくなるに過ぎず、他人へ販売することは出来ません。

墓地は持家ではなく借家と考える

所有者はあくまでも市区町村などの地方自治体、もしくは宗教法人である寺院となります。そもそも個人が墓地を「所有」している訳ではないのです。極端な話ですが、墓地は持家ではなく、借家とお考えください。もっとも

その家賃は一括前払いなので、月々の家賃は必要ありません。年間の管理料を、借家の共益費に置き換えるとかかりやすいでしょうか。

墓地にお墓を建て、使い続ける限り、誰も何も文句は言えませんが、他人へ墓地を譲渡することはできません。他者へ譲る場合は、元の持ち主であるお寺や市区町村に一旦返納し、その後で、他の誰かがまた借りることになるのです。

また墓地を返納した場合、お墓の使用年数や状況によってお金が返ってくるケースもありますが、大体どの墓地でも規則があり、墓地を返納しても返金はしないと定められています。お金は戻って来ないと考えた方が間違いございません。墓地の返納とは、もともと借りているものを返すということに他なりません。

個人同士での売買は出来ない

このように墓地は個人から個人へ売買する事が出来ない仕組みになっています。例外もあるとは思いますが、お伝えしたことが基本です。

通常の不動産みたいな扱いで墓地を個人で売ったり買ったり出来てしまうと、御骨を納めたまま、他人に売ってしまう可能性がありますから。公共的な第3者の介入

が必要なのです。

墓地は神聖な場所

以前にある方がこのような規則があることも知らずに、お墓を片つけた後で親戚に墓地を売ろうとしていましたが、自治会に止められ怒っていました。

私は何故怒りを覚えるのかわかりませんでした。そもそも墓地とはどんな所なのでしょう。お墓をつくり、ご先祖さまや亡くなった方を祭り、手を合わせ、家族の幸せを願う場所です。

墓地は「所有」することが目的ではありません。市営霊園などで墓地購入後、お墓の建立期限を設けているのは、所有することを目的とした墓地の購入を制限しているからです。墓地はお墓がつくられてこそ意味があります。お金儲けのために売ったり買ったりしてはいけない、神聖な場所が墓地なのです。

このように墓地は法的に定められた特殊な場所です。勝手な事をして違反とならないように、弊社のような専門知識のある墓石店へご相談ください。

事故に注意！

墓地で気をつける

3つの出来事

墓地で起きた事故

お墓参りへ行くときに注意して欲しいことなどをお伝えします。まずは弊社で起きた出来事から。墓石見学会の期間中にある親子がご来店されました。お客さまと思い、接客担当の女性たちが出迎えたら「お宅の職人さんに助けられました。とにかくお礼がしたい」とのことでした。

詳しいお話を聞かせてもらったところ、親子でお墓参りに行った時、お母さんが墓地内で転倒し、後頭部を石に打ちつけて出血したそうです。それであたふたしていたところ、ぐうぜん居合わせたウチの職人たちが、止血などの応急措置を施し、救急車を呼びました。職人たちは名乗らずに立ち去ったらしいのですが、トラックの社

名を覚えていて、訪れて下さったということでした。

3つの注意事項とは

墓地というのはご先祖さまや大切なご家族が眠っていらっしゃる聖地として、安全で安心できることが重要です。しかしながら物理的には石で囲まれていることも事実。事故にならないよう、防衛する必要があります。そのための3つの注意事項をお伝えします。

雨あがりは滑りやすくなるためスリップや転倒に注意

まずは一つ目。墓石は滑りやすいことを認識してください。墓石の鏡面磨きはお墓を美しくして見栄えが良くなります。その代わり雨天時や雨あがり時は滑りやすくなります。足元の石に滑り止め加工がしてあればよいのですが、表面に水が溜まっていると、スリップや転倒の元となりますので足元には十分気を付けてください。

火の不始末、取り扱いには十分注意

二つ目。火は必ず消してからお帰りください。お墓は自然豊かな場所や、木造であるお寺の本堂の横などに立地しています。火の不始末が重大な結果を招きかねません。とくに冬場は乾燥しているため、植栽や芝生が枯れ、引火して火事になる可能性があります。火の取り扱いには十分ご注意ください。

倒れやすい墓誌や古いお墓などに要注意

三つ目としましては、固定されていない石は動いてしまうことを念頭にお参りください。お参りする際に、しゃがんだ姿勢から起き上がろうとして、墓誌や花立等に掴まり倒れてしまう事がございます。子供が墓地で遊んでいる、お墓の下敷きとなってしまった痛ましい事故も発生しています。墓地には墓誌や古いお墓など、固定されていない石材も多々ありますのでご注意ください。

痛ましい事故は起こる前に自己防衛

墓地での事故は、お墓を倒してしまったお子さんが悪

いのではなく、お墓そのものが悪い訳でもありません。倒れるお墓を放置した大人と、私ども墓石店の注意喚起が足りない事がいけません。

ましてやご先祖さまが祭つてあるお墓は危ないから近寄らないというのは、まったくのお門違いな話。危ないと感じたら、すぐ修繕すべきです。危険なことを知っているにもかかわらず然るべき措置を取らずにいて、事故が起こつては後悔してもしきれません。

「我が家のお墓はどうなのだろう？」そう思われたら一度お墓を見に行ってください。何か変調があるかもしれません。その時は弊社でも構いませんし、お近くの墓石店へご連絡ください。痛ましい事故については、「自分は絶対起こさない」と思いがちですが、誰にでも起こりえることなので、起こる前に自己防衛をしてください。宜しくお願いします。

お墓の民間信仰

節分などでの民間信仰

私は毎年、自宅（矢田家）で子供たちと一緒に節分の豆まきを行います。もちろん、私が鬼の役です。和室を片づけ締めきって、豆をぶつけられています。以前は自分で鬼のお面を作っていたのですが、最近は工作の得意な息子がお面を作ってくれるようになりました。

実はお正月を迎えてから節分が終わるまでの間、年配の親方衆はお墓をさわらない（手掛けない）と、昔はよく言われておりました。節分までお墓を手掛けない理由は、翌日が24節氣の立春なので、「冬はゆつくり休んで、春になってからボチボチお墓つくろう」という方が多かったのかもしれない。

そんなことにちなんで、今回はお墓についての民間信仰についてご紹介します。

お墓づくりは「大安」が好まれる

民間信仰といえば、皆さんご存じの「大安」「仏滅」などの六曜について。中国を起源として、日本へ伝来したとされていますが、本当はよく分かっています。六曜とは暦（こよみ）に記載される歴注（れきちゅう）の一つで、日ごとの吉凶を示す占いです。

お墓づくりでは「大安」が好まれる傾向にあります。すべての工程を「大安」にすることはできません。昔のお墓は一日で建込工事を行っていましたが、現代のお墓づくりは一日でつくることは不可能です。

以前は建立し始めたその日にすべて完成するため、建立日は「大安」で大丈夫でした。しかし現在は基礎工事で鉄筋コンクリートをつくり、外柵や土台の石を設置し、その後に墓石本体を建立、数日間養生した後に仕上げを行い完成します。墓地での建立工事は一日で完結しなくなりしました。「大安」が気になる方は、始まりの日か、完成の日、もしくは開眼・納骨日を「大安」にされています。

土用の日のお墓づくりはNG？

次にご紹介するのは土用です。土用の丑の日として、うなぎを食べることで有名です。土用の日については、春夏秋冬各季節に設定されていて、この期間は土公神（どくじん）と呼ばれる土の神さまが、自分の居場所に人の手が入ることを嫌います。土いじりが好まれない時期なのです。

お墓も基礎をつくるときは穴掘りを行いますし、石材の起源も土の中なので、土用の時期にお墓づくりを敬遠する地域もございます。しかし各季節の土用の日が18日間あり、一年では72日にもなります。そうすると一年の5分の1は仕事が出来ません。なので土用の間日（まび）という考え方があり、その日は土の神さまが地上を離れるため、仕事をしてよいとされています。

墓地の方位を決める九星方位学

そして九星方位学。九星術や九星気学とも呼ばれます。生年月日を基に東西南北、その間の西南・西北・東南・東北そして中央の9つに地域を分け、吉方位を導き出すのです。この占いは、方位の吉凶なので、お住まいの場

所から見ても、墓地のある方位について吉か凶かを判断します。その方位が吉の日に仕事を始めるということが一般的です。

天気の良い日が一番のお墓日和

このようにさまざまな吉凶を占う方法があり、すべてを気にしていると、お墓をつくる日が無くなります。地域の風習、慣例などと関連があり、あまり無碍（むげ）にすることは出来ません。ただ私共お墓をつくる者にとっては、天気の良い日が一番のお墓日和です。あまり気にしない方が幸せにお墓をつくれます。

どうしても気になる方はご相談ください。民間信仰や地域の風習も取り入れた、厳かなお墓づくりをご提供しますので、ご相談ください。

今やって良いのか、 私がやって良いのか

お墓のことが気になりだしたら

皆様からのご相談で、お墓を直したり、建て替えたりする場合に、よくいただくお悩みについて解説します。その悩みとは、周りの方から「お墓を触るとよくないことが起きる」とアドバイスをいただくことです。お墓をキレイに整えると、ご先祖様たちからは喜んで頂けるのではと思う反面、「このタイミングでよいのかな？」などと思い始め、自信がなくなってしまう方が非常に多くいらっしゃいます。

「今やっていいのか？」そして「私がやっていいのか？」ということ、答えを出せずに困惑されます。先に答えをお伝えしますが、「すぐやってください」そして「あなたがやって大丈夫」ということです。

お墓は綺麗にした方がよい

相談に来られる方の中には、ご自身や家族に降り注いだ不運と、お墓を結びつけてしまう方もおられます。たとえば車で事故に遭った時、時を同じくしてお墓を綺麗にしていた場合「お墓はそのままにしておいた方がよかったのでは」とか「ご先祖様にとって新しいお墓は居心地が悪いと怒っているのでは」というように、お墓と不幸を結びつけてしまうのです。こういった考え方は「錯誤相関」といいます。事故の原因については、前方不注意や運転ミス、整備不良が考えられるのに、相関関係のないお墓に原因を求めてしまうのです。

この逆もあります。たとえばお子さんが皮膚の病気でなかなか治らない。お墓参りに行ってみるとお墓の表面がかなり汚れていたため、これは子供の皮膚病がお墓の汚れによるご先祖様のお怒りであると思ってしまう。その結果お墓掃除のご依頼に来られるといった具合です。お墓の汚れを綺麗にする事自体はよいことですが、お子さんの病気の原因はお墓とは別にあります。冷静に考えたらわかる事なのですが、当事者は意外とわからないモノです。

常にお墓やご先祖様と正しく向き合う

人の心はとても弱く、お墓に対して非礼があったり、後ろめたい気持ちになると、間違った事と結びつけてしまいます。そうならないために、常にお墓やご先祖さまと正しく向き合い、いつもお墓を整えておきましょう。そうすればいつ何が起きても「お墓、仏様、ご先祖様が守って下さっているから大丈夫」という強い心、自信が生まれて来るのです。

いつでもご相談を

お墓については目に見えない世界のこのため、スピリチュアルな面から、他人にマイナスな情報として何かを言われると大変気になるものです。基本はご自身の心の赴くままに行ってください。自分の思いに対して正直になることが、お墓と向きあう一番のコツです。実行するのが悩みを払拭する一番の早道なです。お墓のことが気になりだしたら、いつでもご相談ください。

お墓に巻くさらしの話し

さらしを巻く部分は「竿石」

完成したお墓にくるつと巻かれた白い包帯？をご覧になられたことはありませんか。あれはさらしです。お墓を守る必須アイテム、「さらし」についてお伝えさせていただきます。

さらしは新しくお墓がつくられた際、石に巻いて使います。巻く部分は「竿石」と呼ばれる一番上の細長い石。巻くときは、正面の文字が刻んである面から始めて、上まで行って頭を越えて背中から巻きます。上から下へ、少しずつ下げながらくると時計回りです。基本的に巻く部分は一番上の石だけなので、下端までいったら残りもきれいに巻ききって端を止めます。

白い清浄なさらしはお墓を守る

さらしはお墓が完成した後、納骨やお寺さまによるお精入れの読経が行われる前に、悪い霊や別の何者かにお墓を占有されないためのお守りです。白い清浄な布でお墓を守ります。そして開眼・納骨式がハレの日となりますので、その時除幕です。

結局は取り外す訳ですが、さらしを巻くという儀礼を通じて、お墓を大切にする意識が生まれるのです。

お施主さまご家族がさらしを巻く意味

私どもは出来る限り、お施主さまご本人を含めたご家族にさらしを巻いていただけますようお願いしております。理由としては、ご自身達でさらしを巻くことにより、儀礼としてのお墓づくりにさらなる意味が生まれ、「これから自分たちがお墓を守るんだ」という墓守の意識が芽生えるのです。

最近では加工にこだわった洋型のお墓や、特殊デザインのお墓が増えましたので、さらしが巻きにくい事もございます。以前たまご型のお墓をつくった方がいらつしゃって、巻き終えたお施主さまがご自身で「覆面レス

ラーみたいだ」とおっしゃいました。

几帳面な方が巻くときは、何度もやり直します「ここにシワが・・・」「あそこにシワが・・・」と言われます。格好よいデザインのお墓はさらしが巻きにくく、妥協して頂いております。

お墓をお守りしたさらしは縁起物

ちなみにお墓をお守りしたさらしは縁起物です。妊娠されたときの腹帯にしますと、元気な子が生まれるといわれております。お子さんお孫さんも含め、お守り代わりにお持ち帰りいただくこともございます。どうぞご参考ください。

お地蔵さまの話

お地蔵さまについてのお話です。先日六地蔵さまを墓地に寄贈されたいという方がお越しになりました。これはよい機会と思って、弊社の新人たちに「どうして墓地には六地蔵さまがいらっしゃるのか」ということを伝えました。その話を元に、お地蔵さまについて詳しくお伝えします。

観音さまと並んで人気のある地蔵菩薩

仏教ではさまざまな仏さまがいらっしゃいますが、お地蔵さまは観音さまと並んでとくに人気のある仏さまです。正式には「地蔵菩薩」といいます。さまざまな世界に現れて、人々を救済してくれると信仰されています。とくに弱者を守り、救済してくれる存在とされていることから、小さな子供たちの守り神のように扱われてきました。

そのため小さなお子さんが亡くなられた時は、お地蔵さまが重宝されます。小さなお子さんは、本来行はずであつた親孝行などの功德を積んでいない。なのであちらの世界へ旅立たれた時、特別なご加護が必要ということとで、お地蔵さまと一緒に祭りします。お墓にお地蔵さまがつくられているのは、そういった意味があるのです。

六道輪廻とお地蔵さま

それから「六地蔵さま」についてです。仏教では人間をはじめとするすべての生き物が亡くなった後に、地獄道、餓鬼道、畜生道、修羅道、人間道、天道の六つの世界に生まれ変わるとされています。このことを「六道輪廻（りくどうりんね）」といいます。

地獄道は罪を償う世界です。灼熱地獄、極寒地獄、無間（むげん）地獄など、厳しい環境で罰を受けるところ。ここでの服役を終えるとまた転生します。餓鬼道は飢えた鬼のいる世界。すべての物が燃え尽くされた飢えと渴きの世界といわれています。自己中心で、他人を思いやることのない方が行く世界。

ちなみに六地蔵さまにバシャバシャと水をかける習慣のある地域がありますが、これはお地蔵さまの足元には餓鬼道に通じる穴が開いていて、そこから通る水は仏さ

まのご加護によって、燃えずに鬼の口まで届くと信じられていたからなのです。

救いの無い世界と救いのある世界

畜生道は牛や馬に代表される動物の世界です。本能の赴くままに生きて、他人から助けってもらってばかりの方が行く世界。救いの無い世界とも言われています。修羅道はケンカや争いが絶えない世界。人間道は人が住む世界です。

四苦八苦に悩まされる苦しみの大きい世界です。ただ苦しみだけではなく、楽しみもあるとされています。そして唯一自力で仏教と出会える世界であり、解脱して仏になるという救いの可能性がある世界です。天道は苦しみが少なく、穏やかな世界と言われていますが、仏教と出会うこともないので解脱は出来ないとされています。

お地蔵さまは救済のエキスパート

このように生きていた時の業によって死後さまざまな世界に送り込まれる訳なのですが、お地蔵さまはこれら六つの世界それぞれに足をお運び下さり、私たち衆生を

救って下さる菩薩さまなのです。地獄道には壇陀(だんだ)地蔵。餓鬼道には宝珠(ほうじゅ)地蔵。畜生道には宝印(ほういん)地蔵。修羅道には持地(じじ)地蔵。人間道からは徐蓋障(じょがいしょう)地蔵。天道には日光(にっこう)地蔵と、それぞれの世界でエキスパートなお地蔵さまが救済をしてくれます。

あの世での幸せを六地蔵さまに祈る

墓地はお亡くなりになられた方をまつり、あの世での幸せを願う場所です。その想いの結晶として六地蔵さまが祭られています。お墓もお地蔵さまも、お亡くなりになった方々に対して、何かしてあげたいという、供養や感謝の気持ちの現れ。ちなみに道端に祭られているお地蔵さまは道祖神と呼ばれ、その土地などを守って下さっています。どこかでお地蔵さまを見かけたときは、ぜひ手を合わせて頂き、心の中で「ありがとう」とお祈りしてください。

お墓が出来上がるまでの期間

お墓はすぐにつくれない

ある年の年末、お墓に関するお問い合わせが殺到した時期がありました。増税や改元などのイベントはなかったのですが、なぜかこの時は本当に多くのご相談をいただきました。

さすがに今すぐお墓を建てて欲しいという方はいらつしゃいせんでしたが「追加彫刻を今日やつて!」「年始までにお墓を片付けたい」など無茶な話が多く、年末休暇も控えていましたので、お約束を年明けにさせてもらったり、場合によってはお断りいたしました。

家電量販店で炊飯器を購入するのと違い、お墓はご依頼を頂いてからつくるものです。そのため今日、墓石店に注文して、明日完成とはなりません。あらためてお墓が出来るまでの期間の目安をお伝えしましょう。

調達した石材を加工した後に墓地で施工を開始

墓石建立の場合は、国内の石を使うにしても海外の石を使うにしても、材料である石材の調達に時間が必要です。日本でつくる場合、在庫の石があつたとしても加工にはひと月ほどいただきます。海外の石材の場合は、加工と船便の時間を含めて3週間ほど必要です。

展示されている現品墓石を使ったとしても、表面を再度きれいに加工するケースがほとんどですし、文字を刻みますので、少なく見積もっても1週間は必要です。調達困難な石であれば、加工が終わるまでに3ヶ月〜半年以上掛かることもあります。ここまですが工場で行う加工の期間です。この後、墓地での施工が始まります。

契約からお墓の完成、お引き渡しまで2〜3ヶ月は必要

施工期間については、通常の基礎工事が始まってから墓石の設置完了までに、2〜3週間ほどいただきます。このように細かい工程がさまざまあつて、ご契約からお

墓の完成までは2〜3ヶ月必要とお考えください。

お石を新調しない場合（たとえばお墓の引越しなど）のお墓仕事に関しても、頼まれて即対応出来る訳ではありません。計画は余裕をもつてご依頼ください。

たとえばお墓を移動する際でも、お寺であればご住職、公共の墓地であれば役場などの墓地管理者の許可が必要となります。また解体した墓石に手直しが必要であれば、状態によっては1ヶ月位掛かることもあります。お墓の中に収められている「お骨」の取り出しや移動については、保健所などへの申請が必要です。施工にしましては、解体で一日、再設置までは2週間ほどとお考えください。

これからお墓の建立を考えている方は 最善の供養を

最近家族としてのあり方も多様化しています。ご供養を簡素化する傾向もありますが、これからお墓の建立を考えている方は、ぜひとも時間と手間をかけていただきたい。あせらずに納得のいくお墓づくりとご供養をしてください。時間がないからと簡素に終わらせるより、時間をかけてでも出来る限りのご供養をされるほうが達成感も高くなり、家族の絆を強めることにつながります。

お墓のデザインの 移り変わり

お墓づくりの移り変わりに関しまして、歴史とその流れについてお伝えします。基本的な考え方として、カタチやつくり方というものは各時代によって変わります。ですがお墓の本質というものは、いつの時代も変わりません。お墓をつくる時は、まずはその本質をお考えいだいて、その上で、お墓のデザインやカタチについてご検討ください。

昔のお墓は職人の手づくり

はじめに昔のお墓づくりについて。私の祖父が働いていた時代をひも解いてみますと、ほとんどのお墓は人の手によってつくられていました。つまり石材加工に長けた職人による手づくりが、お墓の基本だったのです。そのためその頃のお墓に使われる石は硬い石ではなく、比

較的軟らかいものが好まれました。昔のお墓で角がなくなっていたり、文字が読めなくなっているのは、そのような時代につくられたからです。

石材加工の機械化が始まった昭和中期

そして昭和30～40年になると、石材加工の機械化が始まります。ダイヤモンドを使った大きなカッターの刃で石材を切り、石を磨くための機械がつくられました。機械化のお陰で墓石加工に革命が起こったとも言えます。

その恩恵は大きく2つに分けることができます。まず一つは、石材それぞれに合わせて、手作業でつくられていたお墓が、大量に画一的につくることができるようになりました。そしてもう一つは、人の手では扱えなかった硬い石材の加工が可能になったこと。一昔前と比較して、かなり容易に墓石をつくることが出来るようになりました。

そして材料も変化が起こります。硬い石材が使えるようになったと同時に、海外輸入の石材を使いはじめたのです。熟練の職人ではなくてもお墓をつくる事が出来るようになり、価格も下がり、お墓をつくる方が増加しました。その結果日本で採掘される石材だけではお墓の需要に対応できなくなったのです。海外には日本の石に

は無い特徴を持つ石材も多く、黒い石や、緑の石、中には赤い石でつくられたお墓も増えました。

平成のお墓づくり

平成に入ってから起きた変化とえば、海外の石を使い、海外の工場で加工までできるようになった事です。主に中国、インドでつくられています。海外加工が始まった当初は、出来栄えに関してはイマイチでした。安からう悪かろうの世界。しかし年月が経ち、現在では中国・インドの加工技術はかなり進歩し、高水準の墓石加工を行えるようになっていきます。

またこれまでのお墓のイメージとは異なる、非常に手の凝った墓石も設計されるようになりました。昭和の時代、お墓のイメージと言えば3段の石積み型が多かったのですが、それらをまったく意識しない、彫刻作品のような墓石も安価でつくることができるようになりました。

そして最近のお墓の傾向としては地震に強く、頑丈なものが主流になってきています。見栄え以上に内部のつくりにこだわり、頑丈で長持ちする加工に主眼が置かれる傾向です。デザイン面の変化も、上にと積み上げ式のつくりよりも、低重心のシンプルなデザインが好まれております。令和の時代になり、お墓のカタチなどが、

どのように変化していくのか楽しみですね。

お墓づくりの現象は変わっても、その本質は変わらない

以上これらの変化は始めにお伝えした通りで、目に見える現象としての移り変わりでです。本来お墓をつくる時は、カタチやどの石を使うのかよりも、まず誰のためのお墓なのか、何のためにお墓をつくるのか？ということについて考える時間をより多く持ってください。お墓づくりの現象は変わっても、本質は変わらないものですから。

お墓の元祖「五輪塔」とは

京都の銘菓「八つ橋」で、本家や元祖をどの店が名乗るのか、ということで揉め事が起きたと聞いたことがあります。味を楽しむ私たちには関係ない事なので、サッサと収束して、仲良く営業していただきたいものです。

お墓で元祖といわれれば、誰も文句が付けられない、ピッカピカの形があるのをご存知でしょうか。「五輪塔」というお墓です。今回のお話は、その「五輪塔」についてお伝えしましょう。

よくいただく相談で、「先祖代々守ってきた墓地の中には、たくさんお墓があり、まとめたいと思っています。でも誰のお墓なのか分からず困っています。どうしたらよいのでしょうか?」「たくさんお墓があつて困っているの、花筒だけでも少なくしてはいけないでしょうか?」というものがあります。

これらのお墓問題に関しては、さまざまな解決法がありますが、先ほどお伝えした「五輪塔」もその答えの一つです。「五輪塔」とはいったいどのようなお墓なのでしょう

うか。

往生と成仏を願ってつくられた五輪塔

お墓の元祖といわれている「五輪塔」ですが、日本の歴史に登場したのは鎌倉時代あたり。覚ばんという偉いお坊様が、仏教を布教する活動の一環として、亡くなった人の成仏を願うためのお墓づくりを推奨し、その際に五輪塔を建立されたのです。

それまでのお墓というのは亡骸を葬るための場所としての意味合いが強かったのですが、浄土教の極楽往生という考え方も相まって、亡き人を供養する場所、死者救済の空間として広く一般の方々に普及しました。

原型はインドのストウーパ

五輪塔のカタチはおでんみたいです。おでんはコンニャクや卵などを串に差したのですが、五輪塔は上から宝珠・半月、三角・丸・四角という並びになっています。そして上から空・風・火・水・地を意味する梵字「キャ・カ・ラ・バ・ア」と刻むのです。

この五輪塔のカタチや文字は、この世界のすべてを表わすとされています。またお釈迦さまが座禅を組んでいるお姿を表現し、密教でいうところの「身・口・意」という真理そのものであるとも伝えられています。そんな日本のお墓の原型である五輪塔ですが、起源はインドのストゥーパ、と呼ばれるお釈迦様のお墓です。

五輪塔は磨かず、苔で味わい深くなるお墓

大変功德があり、ありがたいお墓である五輪塔ですが、冒頭で供養に関する諸問題の解決にも使われるとお伝えしました。五輪塔は建立する事自体、大變功德があり、祭られるご先祖さまや故人さまの成仏と極樂往生を実現します。お墓は本来お花を手向けたり、お線香を立てたりといったお参りをする事に価値がありますが、「五輪塔」はそういった参拝機能がなくても、しっかりと供養されるお墓と言えるでしょう。なので花立、香炉をつくらずに、五輪塔のみを建立し、永代にわたって手のかからないお墓に改装すれば「お参りに行けない」という重圧から解放されます。

最近のお墓はピカピカに磨かれています。が、「五輪塔」の中には伝統的スタイルの「古代型五輪塔」といわれるデザインがごいます。表面はゴツゴツと武骨な感じが

して、汚れや苔が付きやすく、その結果、風合いが良くなるのです。このようなお墓であれば、お参りに行けない事に対して、後ろめたさを感じる事もなく、自家の聖地として遠くからの礼拝を行います。管理料などのかからない墓所をお持ちであれば、尚更お勧めです。

何代にも渡ってお墓を守ってきたお家柄であれば、関係する方々も多く、そのお墓に手を合わせる人も多種多様。なので各方面へ配慮しないといけません。が、「墓じまい」など行方よりも、よほど立派な先祖供養となります。

大切なことは誰が祭られているのか

そしてこの五輪塔では、誰が祭られているのかを認識しておく事が重要です。そのために過去帳を調べ、戸籍を取り寄せるなどして家系図をつくります。家系図作りの副産物として、出来上がるモノとしての家系図よりも、ご先祖様に対して認識が深まる事の方が、よほど大きな価値があります。大変だと思いますがぜひ挑戦してください。

具体的な方法が知りたい場合は遠慮なくご相談ください。貴家に合わせた五輪塔を提案します。

みんなが気になる お墓づくりの基礎工事

最近急に増えているご相談がございます。「うちのお墓の基礎工事大丈夫でしょうか?」「どんな構造の基礎にしたらよいのでしょうか?」という内容です。皆さん基礎工事がとても気になっていらっしゃるようで、今回は「お墓の基礎工事」についてお伝えします。

基礎工事を行うのは今では当たり前

矢田石材店は地元密着の墓石店です。なので愛知県の皆様向けにさまざまなお墓事を情報発信しています。まづ知って欲しいことは、お墓の基礎工事は、当たり前前の事になっていますが、一昔前は「基礎をつくらない」という時期もありました。

お墓をつくる仕事は、私たちのような墓石店と、お施主さまとの信頼関係の上に成り立つ仕事です。今の時代、

お墓の基礎工事を行わないということはめったにございませんが、ご契約前に墓地で仕事を見学されるとよいでしょう。お墓の基礎は墓地の状況や形状、特性に合わせてものであるかがとても大切です。

お墓の基礎にはベタ基礎と布基礎がある

まず大きく分けてお墓の基礎にはベタ基礎と布基礎があります。基本はベタ基礎。墓所全域にコンクリート打ちをする工法です。布基礎は石材が設置される場所にのみ基礎を打つ工法です。基礎の上につくられるお墓の大きさや構造によって、どんな工法になるのか決められます。

基礎と墓石をどのようにつなげるかも重要です。つなぎが正しく行われていなければ、大きな衝撃が起きた際、墓石と基礎が外れてしまいます。弊社では頑丈な基礎と石をつなげるため、ステンレス製の無垢棒で石を固定し、アンカーを打ってボルトでしっかりとつなぎます。

土地の状況や特性に合わせる基礎工事

てください。宜しくお願いします。

基礎は一つひとつのお墓に合わせてつくらなければいけません。たとえば軟弱な土地や、水はけの悪い場所に基礎をつくる場合、コンクリートそのものよりも、その下の「地盤」をどのようににつくるかの方が重要です。杭を打つのか、地盤改良するのか、特殊コンクリートブロックを埋める工法にするのか、栗石を積むのかなど。状況に合わせて基礎をつくります。

前記お伝えしたように、お墓の基礎は土地の状況や特性に合わせた構造にします。建立される墓石の形状なども考慮します。他には、雨水をどのように墓所の外に流すのか、ご遺骨が納まる部屋をどのようににつくるのかなど、通り一遍ではありません。

基礎をしっかりつくる石材店に任せる

お墓の基礎は意外と大切です。お客様側の質問に的確に答えられないようではいけません。組織としてしっかりと管理、運営が出来ていないと、曖昧な基礎工事で、曖昧なお墓にされてしまいます。

お墓購入の際は、「基礎づくり」も大切な検討項目とし

自分のお墓をつくる場合に 気をつけたい罫とは

知らない事に挑戦するとき、スタートが間違っていると結果的に大きくゴールがずれてしまいます。お墓づくりにおいては不透明な情報が多い分、その傾向は顕著に現れる。今回は生前にご自身のお墓を用意しようと考えてる方が陥ってしまうときの「勘違い」や「間違い」などについてお伝えします。

仕方なくお墓をつくる

実は最近、祭祀の中心となってお祭りする仏さまがない場合でも、お墓をご準備される方が増えています。その理由として、墓地の規則に「取得後数年でお墓を建立しなさい」と定められている事が多くあるようです。このようなケースでは、本当はまだまだ建てるつもりではなかったのに、仕方なくお墓をつくることになるよう

です。

これは本当にもったいないことであり、今つくる理由がある訳でもないのに、数十万円〜百万円を超えるお金が必要となります。そのためなるべく簡素に、みんなと同じものでよいという発想に至ります。また自分のやりたい放題に設計するため、お墓という意識も低くなり、オブジェや記念碑のような発想になってしまいがちです。

妻や子供にお墓をつくる気がない、 だから自分で用意する

しかしもつとも注意が必要なのは、家族やお子さん達に黙ってつくろうとする方です。これは一番やってはいけません。「家族に知れると止められるから言わないでほしい」という方が時々いらっしゃいますが、ご家族のいう通りやめた方が身のためです。

「妻や子供は私のお墓をつくる気がない、だから自分で用意する」とおっしゃる場合ですが、そのお墓にご自身を祭ってくれるのは残されたご家族です。であるならば隠れてコソコソお墓をつくるのではなく、ご家族で話し合ったり、お子さんたち同意のもと納得できるような家族関係の改善にまずは取り組んでください。

家族に黙ってお墓をつくる

実際にあった話で、ある男性が家族に黙ってお墓をつくりました。ご本人が亡くなられ、お墓にご遺骨を納めようと家族が思い立ってくれたらしいのですが、どこに建てたのか誰も知らないのです。そのご遺族から、ご相談があったのですが、弊社でつくったお墓ではなかったため、答えようにも調べる方法がありませんでした。

お墓は車検や戸籍のように、法的に管理されている訳ではありません。墓地にそれぞれ台帳があっても、誰もが調べる事など出来ないのです。故人が管理料を支払っていたのであれば、それが止まる事で、数か月から数年後に催促の手紙が来るはずですが、それまで待ちましょう、とアドバイスしました。

本当の終活とは

このような事実から、こっそり自分のためにお墓をつくることだけは絶対にやめるべきなのです。こういったことに巻き込むことが迷惑じゃないかと思う気持ちがすでに傲慢です。死んだら結局迷惑かけることになるのですから。

子供の立場からすると、自分が死んだらどうしようかと相談される方が、黙ってお墓をつくられるよりはよっぽどましだと思います。自分だけでやるとは言わずに、お葬式を上げてもらったり、お墓をつくってあげたくなるような親子関係を構築してください。それが本当の終活です。ぜひともご家族を巻き込んでください。

一度ご相談にお越しください

お墓はそもそも、大切な誰かのために、あの世での救済を願いつくられるもの。もし生前にお墓をつくらなければいけないのであれば、ご先祖様や親御様への感謝、子孫繁栄などの願いを込めましょう。しかしそれでもどうしたらよいのか分からなくなったら一度ご相談にお越しください。

弊社では、生前に墓石をつくる方向けの相談も承っています。必ず守らなければいけない重要な事もお伝えします。ご利用ください。お待ちしております。

お墓をまとめる時の序列

お墓を一つにまとめる時の序列についてお伝えします。新しいお墓をつくらずに、これまでのお墓をまとめる場合、基本的につくられた年代が最近のお墓の中から、ある程度の大きさがあり石の傷みが少ない状態のお墓をメインに選びます。どれも似た感じでわからない時は祭られている方で選びますが、たとえば「一族の中興の祖と呼ばれていた曾祖父」というような方がいらっしゃるのであれば、その方のお墓を残すのです。

一番よいお墓をメインに選び、 他をどうするのか

このように一つのお墓に集約する場合は、一番よいお墓を残します。思ったほど悩まないものですが、墓地のスペースに空きがあり、2つ3つ残せるといった場合はその判断に悩みます。

まずメインに一番よいものを選びますが、他をどうす

るのか。考え方としては大きさや並びのよいものを選んで残すという方法。次に形が揃っているお墓を選ぶという方法。最後に単純につくられた年代が新しいお墓から選んでいくという方法です。大体この3つの方法が考えられます。

どのお墓を片付けたらよいのかという基準

またお墓が多すぎるのである程度減らしたいという場合もあります。どのお墓を片付けたらよいのかという基準となりますが、お墓が建立されてから長い年月が経過し、片付けてもよいと認められるのは、供養がひと段落ついたとされるお墓です。

そもそもお墓はお亡くなりになった誰かを供養するために建てられます。残されたご遺族が、故人さまの幸せを願い建立するもの。お墓をつくった時のご家族が、年月を経とお亡くなりになられていたり、次の世代にバトナタッチしている場合は、ある意味その役割を終えているといえるでしょう。

お墓は50年祭・50回忌を区切りに 片付けてよい

仏教では33回忌や50回忌を一つの区切りとして定めます。神道では5年ごとに御霊祭（みたままつり）が行われ、50年祭が一区切り。50年も経てば、お墓をつくった時のご家族もお亡くなりになられる頃といえます。そのため、50年の供養を終えたお墓は、目的を完遂したとして考え、片付けてもよい対象になるのです。

お地蔵様も同じです。お地蔵様はお子さん、水子さんへより多くのご加護がありますようにと、親が願いを込めてつくられます。その親御さんがお亡くなりになった後は、お地蔵様もある程度の役目を終えたといえる訳です。どうぞご参考頂けたらうれしいです。

お墓の改葬

改葬には手続きが必要

最近では「跡継ぎのいないお墓」や「近所に守る人がいないお墓」が増えているようです。お墓の引越しや修繕、お片付けの相談も同じく増えています。しかしこれらの事を実際に行うためには改葬の手続きが必要です。そこで今回は、「お墓の改葬」についてお伝えします。

改葬とは文字通り「改めて葬る」ということで、これはお墓の修繕をしたり、移動したり、撤去することを意味するのです。また改葬する際には「石の問題」「お骨の問題」「心の問題」の3つの問題について考える必要があります。

お墓の改葬と3つの問題

まず「石の問題」は比較的簡単です。見た目で異常があればわかります。弊社のような墓石店にご相談頂けれ

ば、直るか直らないのか、長持ちするのか、いずれ壊れるかがわかります。

次に「お骨の問題」は役所への手続きの問題です。これも面倒ではありますが、手順を踏んで行けば誰でも出来るものです。ただお骨の行き先には、本山なのか旦那寺なのか、あるいはどこかの納骨堂か合祀のお墓なのかと選択肢は意外と多いもの。どこへ行けばいいのかわからない場合は、私共の様な専門家に相談してください。

難しい心の問題と向き合う

最後に一番重要で、悩みも深いのが「心の問題」です。お墓を片づける場合、本当にお墓を片づけなければいけない人と、今すぐでなくてもよい人の二つに分かれます。たとえば遠方に嫁いだため、故郷にある親のお墓にお参りできない方。親戚のおばさんがひとり身でお亡くなりなされたため、お墓に納骨はしたものの、今後は誰がお墓守をするのか親戚中で決めかねている方などです。

このようなご相談をいただく場合は、「荒れ果てた無縁のお墓にしたくない」という気持ちがあるため、「自分が動けるうちに何とかしたいのだが、それをいつ実行すればよいのか?」ということでお悩みになられます。

最近では遠方でもお参りに来てくれる お寺様も

お寺とのお付き合いも、遠方のためお付き合いが厳しい場合、どのタイミングで離れていくのか悩ましいところ。最近では、遠方でもお参りに来てくれるお寺様も増えました。まずは一人で悩まずに、困っている事をご相談されてみてはいかがでしょうか。

檀家から離れたら高額な金銭を要求されたなどと騒ぐテレビや雑誌がありますが、そんな話はめったにありません。大半は面白おかしく誇大された作り話。大切なのは家族・親族・お寺を巻き込んで、みんなで腹を割って話し合うことです。ご先祖様、故人様のお墓についての話し合い自体がご供養の一環です。

豊富な実績、親身にご供養のお手伝い

どうにも話し合いがまとまらない場合もあります。そんな時は、弊社の様なお墓の専門店にご相談ください。豊富な実績とやさしい担当者が親身になってご供養のお手伝いをします。よりよい環境に整えるためには、ご先祖様に対して抱く皆さまの想いが大切です。お墓の「お

まとめ」「手直し」「お引越し」「お片付け」気になり始めたら、ぜひ一度ご相談ください。

お墓の片づけ

遠くはイギリスからのご依頼も

墓石店としては少し寂しいお話となりますが、「お墓の片づけ」についてお伝えします。実はここ数年間、お墓の撤去や処分のご依頼が増加傾向です。恐らくご家族やご親族様が集まり、今までのようにお墓を守って行くことが出来ないのご判断された結果だと感じています。

お墓の片づけを依頼されるお施主様の多くは県外の方です。先日名古屋市の霊園に行つて参りましたが、家族みんなが別の地域に移り住んでいるため、ここにあるお墓を守っていけないとのお話でした。また静岡県、三重県、京都府、大阪府、千葉県、新潟県、山形県などの方からお話を頂いており、今までで一番遠くはイギリスからのご依頼もありました。

お骨の移動には申請が必要

お墓の片づけをするためには、撤去工事と墓地返却の申請をする必要があります。手続き自体は簡単で、手順通りに行えば誰でも出来ます。大変なのはお骨の移動。役所への申請が必須となりますが、その際にお骨の行き先が決まっていらないと許可が頂けません。お気を付けください。また墓地返却時は更地戻しが基本です。

外柵や石垣などの撤去も含まれる お墓の片付け

「お墓の片づけ」で気をつけて頂きたいのは、墓石だけではなく、外柵や土台の石垣、基礎の撤去も含まれるということです。外柵の塀を外してしまったら、お隣のお墓が壊れてしまうようなケースでは、完全撤去ではなく一部を残すケースもございます。このような時には、周辺のお墓の持ち主や管理者と協議を行ってください。

お墓が荒れてしまう前に

お墓へ足が遠のく中で無縁になり、荒れてしまう前にご自身で最後のご供養を行い、お墓を閉じるという考え方が悪い訳ではありません。お墓の片づけは、ご先祖さまや故人さまをお守りしていたお墓に対して、最後の感謝を伝える機会であり、立派な御供養です。負い目を感じる必要はありませんので、自信を持ってお臨みください。

お墓の引っ越し

お墓の引っ越しは家や車などと同じく、思い入れが強いものは中々手放せないもの。それが大切な家族のお墓となれば、その存在自体が想いのかたまりみたいなもの。簡単に建替えたり、新調すればよいという訳にはいきません。そこで今回は「お墓の引っ越し」についてお伝えします。

北海道から愛知県へなど、 遠方からのお引っ越しも

最近ご相談を頂いているのは遠方からのお引っ越しです。たとえば北海道から愛知県へのお引っ越し。九州の長崎からのお引っ越し。あとは福島県からや四国からの引っ越しもよくあります。そして岐阜や静岡から愛知県へというケースも。佐久島から海を渡ってこちらにお墓を持つてきたこともありました。

もちろん遠方ではないケースもございます。同じ市内の寺院墓地と市営墓地の間でのお引っ越し。中には同じ墓地内で行う時もあります。これらのケースを家で例えますと、同じ町内で広い家を購入し、リフォームして引っ越すような感じでしょうか。あるいはご先祖さまのお墓をお引っ越しされて、その隣に新しくお墓をつくり、ご自身を含めた、これからの家族が入る終の棲家とされることもあります。

意外と費用がかかるお引っ越しの現実

このように多くの方がお墓の引っ越しを模索されますが、中には検討を重ねた結果、最終的には故郷のお墓を片付けて、今現在お住みになっている地域に新しくお墓をつくることもございます。なぜそうされるのか理由はさまざまあるのですが、費用を検討した結果、引越しの方が高額となるケースも少なくありません。

実はお墓をそのまま移動できることは稀で、ほとんどの場合再加工が必要です。きれいに磨きなおすこともありますし、風化して消えかけた文字を再度彫刻することもあります。引っ越し元の墓地と、引っ越し先の墓地の広さが違う場合、大きければ切って小さくしなければいけません。小さい場合は土台をつくり直します。ご先祖

さまのお名前が彫刻されていない場合、追加で入れることもあります。

地震対策で手を加えるケースも

また昭和初期につくられたお墓などに関しては、引越しの時に解体し易く助かりますが、大きな揺れが起きた時など、地震に対する加工がほとんど施されていないため危険です。お墓の移転をきっかけに再加工を施し、金具を取り付けたりステンレスの棒で補強をします。

このような経緯から、新築よりもお引越しのほうが意外と高額になる傾向にあります。ただ最終的なご決断は、費用の高い・安いで判断してはいないようです。

お引越しにお迷いの方はご相談ください

皆さまのご決断を傍で見えますと、費用の多い少ないよりも、長年お墓を守ってきた方々の想いや、これから家族が何を大切にしていきたいかという決意の表れがお墓に影響するようです。お墓を引越すことでしか得られない、幸せもあるかと思えます。お迷いの方はぜひ一度ご相談ください。

お墓を守る意味と方法

100年立ち続けるお墓

お墓はお亡くなりになられた方を供養する為につくられますが、近代のお墓は次世代へ引き継いでいくことも重要な要素となっています。100年といっても、ただ単に「100年あり続けるお墓」をつくるのか「100年守り通すお墓」なのかで、100年後の未来は変わるのです。

お墓を守る意味とは

前者は「お墓をつくること」自体が目的のお墓になってしまします。お墓は石で出来ていますし、頑丈なので放っておいても存在自体がなくなることはありません。腐りませんし、朽ちて消えることもありません。ただただ、荒れて行くだけです。それでもよいというお墓も当然ある訳です。

しかし後者の「お墓を守ること」を念頭に置いていた場合、お墓をつくる醍醐味は完成のときに訪れるわけではありません。毎年恒例のお盆やお彼岸のお墓参り。お子さんやご家族と一緒に往くお墓そうじ。そしてご先祖さまや亡くなった家族へ花を手向け、手を合わせて感謝すること。それらの時間をお墓の前で行うこと自体に意味がある訳です。お墓をつくり、守るとはそういうものです。お墓を守るということでしか得られない、自立した家族の誇りも得られるでしょう。

お墓を守ってくれる関係を築くこと

100年お墓を守っていくことを考えると、多くの方に助けていただく必要があります。お子さんやお孫さん。御親戚や縁のある方。あるいは友人・知人に頼ります。家族であれば、常日ごろからお墓参りに行くことで、さまざまなことを伝えられるでしょう。家族以外の人に頼る場合はどうでしょうか。大切な事は「負担を強いる」と考えないこと。

相手が喜んで、「あなたのお墓を守りたい」もしくは「あなたが死んでもお墓に会いに行くね」と言ってくれるような関係が築けるように、日々感謝をしていく事が大切です。

そして守るお墓そのものに関しても、それなりの施しを行うべきです。押せば壊れるようなつくりではいけませんし、傷みが出たらその都度修繕を加えていきましよう。お墓を長持ちさせるには、メンテナンスも重要です。

100年前のお墓について研究する

どのようなつくりのお墓であれば、後世の方々へ残していくことが出来るのでしょうか。100年長持ちするお墓について考えるのであれば、逆に今まで100年以上の間、長持ちしているお墓について研究することで、その秘訣を知ることが出来ます。

100年前と言えば、具体的には大正初期のお墓です。どのようなお墓であれば100年守れるお墓になるのでしょうか。その頃つくられたお墓から導かれる答えとしては、あまり装飾のない、シンプルなお墓である事。そして重心が低く安定感のある形状が大切なようです。

定期的なメンテナンスで長持ちさせる

また小さなものがすべてよい訳でもなく、大きなお墓にはドッシリした安定型のお墓が数多く見受けられます。

そして必ず補強がなされています。構造上はなるべく石を分割せずに、無垢材でつくることも大切。ただこれらはお金もかかることなので、予算を考えながら頑丈で見栄えのよいお墓をつくることが重要です。

お金を沢山かけさえればよい訳でもありませんが、手抜きは後悔の元。金額と丈夫さ、そして見栄えのバランスを取りながらお墓づくりを進めてください。出来上がったお墓は定期的にメンテナンスをすることで、より長持ちさせられます。

具体的な構造などは、弊社の内部構造モデルなどをご参考ください。いつでも自由にご見学頂けます。

お墓の傾き

今のお墓の気になるところ

「今あるお墓に気がかりなところがあつて、どうしたらよいのでしょうか？」というご相談をよく頂きます。その中でも目立つのが「お墓が傾いている」という話。決断の早い方は「建て替える」もしくは「建て直しをする」といった方向に進むことになります。

そのような場合は、通常のお墓づくり＋今建っているお墓の解体・移動工事のご相談となります。どれくらい金額で出来て、大きさや形についてはどうするかなど、具体的な話し合いが行われます。

どうしたら良いかわからない3つの理由

しかしサクサク話が進む方は稀で、実際はどうしたら良いかわからないまま、悩み続ける方が大半。「お墓に異常があるのはわかる。でもどうしたらよいのだろう」と

いう状態です。このように悩んでしまう理由は3つあります。

- 1つには「自分がやっていいのか？」
- 2つ目として「そもそもお墓をなおすって、やってもいい事なのか？」
- 3つ目は「いくらかかるかわからない」

話を聞いていると、大体この3つのお悩みどれかに当てはまります。これらを詳しく解説します。

1. 自分がやっていいのか？

まず一つ目の「自分がやってよいのか？」という悩みについてですが、逆に、それでは他に誰がするのでしょいか？ということになってしまふ。次の世代なのか？嫁いできた奥様にしてもらうのか？兄弟という訳にもいきません。お墓を守っている家の長であるご自身が決断するものです。最終的にこのようなご相談はご本人が決めるとしかありません。ご自身の覚悟が次世代を幸せにします。

2. そもそもお墓をなおすって、 やってもよい事なのか？

2つ目は「そもそもお墓をなおすって、やってもよい事なのか？」というお悩み。多くの方のお墓をなおす理由は明白で、

- ・お墓を綺麗にしたい
- ・より良くしたい
- ・次の世代に整えてからバトンタッチしたい、との思いが強くあるようです。

一旦引いて考えることが出来れば分かって頂けると思うのですが、どこにも私利私欲がありません。負い目を感じる必要など一切ないのです。お墓を整えようとする方がお墓について気になったら、立ち止まらずに一刻も早く手直しすることをおすすめします。

3. いくらかかるかわからない

お墓事にかかる費用は不透明な事が多いです。しかし金銭的な側面から、災害によってお墓が壊れたら1、2万円で済むものではなく、時には100万円以上のお

金が必要です。事前の補強、修繕であれば、予防にもなり、数万円から十数万円で済みます。これに関しましては、勇気を出して見積もりを依頼してください。

今建っているお墓を整える場合は、墓地を見ないで話を進める事は出来ません。家族で話し合いを行う前に具体的な資料が必要であれば、私どもが墓地まで伺って、ご提案やお見積もりをご用意します。家族会議にも安心して臨む事が出来ますので、どうぞご活用ください。

お墓のまとめ方

「お墓のまとめ方」について詳しくお伝えします。お墓をまとめる場合は、大きく分けて2パターンのまとめ方があります。まずは「何か所か点在する墓地に守るべきお墓があつて、それらを一か所の墓地に集約する」というケースです。

何か所にも点在するお墓をまとめる時とは

墓地が何か所にもあるケースで、もつとも多いときで4か所という方がいました。まずはその方の事例を元にお伝えします。

その方ご本人が長男で、家代々のお墓があります。そして奥さまのご実家代々のお墓。加えて義母方のご実家のお墓もあり、こちらは後継ぎがいなかったため絶家状態なので一緒に祭りたいというご要望。さらにはご夫婦のお子様小さくしてお亡くなりになった時に、個別でお墓をつくり祭っていたということ。合計4つのお墓守を

行っていました。

今回ご夫婦のお嬢様（一人娘）が他家に嫁ぎ、将来的にお墓を守っていく方がいなくなるということで、お墓をまとめようと決断されました。

このように成人していないお子様や、ひとり身で亡くなったおじさん、おばさんが個別で祭つてあるというケース、実は少なくありません。何かのきっかけでお墓をまとめる際、せつかくなら一緒にという想いから、ひとつのお墓にされるようです。

最初に中心となる墓地を決める

別々の所にあるお墓については、そのまま守っていければ、一つにおまとめする必要はありません。そもそも独立した一族や家族ですし、理由があつて本家のお墓と分けている場合もあるからです。しかし守つて行く方が元氣なうちはいいいのですが、だんだんと関わる人数が減ってきます。その際に、「このお墓も頼む」「うちも頼む」「あれも頼む」と増えてきて、すべてを守り切れなくなつて、まとめるしかないという結論に至ります。その際の手順としては、まずメインをどの墓地にするか決定します。系譜上でコアなところが基本になるケースがほとんどです。通常ならご主人の実家のお墓です。あるいは今後お

墓を守っていく方の生活圏に一番近い墓所を選ぶというケースもあれば、市営墓地など、新しく墓地を取得してそこにまとめるというケースもあります。

次はどの墓石をメインにするかを決める

墓地をどこにするかを決めたら、次はどの墓石をメインにするかを決める。この際は基本的に3パターンあります。まず一つ目は傷みが少なく、今後もつとも長持ちするであろう墓石をメインに据える方法です。次に二つ目として、象徴となる墓石を新しくつくり、それをメインに据える方法です。

最後の三つ目はこれら2つの方法の混合型。新しい仏さまは、新しくつくる墓石で祭ります。今までのご先祖さまは、今まで祭っていたどれか一つの墓石を供養塔として、そこに集約する。その逆も考えられます。一番長持ちしそうな墓石を修繕して新しい仏様を祭り、五輪塔など供養塔を新しくつくり、そこに今までのご先祖様をお祭りするという方法です。

1か所の墓地にあるお墓をまとめる時は

そしてお墓をまとめる場合のもう一つのパターンとしては「すべての墓石を一つの墓所に集約する」という方法です。すべての墓石の全パーツを持つてくるのは大変なこと。一番上の竿石のみをずらつと並べることが多いです。過去一番多くのお墓を並べた数は40基ほど。確か16代続くお家柄の方で、たくさんのお墓がありました。どのようなケースでも今のお墓の現状把握と、過去どのような方が祭られてきたかを調べます。そして今後ほどの程度、お墓守に関われるかを考えて、プランをつくることが大切になってきます。お墓を新しくつくることはいつでもできますが、一度集約してしまうと、後戻りは出来ません。慎重に話を進めてください。困ったらいつでも相談してくださいね。お待ちしております。

お墓の水染みなどの ご質問にお応えします

【お墓の整え方】についてのご相談はさまざまで、「墓石に水をかけるとシミになるので良くない事なのでは？」というご質問や「故人のコレクションをお墓に取り入れてもよいのか？」などの質問も頂いています。そこで今回はこれらのご質問に対して、順番にお応えします。

墓石シミの原因は？

まず「墓石に水をかけるとシミになるので良くない事なのでは？」というご質問ですが、まったく問題ありません。皆さまがお墓参りに行かれて、お掃除やお祈りの時にお水をかけるときの量と、雨降りの時にお墓にかかる水の量を比べた場合、比較にならないほどお墓は普段からお水を被っています。仮にシミになったとしても、お参りの際の水かけがすべての原因ではありませんから

ご安心ください。

墓石にシミが出来るときは、何かしら原因があります。もちろん、墓石に浸透した水が媒体となるケースもございます。ただ水そのものがシミになるのではなく、水に溶け込んでしまった何かの汚染物質が墓石の表面に残り、シミのようになるのです。その原因は石材を固定する際に使用したセメントのアルカリ成分であったり、接着剤の油成分や石材内部の鉄分、そして空気中や地中の汚染物質かもしれません。原因は特定できません。

お墓掃除で水分をしっかり拭き上げておくこと

墓石のシミを真剣に防ぐためには、原材料である石そのものの、そして水の性質について詳しく知る必要があります。石という素材は、目に見えない小さな穴がたくさん空いている多孔質の物質です。石と水の関係性でいえば、石は水を吸ってしまうため、水を内部にまで浸透させますが、水のほうは次第に揮発しなくなっていくます。その時に、水に溶け込んでいた何かしらの汚染原因が表面の層に残り、シミのようになるのです。

墓石のシミを防ぐためにするべき事は、お墓掃除や雨

降りのあとは、石の表面に残った水分をしつかり拭き上げておくこと。もちろん、一時的に濡れた状態となりますが、ずっと濡れ色が続くのを防げます。

お墓は現世を断ち切る場所

次にお墓の中に「故人のコレクションを入れてもよいのか」というご質問ですが、お骨を納める納骨室の中に、形が残る人工物を入れることはおすすめてできません。この辺りの地域の風習として、お骨を土に還すことが一つの目的です。コレクションが土に還るものであればよいのかもしれませんが、知らない方が困惑しますので、控えた方が無難でしょう。

百歩譲ってお入れになるのであれば、入れ歯やメガネなど、身につける生活必需品でしょう。お墓の移転などで納骨室からご遺骨上げをするとき、入れ歯はもつとも見かける遺品の一つです。あちらの世界に旅立っても、食べる時に困らないようにと、ご遺族の願いが込められています。

納骨室の中でなければギリギリセーフ？

納骨室の中でなければ、コレクションをお墓に取り入れることは今の時代ある程度ゆるされます。本好きの方がお亡くなりになられた際、お墓に本棚をつくり、残されたご遺族がお墓参りの際に一冊ずつ献本しているケースがありました。他にも、墓石の外柵にショーケースをつくり、そこにお亡くなりになった方の思い出の品を入れながら処分していました。お供えしたら片づけるのです。

お墓をつくる際、皆さま本当に驚くようなアイデアをお話しくださいます。もちろん実現可能なものから実現不可能なものまでいろいろあります。お墓は基本的に自由ですが、出来る事と、やってよい事は別です。誰も傷つけることなく、故人さまには心安らかにお眠りいただき、お参りする方が楽しくご供養を続けられることが一番大切です。ぜひ遠慮なく「こんなことできる？」とお尋ねください。お待ちしております。

お墓を片付ける前に 知って欲しい事

「お墓の整え方」についてお伝えしている中で、「お墓の片づけ」についてのご相談を頂きます。多くの人はなんとなく家族の将来に不安があり、お墓を片づけてしまえば、その問題から解放されると勘違いされていることも。そこで今回は「お墓を片づける前に知って欲しいこと」をお伝えしましょう。

不安は今も昔も同じ

まず今も昔もお墓をつくることはとても大変ということ。現在、お墓のことで悩まれている方も、100年前にお墓づくりを決意されたご先祖さま達も、同じように家族の将来に対しての不安を抱えていたということです。今と昔では世の中も変わっていますが、本質的なことは何も変わらないものです。むしろ現代は食べ物に困り

ませんし、戦争も70年間起こっていません。今と昔、どちらが安全で安心できる世の中なのかと言えば、今の方がよほど不安なく生きていけるはずです。

ご家族の将来の不安はご本人の問題

ただお子さんが近くに住んでいないとか、忙しくて会って話す機会がないとか、そういった事がご自身を含めたご家族の将来への不安原因になっています。しかしそれはあくまでも親御さんご本人の問題。実はお子さんたちは、そういった不安をまったく抱えていないケースが多いのです。

中には息子さんと一緒に暮らしているけれど、結婚しないということ、お墓を片づけた方がよいのかしら？ということを出す方がいらつしゃいます。これは息子さんにしてみれば、とても残念なご意見です。

意外にすんなりよい返事がもらえる場合も

中には、家族の誰にも頼らないという方もいます。お墓守を中心とした、すべての供養をおひとり抱え込んでしまっているため、考え方に柔軟性がありません。そ

んな方々を見て私が思うのは、「何か遠慮しすぎていませんか」ということ。

お子さんが転勤で遠方に居ても、仕事が忙しくても、外国に家を建てて家族と暮らしているとしても親と子です。ご先祖さまを大切に供養していくことに何も変わりありません。おひとりでお抱え込みすぎている方は、一度お子さんとお墓について話し合ってください。「僕が面倒みるから安心して」と、すんなりよい返事をもらえたという話は本当に多いのです。

お墓参りに2度3度と誘うことも大事

仮にお墓参りに誘って「忙しいからいけない!」と断られたとしても、あきらめてはいけません。2度3度とお誘いください。「まあいいや」という妥協は禁物です。

一緒にお墓参りに行けない状況であれば、些細な事で構いけませんので関りを持っていただくことから始めてください。今までお墓の花をご自分で用意していたのであれば、お子さんに買ってきてもらうとか、線香の香りを一緒に選んでみるとか、そんな些細なことで構いせんからお誘いしてください。そこから、何かしらの変化が起こってくるはずですよ。

自分が変わると問題は解決する

現状に問題があるとしたら、何か変化を起こさないと解決には至りません。そして変化するのは自分自身です。他人を変える力など、私たちは持ち合わせていません。自分が変わるしかないのです。そしてその変化が周りの人や環境を少しずつ変えていくのです。

お墓の片づけはいつでもできます。まずは本当に最後の手段を取るしかないのか、立ち止まって冷静に考えください。片づける必要のない場合がほとんどです。それでも片づけるという方は、いつでもご相談ください。お待ちしております。

お墓にまつわる儀礼・式典

「開眼式と納骨式」とは

お墓づくりで大切な「儀礼や式典」についてお伝えしましょう。お墓が完成した後の式典を「開眼式」や「建碑式」と言います。「精入れ、魂入れ」のような表現を使う時もあります。

弊社のような墓石店がつくらせて頂いた時には石造物であった「墓石」に「魂」を入れ、皆さまがお参りできるお墓にする儀礼です。そしてお骨を納める「納骨式」は、お墓づくりにおけるゴールであり、重要な意味を持っています。この日に向けてお墓をつくっているといっても、過言ではありません。

お墓参りという供養を積み上げる

お墓をつくり終えた後は、お墓参りという儀礼を繰り返し、少しずつお亡くなりになられた方へのご供養が積

み上げられます。供養という言葉には「積み上げる」という意味があり、一回何かをしたら完了するのではなく、何回も繰り返し積み上げていくものです。

お葬儀をして終わりというのではなく、お仏壇やお墓を準備して終わりでもありません。お墓が出来上がった後、お墓参りを何回も繰り返すことで、ご供養が積みあげられ、大切な誰かのために何かをしてあげたいという願いも成就されます。

法事やお墓が完成することも儀礼

仏教の式典に関しましても、四十九日、百カ日、1周忌、3回忌、7回忌、13回忌と続き、功德を積み重ねます。故人を供養するとは「儀礼と式典」を繰り返すことです。実はお墓が完成する前であっても、これらの供養を積み重ねることが出来ます。弊社であれば、お墓づくり始まりの儀式である「石割式」。墓地を清める「鍬入れ式」。そしてお施主さま方が行う「お写経」や「蓮の折り紙」を折ってもらうことも、ご供養につながる儀礼の一つです。

お墓づくりで重要な式典「開眼式と納骨式」

お墓の完成後は、お墓をお守りするさらし巻きの儀式があります。そして「お墓づくり」においてもつとも大切で、重要な式典である「開眼式・納骨式」を迎えます。

ご葬儀は人生における大きなセレモニーではありますが、予定を立てることは出来ません。お墓が完成した後に故人さまをお墓にお収めする「納骨式」は、ご遺族が主導権を持つて行うことが出来る最高の式典です。

人が成長する為に必要とされる通過儀礼のお手伝い

このような式典の数々はイニシエーション（通過儀礼）といわれ、人が成長する為に必要とされる重要な意味を持っています。せっかくお墓をつくるのであれば、その経験になるべく有意義なものにして頂きたい。

弊社では、お施主さまの時間が許す限り、出来る限り多くの儀礼を行っていただけるように心掛けております。今回お伝えしたような儀礼に関するお手伝いを行うスタッフも、常時訓練を重ねていますので、どうぞご利用ください。

お墓参りの基本

お掃除も含めた「お墓参りの流れ」について基本的なことをお伝えします。お墓参りは、礼節を持って神仏を敬うことが基本です。お寺の墓地（寺院墓地）の場合、最初にお寺の本堂に参ってご本尊へ礼拝を行うことが大切です。その際のお賽銭については、少ないとありがたいが無いですし、多すぎてもご利益を期待しすぎてしまいます。私は五百円硬貨が財布的にも気持ち的にもグツとくる金額なので、いつもそうしています。

お墓に着いて最初にする事

本堂に参ったら、今度は自家のお墓に向かいます。墓前に着いたら、まずは一礼。そしてお墓掃除をします。夏の暑い時期であれば、時間を短縮して構いません。水をサーッとかけてふき取るだけでも十分です。

ご先祖さまも、私たちが日射病にでもなってお墓の前で倒れることは望んでいません。安全第一でお掃除を行っ

てください。お掃除の後はお参りです。

お墓参りの流れ

1. 柄杓で墓石に水をかけます。
水をかけることで不浄を洗い流し、ご先祖さまや故人さまの霊を清めるのです。
2. お花を供えます。
夏の暑い時期は造花でも構いません。
3. 続いてお水を水鉢に入れてお供えます。
4. お饅頭や果物などのお供え物は、半紙を折ってその上に置くようにします。
そのまま手向けて頂いてもよいのですが、半紙の上にお供えものを置いた方がより丁寧なご供養です。その際は折った半紙のとがった方を自分達に向けてください。
5. 燭台にろうそくを立て、火をつけます。
6. ろうそくの灯明から線香に火をつけお墓に供えます。

線香は一人一本ずつ、参拝に來られた皆さままで順番に手向けてください。

感謝のお墓参り

そしていよいよお参りです。皆さままで合掌し、ご先祖さま、故人さまの冥福を祈りしよう。「今日お墓参りに來る事が出来て感謝」等々、心の中で感謝を伝えます。そして以前お願いしたことなどがあれば結果を報告。なければ近況などをお伝えして、今後の抱負などを述べます。最後に「どうかお力添えください」とお願いしましょう。

これがお墓参りの基本です。ただ夏の暑い時期では、お墓掃除と同じく時間短縮で、「ありがとうございます」と感謝を述べるだけでも構いません。お墓参りは朝の早い涼しい時間帯に行くことがおすすめです。

家族そろってお墓参りを楽しむ環境づくり

最近よく「子供たちが忙しくて、お墓参りに家族みんなで行けない」という話をお聞きます。忙しいから行

けない、ではなく、忙しいからこそお墓参りに行けるように、親世代が導かないといけません。親自らが演出して、お子さん達とお墓参りに行ける環境を整えましょう。

我が家の子供たちも学校の行事や部活で忙しく、親よりも友達と過ごす時間の方が多くなっています。しかしお墓参りに行けば、ご先祖様たちのご加護が得られますし、必ずよい事が起こります。自分たちの力で、家族そろってお墓参りが楽しめる環境をつくりましょう。

困ったらいつでも相談してください。お待ちしております。

線香の話

お墓へのお供えの種類として「お花」「ローソクの灯り」「線香の香り」の3つがございます。その中の香り、すなわち「お線香」についてお伝えしましょう。

お墓参りする人はお線香によつてその身を清め、お祈りをするための環境を整えるのです。墓地によつては湿気が多く、雰囲気も暗い場所もありますので、お線香を焚くことで清い香りに包まれ、清々しい気持ちでお参りすることが出来ます。

お線香の歴史と種類

お線香の歴史について紐解いてみますと、日本における源流は、聖徳太子の時代から始まっています。日本に伝わった香木から発展して、お香の調合技術が伝えられ、さらに中国からお線香の製法なども入ってきて、江戸時代では一般庶民にも広がったようです。

そしてお線香にはお寺や家庭で使用される「匂い線香」

と、お墓参りなどで使用される「杉線香」の2つの種類があります。「匂い線香」は煙が少なく、長さの種類も豊富で、タブという木の樹皮の粉末が原料で、白檀や伽羅などの香木や香料を加えて製造された線香です。

お墓で主流となっている「杉線香」は杉の葉の粉を原料としていて、杉特有の心地よい香りが心を落ち着けてくれます。煙も多く、この香りがすると「お墓参りだな」と認識される方も多いようです。

お墓での線香は1〜2本。

宗派によっては線香を立てないところも

線香を立てる本数は、宗派によつて1本、2本、3本と、数がそれぞれに決められています。お墓では、一般的に一人あたり1、2本です。宗派ごとでは、浄土宗、臨済宗、曹洞宗、日蓮宗は1本です。天台宗、真言宗は3本となります。ただ地域性もありますので、気になる方は旦那寺のご住職にお聞きするとよいでしょう。ちなみに浄土真宗の大谷派、本願寺派は、ともに線香を立てずに寝かせますが、香炉へ収まるように置いて頂ければ問題ありません。

お墓にお参りしてお線香を焚き、 手を合わせる

お線香に火をつけるときは、最初にろうそくに火をつけ、次にろうそくの灯明から火をいただきます。消す時は手のひらであおって消します。ローソクを消す時も同じです。ちなみに人間の口は悪行を積みやすく、ケガレやすいものとされているため、仏さまに供えた灯を口で消すことは止めたほうがよいでしょう。

お墓参りで手を合わせる時にお線香を焚けば、気持ちも安定させる効果も期待できます。最近ではお線香の種類も豊富なので、周りの環境やお好みに合わせて選んでもよいでしょう。微香・無煙タイプ、形もさまざまで、いろいろな香りもあります。どうぞ参考ください。

お墓に手向けるお供物

お供物のマナー

知っているようで実は知らない事柄の一つに、「お墓で手向けるお供物」がごございます。今回は「お供物」についてお伝えいたします。親族以外の方でも、初盆までに建てられたお墓へお参りに行く機会があります。真夏に初盆を迎えられるご家庭や、お世話になった先輩や友人のお墓参りに行く際、参考になるお供物のマナーとも言える一般的な常識です。

お墓で必要なお供物といえば、お墓が完成したときの「開眼供養」や「建碑式」の時に捧げているものです。お墓が出来上がってはじめてのお参りでは、出来るだけ盛大なお供物を用意します。

お墓が出来上がったときのお供物は

まず白を基調としたお花、お線香、おローソクですね。

そして山のもので干しシイタケ、海で昆布、旬の野菜が3種から5種ほど、同じく果物が3〜5種類。他には紅白のお餅かおまんじゅう、お酒、お洗米、お塩です。お野菜と果物は色どりを考えて、バランスよく選びます。これらがお墓の出来上がったときに行う式典で用いられるお供物です。

通常のお墓参りにはお花やお線香で十分

通常皆さまがお墓参りに行かれる際は、お花やお線香で十分です。そもそも仏さまのお召し物はお香と伝えられておりますので、お線香を手向けていただくことで、十分感謝の気持ちは伝わります。

ただ皆さんがお参りをされるときは、お亡くなりになられた方の幸せを願って祈りますので、生前に好きであった自分たちと同じ食べ物、お供物として捧げたくくなります。なので故人が好きだったものをお供物にされても、基本的には大丈夫。供養とは感謝を捧げる行為ですから、そこに想いが込められていれば十分です。

夏の暑い時期にはとくに注意が必要

ただ暑い日が続く真夏のお墓参りでは注意が必要。お供え物として「生ものはNG」です。土用の丑の日だからと言ってウナギはやめたほうがよく、出来ればせんべい、クッキーなどのお菓子にしてください。また傷みやすい果物などは、お参りの後で召し上がる際も十分に気を付けてください。

飲み物は容器のままお供えするのが基本です。しかし時折、カップ酒やビールの缶を開けて、お墓の頭からかけられる方がいらつしやいます。仏さまはお悦びになると思いますが、石にはあまりよくありません。かけたお酒などの3倍以上はお水をかけてあげてください。

お供え物はお持ち帰りが基本

最近では、お酒の形をしたローソクも販売していますので、それらを手向けられてもよいでしょう。お墓でご供養に用いるお供物は、感謝を捧げる意味があります。モノよりも気持ちということ、しっかりとしたお参りを忘れずをお願いします。

お供えした供物は、その場でお召し上がることが一番

好ましく、その場で食べられない時には持ち帰ってください。間違つて墓地に残して帰ってしまった場合、野犬やカラスのたまり場になる恐れがありますので、どうか十分にお気を付けください。

世界の埋葬

火葬と土葬

今回は「世界の埋葬」と題して、埋葬方法の違いなどをお伝えします。いろいろな国々のお墓にまつわる習慣です。

その前にまずは日本の現状について知っておく必要があります。日本ではご遺体を「火葬」にして、お骨としてお墓に埋葬するのが一般的。この火葬の対極にあるのが「土葬」なのです。ご遺体を燃やさずに、そのまま土に埋める埋葬方法。まずは「土葬」からおさらいしていきます。

七十年ほど前までの日本は「土葬」が主流

日本の「土葬」は、七十年ほど前まで90%以上の確率で行われていました。今でもご年配の方々からは「父を送った時は土葬だった」というお話が聞けます。お

墓の引越しの際に土葬であつたご遺体を掘り起こし、再度火葬して移転先で祭るということも時折あります。しかし現在日本の火葬率は99.9%になっているため、土葬は稀な事です。

100%ではない理由として、わずかではありますが地域の風習・習俗として土葬の文化が残るところもあるからです。それらは墓地埋葬に関する法律という法の中でも許可されています。ただし自治体の条例で禁止されている地域もあります。それらの地域では火葬以外許されません。

日本は百年足らずの間に主流は「火葬」に

このように「土葬」を主流としていたのに、百年足らずの期間で一気に100%火葬になった国は、おそらく日本をおいて他にはないと思われまゝ。その理由としては大きく2つあります。

一つは土葬を行った際の衛生上の問題を国として解決し続けてきたことで、近代以降、日本ではお墓をつくり、御遺骨をその中に収めてお祭りする方法を主流としてきました。もう一つは国土の広さと人口のバランスです。土葬にするためには広大な土地が必要となりますが、火葬のお墓にすれば、人口が増えても大丈夫。国土の狭い

日本にピッタリの葬送方法です。

ところが近年では火葬した後の埋葬方法にもバリエーションが増えてきました。海への散骨、樹木葬、ちよつと変わったところでは宇宙葬などといって、ロケットでお骨を宇宙へ放り出す葬送もあるようです。

「水葬」や「鳥葬」など、驚くべき世界の埋葬方法

次に世界の埋葬に目を向けますと、実は日本と違って「火葬」は少数派。日本のお盆のような行事がある同じアジアの中国・韓国では、儒教の影響が色濃いため、親からもらった体を焼いてしまうことをよしとしない考えも多く、「土葬」と「火葬」は半々くらいのです。

キリスト教が主流の欧米諸国では、死後の復活が信じられているため、遺体を焼くと復活できないという考えのもと「土葬」が主流です。しかもご遺体が腐敗しないように特殊な方法を使って防いでいます。日本人的な考え方ですと、早く土に還してあげたいと思いますが、宗教・文化が違うのです。

宗教が違うと言えば、インドではご遺体を川に流す「水葬」であったり、人様の目につくところで「火葬」にします。

チベットでは山の上にご遺体を放置して、鳥がついばんでいずれ肉体がなくなる「鳥葬」を行っています。ただこの方法を日本で行いますと刑法百九十条の死体遺棄罪・死体損壊罪になるので、お気を付けください。

日本人らしいお墓とおつきあい

国が変わればお墓も埋葬も変わります。世界の埋葬について多くの戸惑いを感じられたとは思いますが、それは私たちが日本人であることの証しです。日本らしい文化を大切に、これからお墓とおつき合いをしてゆきたいものです。具体的な方法でお迷いの時はどうぞお気軽にご相談ください。

お墓参りの良い話

春のお彼岸にも近い頃は、寒さも和らいで暖かい日も続きます。お散歩がてらお墓参りをしている方もチラホラ見かけることも。今回は「お墓参りの良さ」についてお伝えします。

お墓参りは良いか悪いか

本題に入る前に少し変わった電話相談をご紹介します。ある方がお墓参りの帰り道で交通事故に遭ってしまったそうです。「原因はお墓参り？ やはり行かない方がよいのでしょうか」というような内容でした。事故自体は軽く、お怪我はなかったそうで一安心でしたが、お墓参りと日常生活での出来事を結び付けてしまったのは、少々考えが飛躍していたように思えました。

何か不幸な出来事があった時、ご自身に非がなくても起きる場合もある訳です。中には理不尽な出来事も起こり得ます。原因を探したくなるお気持ちにはわかりますが、

マイナスな出来事の原因をお墓参りに求める事はお止めください。

御先祖さまと心の会話が大切

お墓には、自分自身のご先祖さまやお亡くなりになった大切な方が祭られています。その方達に会いに行つて、感謝したり近況報告をしたり、何かしら心の会話が行われるはず。そうであれば事故から守ってくれたと考えるほうが幸せではありませんか？

お墓で祭られている方々は、私たちを見守ってくれる存在。何か嫌な出来事が起こった際にも「守ってくれたからこの程度で済んだ」と考えるほうが幸せです。

お墓は故人が過ごした人生の証

弊社のお施主さまからは、日々お墓の存在意義を学ばせて頂いています。ある女性が、若くしてご主人を亡くされた。小さなお子さん3人を育てながらのお墓づくりとなりました。近所にあるお寺さまのご好意で、檀家ではありませんが墓地を分けてくれたので、そこにお墓をつくりました。しかしいろいろなご事情があり、お墓を

移動させなくてはいけない事になったのです。

お金もかかることなので、ご主人の実家のお墓に合葬してお墓を処分しようとも考えました。しかしそもそもお墓をなぜつくったのか、という原点を振り返り、ご主人の生きていた証がお墓なんだ、ということに気づかれたそうです。

お墓は死に別れた家族にとっての特別な場所

「子供たちにとって、父親とお話する場所はお墓であり、彼が子供たちに何かを伝える場所もお墓だと思います」とその女性は語っておられます。

お墓は当初、私共がつくらせて頂いた時はただの石造物。その後お墓で祭られる方の事を想い、皆さんが何度も何度も手を合わせることによって「家族の絆」を象徴するものになっていくのです。ある時は、お亡くなりになった大切な家族。ある時はご先祖さまとして、お墓が人格を持つようになるのです。

お墓参りは思い立ったその日が吉日

日々の仕事や日常に追われていきますと、落ち着いて自

己を見つめ直したりする余裕も、ご先祖さまへ感謝する時間も取れません。お墓参りをすると、日々の喧騒から少し離れた環境になり、心に余裕も生まれ、感謝する雰囲気にもなります。思い立ったが吉日です。一年中いつでも、気が向いたらお墓参りに足を運んで頂けたら嬉しいですね。ご参考ください。

春のお彼岸

春分の日

毎年お子さんの成長を願うおひな祭りが3月に行われます。今回は「春のお彼岸」についてお伝え致しましょう。春のお彼岸は、春分の日を中日とした前後3日間を加えた7日間となります。太陽が真東から出て真西に沈むことから、西の彼方にあるという「西方浄土」に一番想いが届く日とされています。

彼岸とはあちらの世「西方浄土」

お彼岸はご先祖さまを敬い、亡くなった人を偲ぶ日ですが、この「西方浄土」に私たちのご先祖さまがいらつしやると伝えられているのです。あちらの世界を「彼岸（ひがん）」といい、私たちのいるこちらの世界を「此岸（しがん）」といいます。つまり「彼岸」と「此岸」がもつとも近くなるのがこの時期になるという訳で、私たちが

願う故人さまの幸せや、ご先祖さまへの願いが強く届き、ご先祖さまたちの子孫を想うご加護も強くなるとされています。

世界に誇る文化として

実は、お彼岸の時期にご先祖様を供養するのは日本独特の風習です。日本以外の仏教国では、お彼岸にご先祖さまを供養致しません。世界に誇る事の出来る、素敵な文化といえます。しかし「西方浄土」やあの世にご先祖さまがいるとしても、お墓や仏壇で、先祖供養のためにお参りするのはなぜなのでしょう？

日本固有の民間信仰では、私たちのご先祖さまは街が見渡せる小高い丘や山にいとされていますが、仏教的には先ほどお伝えした「西方浄土」で知られている彼岸におられる訳です。本当はどこにおられるのでしょうか？

私たちとご先祖さまとのつながり

その答えとして、最先端のIT技術に例えます。ご先祖さまがいらつしやる西方浄土は「クラウド」、お墓は「デスクトップ」、お仏壇にあるお位牌は「スマートフォン」。

携帯電話」とお考えください。これらはすべてどこからでもアクセスできるのです。

しかも別の場所でも同時に参りしても、すべてに同じように願いを聞き入れて下さり、ご加護を与えてくれる力を持っています。ご先祖さまとはそのような存在なのです。

お彼岸にお墓参りをするのも日本文化

このように日本のお墓は固有信仰を根本に、大陸から伝わった仏教、儒教なども取り込んで、独自の進化を遂げています。お彼岸にお墓参りをするのもその一つなのです。

だからと言って、お作法など難しく考える事は一切ありません。とにかくお墓参りに行つて、手を合わせてご先祖様に感謝していただくだけで十分です。お亡くなりになられた大切な家族の幸せを願えばよいのです。

ご先祖様を敬う習慣はお墓参りから

昔の家庭では、おじいちゃんやおばあちゃんから「ご先祖さまを敬い、お墓参りする」という習慣を身につけ

させられたもの。今は家族構成の変化により、前の世代とのつながりのない家庭が多くなっています。「お墓参り」と「先祖供養」は自然と伝わっていた事ですが、今では私の様な墓石店が声を大にしてお伝えしないと、多くの方が知り得ない情報となつてしまいました。

とはいえご先祖さまのとの関わり方やその理由を難しく考えずに、とにかくお墓参りをしてください。参拝方法やしきたりは二の次で構いません。「心の赴くまま」で結構です。行くと気分が良くなります。春のお彼岸には、ぜひ家族みなでお墓参りを楽しみましょう。

七夕とお墓の関係

旧暦で七夕（たなばた）と言えば、お盆と同じ時期に設定されており、お墓とも決して無縁ではありません。意外と知らない「七夕とお墓」についてお伝えします。

昔は七月七日の夕方からお盆の準備

お盆になると、お仏壇に精霊棚（しょうろうだな）という飾り付けを行うご家庭も多いはず。その棚をつくるのが七月七日の夕方だったと伝えられています。なので元々七夕という文字は、棚をおるという文字に機（旗）と書いて、棚機（たなばた）と呼んでいたのです。それが七日の夕方に飾り付けするので、七に夕の当て字が用いられるようになったそうです。

そして精霊棚の飾りつけに笹と短冊が用いられることから発展して、今の七夕飾りになりました。お願い事を書く風習については、諸説あるのですが、文字を書く練習の一環として、鎌倉時代に貴族の間で始まったと伝え

られています。

七夕とは意味合いが違うお墓参りのお作法とは

七夕のお願い事とは違い、お墓参りで行う願い事はお作法的に一番後。七夕飾りのようにストリートではありません。お墓参りで、まず一番に大切なことは、亡くなられた方やご先祖さまへの感謝とご供養です。お墓参りに行かれる時は、故人さまやご先祖さまに対して、あちらの世界での幸せを願い、お墓掃除をします。またお寺の境内に墓地がある場合は、本堂への礼拝、ご住職への挨拶を先に済ませておきましょう。

お墓掃除が済んで綺麗になったら、お墓にお花やおローソク、そしてお線香を手向けます。次にゆつくりと手を合わせ、目を閉じて心の中で祈ります。その際は先にお伝えした通りで、まずは感謝です。今日、ここに無事お参り出来たことや、この世に生を受けている事などに感謝します。

よい出来事などの報告も先祖は喜ばれる

その後で自分や家族の近況報告・・とくに良い出来事をお伝えすると喜ばれます。そして悩みがあれば、こんなことに困っているとお伝えましょう。もし以前にしたお願いが叶っていたら、そのことを伝え、感謝します。たとえば子供の成績が上がったとか、野球の大会で優勝できた、ケンカしていた友人と仲直りしたなどですが、感覚的には久しぶりに会った家族や親戚とお話をする雰囲気がいでしょう。

最後にお願いをしますが、「お金がほしい」というようなお願い事ではなく、「来週、会社のイベントがあるので頑張ります。見守っていてください」「来年こそは海外旅行をしたいので、どうかお力添えをお願いします」など。こんなことに頑張ります、というような決意表明に近くなります。

七夕飾りに因んだお供え物

お墓参りでのお願いはそれぞれ家族独特の個性が現われるものです。お墓のお供え物も同様で、少し変わった物もごございます。七夕の時期なら、短冊付きの笹をその

まま花立に入れてあるのを見かけたことがあります。

食べ物なら、刺身、焼いたお餅、グラスに注がれたワインもありました。線香立にタバコが供えられているお墓もよく見かけますが、煙が出たままのときなどは、周りのお墓や職人の健康を害する恐れがあるかもしれないと思い、ササツと消させて頂いた事もございます。

もちろんお参り後はお上がりいただくか、お持ち帰りが墓地でのマナーです。どうぞご参考ください。

お盆のお墓参り

お盆の連休となりますと、まとまったお休みを利用して遠出したり、家族旅行をする方もいらっしゃると思います。もちろん、そのような家族の時間も大切ですが、ご先祖さまも元をたどればご家族の一員です。そんなご先祖さまとのつながりをしつかり確認できて、新たな活力を頂けるのもお墓参りの醍醐味です。そこで今回は「お盆のお墓参り」についてお伝えしましょう。

お盆は墓地も混雑

お墓参りはご先祖さまへの感謝と供養のための特別な儀礼です。本当は静かな墓地で心を落ち着けて頂いて、心ゆくまでお墓を綺麗にした後に手を合わせて頂きたいのですが、お盆の時期は人気の旅行スポットと同じで、墓地もかなり混雑しています。

街中の墓地にお墓がある方は、車ではなく公共交通機関を使う方がよいでしょう。その際お寺さまの境内墓地

である場合、ご住職さまへの御挨拶を忘れないようにしてください。御仏は大切なご先祖さまや、ご家族が眠るお墓を守って下さっております。必ず本堂のご本尊へ礼拝してから、自家のお墓へ向かってください。

お盆はあの世のご先祖さまがこの世への里帰りする日

初盆、新盆を迎えられる方の場合、地域や宗派の違いにもありますが、いつもに比べ盛大にご供養を行う風習があります。基本はあの世のご先祖さまがこの世へ帰ってくる日です。気持ちのよい里帰りができるような準備をしてください。

お墓参りを中心としたお盆期間の先祖供養については、新暦の7月15日をお盆とする地域もありますが、東海地方ではおおむね8月15日をお盆としています。それでご先祖さまを迎えるお盆の入りは8月13日。14日、15日にお盆の供養を行い、15日の夕方か16日に送りを致します。これが一般的なお盆の日程です。

お盆はご先祖さまと親への感謝の日

そもそもお盆とは何をする時期なのか？ということですが、これについてはご先祖さまのお迎えだけをしていればよい訳ではありません。まずはご先祖さまのお家でもあり、そのものともされるお墓を、感謝の念を持ってきれいにする事が重要です。

また短い期間に家でくつろいで頂きますが、家族の守り神として今後も頑張ってください、お守りください、とお願ひもします。ちなみにお盆はご先祖さまだけではなく、自分の親への感謝や、日頃の労をねぎらう日でもあります。

先祖供養に手を合わせる親の後ろ姿を見て育った子

最近ご自分のお子さまが忙しくなったため、お墓参りも親世代だけで済ませてはいませんか？その姿勢、考え方は良くありません。お子さん、お孫さんに対し、親のお墓を掃除する姿、しっかりとお墓に手を合わせて感謝する背中を見せてあげてください。

どんなによい塾の夏季講習に行くよりも、大切なこと

を学んで頂けるはずです。暑いとか、嫌がるとか、時間がないという言い逃れに負けてはいけません。クーラーの効いた部屋を飛び出して、とにかく家族を巻き込んでお墓参りに行ってください。汗をダラダラ流してお墓掃除をいたしましょう。日頃の悩みや問題など、大したことはではないという境地に到達できるかもしれません。

お墓参りの習慣が生きる力を育てる

長期的な視野から見て頂ければ、お墓参りの習慣が身に付いて良かったと思う日が必ず来ます。お墓の持つ力を信じてください。ご先祖さまに感謝することで得られるこの力は、自分自身のルーツ、存在に対して自信を持つて日々生きる活力を与えてくれます。子供たちが夏休みでどこに行こうかなと迷ったら、まずはお墓参りに行ってから、休む、遊ぶ。それぐらいの心構えを、親御さまは持つていて欲しいものです。

どうぞご参考ください。

お盆の起源

お墓が一番身近に感じられる時期であり、みなさんがご先祖さまと一緒にいられる大切な時間でもある「お盆」の起源についてお伝えしましょう。

諸説あるお盆の語源

まずその語源・・・由来については諸説ありますが、よくいわれるのが仏教經典の孟蘭盆經（うらぼんきょう）の盆（ぼん）が元になっているという説。また孟蘭盆（うらんぼん）という言葉は、古代インドのサンスクリット語「ウランバナ」で、中国では「倒懸（とうけん）（逆さぶりにされた苦しみ）」と訳される。

このお経には中国の先祖まつりや、儒教でいうところの「孝行」の教えが強く影響しています。しかし最近になって、古代イラン地方の先祖の靈魂を我が家に招いて祭る「ウルバン」が「ウランバナ」に代わり、お盆の語源ではないかともいわれています。

孟蘭盆經のお話し

孟蘭盆經（うらぼんきょう）の内容を簡単にお伝えしますと、お釈迦さまの弟子である目連さんが修行によってあの世を見通す、神通力を身に付けました。その力であの世にいるお母さんを探してみると、「餓鬼道」で苦しんでいました。お母さんに食べ物届けたい一心でお釈迦さまに相談したのです。

お釈迦さまは夏安居（げあんご）といって、インドで雨季に行われる修行の最終日（7月15日）に多くのお坊さまに供養すれば、その功德でお母さんに食べ物が届き、救える事が出来ると教えてくれました。目連さんはその通りに実行して、お母さんを救い出したという話です。

日本人らしいお盆とは

このお話は、現在のお盆行事とはだいぶかけ離れています。中国大陆の道教や儒教の影響も受け、日本へ伝承された後、独特の日本らしさが加味された結果、今のようなお盆になったと推測されています。他にも、ご先祖さまへ捧げるお供物を「お盆」の上にのせるので「お盆」

が語源になったという説も。意外とこれが本命なのかもしれません。

そのお盆の上に置かれている供物で、よく見るのは精霊馬（しょうろうま）と呼ばれるキュウリの馬とナスの牛。キュウリの馬はご先祖さまをより早くお迎えするために。ナスの牛は、お帰りはのんびりゆっくりしていただくためといわれています。

変わった風習のお盆行事も

他にも長崎県では、お盆のお墓参りの際、花火や爆竹で大騒ぎする風習があります。また広島県のある離島では、初盆を迎えた人の遺影を背負い、盆踊りを行う風習があるそうです。有名なのは沖縄県。お墓も少し特殊で、お盆には家族揃ってお墓で宴を開くそうです。さらにご先祖さまがああ世でお金に困らないようにと、紙のお札を燃やす地域もあるとの事。それぞれの地域によって変わった文化・風習のお盆行事がいろいろとあります。

死ぬことを終わりとせず家族の心の中で生き続ける

このような日本人が大切にしてきた素敵な文化・風習は世界中どこを見渡しても珍しいものといわれています。日本人にとってのご先祖さまは死んで終わりではなく、子供や孫、そして地域の人々を見守る存在になる事で、残された家族の心の中で生き続けているのです。

この日本らしい素敵な思想を、次の世代へも大切に継承して行きたいものですね。

海外のお盆

毎年「お盆にはお墓参りに行ってください」と繰り返してお伝えしておりますが、それだけでは芸がありません。そこで今回は「世界のお盆」と題して、海外の国々にあるお盆に似た行事についてお伝えさせていただきます。

韓国

まずはお隣の韓国ですが、「秋夕（チュソク）」と言って、旧暦の8月15日に故郷に集まった親戚一同で先祖のお墓参りに行きます。秋の収穫を祝うお祭りも兼ねており、一年を通じて一番月が明るくきれいな時期に、盛大なお祭りがなされるということです。日本で言えば秋のお彼岸にお月見をするようなものでしょうか。

中国

続いて中国は4月5日頃に行われます「清明節（せい

めいせつ）」。儒教の影響で親を大切にすることを重視する中国では「生きている人と同じくらい、死者も大切に」という考えから、お墓を先祖が地下に住んでいる場所として、雨季が到来する前の季節にまずはお墓を修復します。さらに整理して草を刈り、土を盛ります。そしてお供物を並べて礼拝し、先祖にご加護と平安を祈るそうです。

この中国の清明節は日本のお盆とほぼ同じ行事。ただ日本と中国ではお墓を掃除して、お参りするまでは同じですが、そのあとが少し違います。日本のご先祖さまの場合は、家までお連れすることも含め、お盆としています。中国のご先祖さまはその場で宴会となるのです。冥銭（めいせん）といって、紙のお金を燃やして、あちらの世界でお金に困らないように祭ります。親族みなでお供物や料理を食べて騒ぐということ。日本でいうところの盆踊りみたいな感じでしょうか。

タイ

続いてタイですが、「サートジーン」と言い、日本のお盆の由来でもある「盂蘭盆会」という行事とほぼ一緒です。盂蘭盆会とはご先祖さまや亡き親の精霊に対し、供物を捧げ、あちらの世界での苦を減らし、幸せを願う仏教行

事です。そのために親戚一同が集まります。

タイの先祖供養の風習はほぼ日本と同じですが、神さまやご先祖さま、身寄りのない魂に対して、3回に分けてお供えするのが慣例です。お供物も独特で、白と黒のもち米を使った12種類の決められた料理やお菓子を各家庭でつくるのが習わしとされています。

しかし近年では宅配ピザやケンタッキーで済ませる家もあり、伝統料理や伝統文化の継承については、日本だけでなく世界各国共通の悩みでもあるようです。

あの世からこの世に帰ってこられる 日本のご先祖さま

このように海外にも日本のお盆のような伝統行事がいくつかありますが、みなさんはご先祖さまがなぜあの世から帰ってこられるのか、考えたことはあるでしょうか？

これについては諸説がありますが、お盆の期間中は「地獄の鬼も罪人の呵責（かしやく）を休む」という言葉があるように、もともと日本にはこの時期、霊があのだとこの世を往来しやすくなるという民俗信仰があったそうです。それが仏教の盂蘭盆会と融合し、お盆での先祖供養という日本独自の国民行事になったということです。

最近の日本ではハロウィンも

また日本国内では最近、西洋の宗教行事の一つでハロウィンというイベントも浸透してきました。この行事の由来として、西洋ではご先祖の霊が戻ってくる時期には悪霊もやってくる信じられていて、魔よけの為に仮面などを身に付けていたことが起源と伝えられています。

しかし今では、宗教的な意味合いが消え失せ、仮装して大騒ぎするお祭りイベントになっています。日本ではお墓参りでの先祖供養も、民俗信仰における神事（かみごと）も一様に「祭り事」と言っていますが、海外各国の宗教文化と日本固有の民俗信仰が融合したものが、現代の「お盆」なのかもしれません。ご参考ください。

お墓の災害対策

大きな被害をもたらす災害

昨今は大型台風や、各地で震度5を越える地震など、大きな被害をもたらす災害が頻繁に起こっています。そんなこともあり、各地の墓石店さんから災害対策の情報を頂けるように連携しています。そういった情報を踏まえて「お墓の災害対策」についてお伝えしましょう。

実は近年の大型台風で、京都・大阪あたりの墓石が倒れているとの報告がありました。通常お墓は台風などではあまり倒れません。しかしながら多くの墓石が倒れたそうです。その理由としては、普通の台風よりも「強力な台風」であった事に加えて、もう一つの要因として「地震」が考えられています。

お墓は地震に弱い

通常お墓は地震に弱いとされていますが、暴風では倒

れにくいといわれています。お墓は左右、前後からの揺れに弱く、暴風などの一方向から力には強いのです。たとえば東向きに吹いていた風が、いきなり西向きになったりは致しません。一秒間に何往復も風の向きが変わることなどありません。

なのでどれだけ強い暴風が吹いても、重たい石材は一方からの圧力には耐えるのです。しかし地震の場合は揺れが交互に訪れます。しかも速い速度でグラグラグラーという具合。なので石自体の重さが倒れる方向への過重となり、墓石は転倒してしまうのです。

墓石がもつとも弱いとされる下からの突き上げでも転倒します。大規模災害でなくても、直下型地震が起こると想像以上の被害となるのはそんな理由からです。

転倒を防ぐにはどうしたらよいのか

また倒れてはいないけど、過去に起こった地震の影響で接着剤などの固定効果が無くなってしまった墓石や、土台から外れてしまった墓石もございます。そのことに気付かなかつたり、修繕が終わらないまま連続災害となり、倒れてしまう墓石も多くあるそうです。

墓石に使われる接着剤などは、一方行からの継続的な衝撃には耐えやすいという特性がありますが、交互に力

が加わると少しずつ隙間が生じ、緩んでいつて外れてしまいます。またお墓の部材で暴風に弱いのはお花立です。お花が生けられた状態の花立は転倒しやすいので、台風などの強い風が予想される時は前もってお花を抜いておくといでしょう。

墓石の補強で安全対策を

いずれにしても皆さまにとってお墓は大切なものです。今すぐ地震などの災害に対する措置を行えば5万円ほどで済みますが、無対策のまま災害に遭いますと、修繕のために多くのお金が必要になってしまいます。状況に合わせた補強を施しておけば、もしもの場合でも安心です。「うちのお墓はどうだろう？」と不安に思われる方は、ぜひ一度ご相談ください。

地震に備えてお墓で何をしたらいいのか？

皆さまが恐れる巨大地震。いつ、どの程度ということ
がわからない事に対しての対策は不安が募ります。そこで
今回はお墓に関しての「地震への備え」について詳しく
お伝えします。

最近「仮に自分のお墓が地震で壊れた時は、どのような
対応を取ってもらえるのか？」「地震に備えてどのような
事をしたらいいのか？」というご相談を多く頂きます。
まずは地震が起きて、不幸にもお墓が壊れてしまった
場合、つくった墓石店に責任があるかどうかの判断基準
をお伝えしましょう。

震度5強以上の場合は不可抗力

日本石材工業新聞で「石材店のための法律講座」を担当
している、弁護士戸部秀明氏が「地震による墓石倒壊」

に関する法的見解を述べていますので、一部ご紹介しま
す。

「震度5弱もしくは震度4程度で墓石が倒壊した場合に
は、施工にミスがあるとして、石材店側が損害賠償責任
を負うと解する余地がある。しかし震度5強以上の場合
は、不可抗力によるものとして責任を負う事は無いであ
らう」と述べています。

また隣の墓石が倒れてきた場合も同様で、やはり震度
5強以上の場合には不可抗力による天災とされるので、
責任を追及することは出来ないとのことでした。

墓石を修復後の余震での倒壊の恐れ

墓石を修復後、余震の影響で再び倒れてしまった場合
は以下のような見解となります。

「余震の規模が震度5弱、もしくは震度4程度以下であ
る時には、本格的修復を行った石材店には、再修復を行
うべき義務や損害賠償責任があると考えられます。余震
の震度がそれ以上に大きな場所では、不可抗力による天
災によるもので責任を負う事は無いでしょう」

「また、余震が断続的に発生されることが予想される時
には、修復を依頼された場合に、あらかじめ弱い余震で
再度転倒する恐れがあることをお客さまに説明しておく

必要があります」

つまり修復したお墓が通常求められる程度の耐震性を
持ち得るかどうか説明し、場合によっては契約内容に明
記しておくことが重要です。要は壊れた墓石の修復には
一時的な方法と、本格的な方法の2通りがある。そして
一時的な修復方法の場合は軽い余震が続くと再度転倒す
る恐れがあり、本格的に修復した場合でも震度5強以上
の余震が起こり、再度倒れたとしても不可抗力と見なさ
れるという話です。

地震に備えるには

次に「地震に備えるにはどうしたらよいのか？」とい
うご相談ですが、常々お伝えしておりますように「これ
で大丈夫！」というラインは永久にありません。そうか
と言って何も対策しなくてよい訳でもなく、今できる最
善の策を行う事が重要なのです。

たとえば基礎を鉄筋コンクリートでつくる。個々の石
材を壊れにくく加工する。内部の構造を補強できる特殊
な金具で固定する。ゲル状の緩衝材を挟み込み、地震の
揺れを逃がす構造にするなどの対策が考えられます。

また他にも耐震性に優れたシーリングの工法を用いる
ことも重要です。ただ単に墓石を積み上げるだけではな

く、石と石の間に支えをつくることがとても大切になっ
てきます。

弊社で毎月行われている「墓石見学会」では、上記お
伝えした地震に強いお墓の構造や、基礎、補強について
もたっぷりお伝えしております。これからお墓をつくる
方はもちろんですが、今建っているお墓が心配な方は一
度ご相談にお越しく下さい。適切な方法をお伝えし、ど
うしたら安心してお墓参りできる環境をつくることが出
来るか、一緒に考えます。

戒名を彫るのは 墓石か墓誌か

弊社で過去に耐震補強工事をご依頼下さった方から、すでにお亡くなりになられている祖父や祖母、母のご供養のため、戒名を追加で彫刻したいというご相談を頂きました。そして「戒名はお墓に彫った方がよいのでしょうか？」それとも「墓誌を新たに作る方がよいのでしょうか？」という内容のご相談も。今回は墓石などに追加で彫刻する戒名についてお伝えします。

竿石に彫刻できる

まず墓石そのものに戒名を刻む場合。取り外しの出来る竿石と呼ばれている一番上の石を工場まで引き上げてきてから彫刻します。出来ない場合は墓地で現場彫りをします。今回のケースでは、すでに矢田石材店で地震対策を施したお墓なので、墓石を簡単に取り外せません。

職人が墓地に出向いて刻みます。

その際は、文字を刻む前にお寺様にお精抜きのお経をあげて頂き、刻み終えた後、お精入れのお経を唱えてもらいます。この流れは墓石に戒名を刻む場合、必要となるしきたりです。

墓誌をつくる場合

そして墓誌をつくる場合。墓誌というのはお墓の横に建てる板状の石材のこと。宗派や地域によって、墓標、靈標、墓誌、墓誌板、戒名板、法名碑などと呼ばれています。通常はお墓の本体に戒名を刻み切れなくなった場合に増設しますが、墓地の広さに余裕のある方は最初からつくられる方もいらつしやいます。

ただお墓に必ず要るモノではありませんので、通常お墓本体に戒名を刻むスペースがある方にはムリにお奨めは致しません。しかしながらお墓に仏塔としての意味合いを強く持たせたい場合、個別の戒名などを墓石本体に刻みません。その際は墓誌をつくってお祭します。

自分の家族らしい供養とは何かを考えること

いずれにしてもどちらが正しくどちらが間違っているという訳ではありません。個人的な意見としては、お墓に手を合わせた時、亡くなられた方の事を鮮明に思い描きたい方はお墓本体に戒名を刻まれた方がよいと考えます。

お祭りする方が多かったり、自分の知らない方も含まれている場合は、記録するという意味合いも含め、墓誌をつくられた方がよいかもしれません。しかし最終的に決断されるのはご自身です。お墓を守っていくご自身が「どちらが自分達らしい供養なのか」ということを考えてお決め頂ければ問題ありません。

建立者の名前

お墓をつくる皆さまがお迷いになる「お墓を建てた方のお名前」。法的に明確な規則はございませんが、地域の風習や慣例に沿ったお話をお伝えします。通常は「建立者」もしくは「建立者」と言います。基本はお墓をつくったご家族の中で、長となる方のお名前を刻みます。技術的には10名程の方を連名で刻む事も可能です。しかしお墓に刻むお名前に関しては、お金を出した人や一族みんなの名前を彫るものではなく、お墓を建てた方々の中の代表者一名、当主おひとりが基本となります。

一家にひとつが基本の日本のお墓

とくに現代の日本では「お墓は一人にひとつではなく、一家にひとつ」が基本です。なので家の当主お一人の名前を刻むのが好ましいとされています。これがあまりにも沢山のお名前が刻んでありますと、刻まれている方々は将来お墓に入れる、刻まれてない方はダメなどと誤解

を招きます。止めたほうが賢明です。

とくにお子さんが何人もいらっしゃる場合はお墓の利権争いにもつながります。女の子にとっては、精神的なご負担を招く場合もありますのでお止めください。

お墓は祭祀財産

法的な観点からお伝えしますと、お墓は祭祀財産といわれ、お一人の方がすべてを継承します。土地やお金などの財産のように、相続人の数で分けることもいたしません。ひとりの方がすべてを受け継ぎます。

たとえば墓石本体は長男。門柱や囲いなどの外柵は次男。お地藏さまは3男というように分けることは出来ませんし、必ずしも法定相続人でなくてもよいのです。極論としては自分の子供たちではない、内縁の妻に相続させることも出来ます。

連名にはさまざまなケースが

また離婚された方から「再婚するから、前の妻の名前を消してほしい」というご依頼も頂きます。皆さま簡単に「ご依頼下さるのですが、一度刻まれた文字は消しゴムで

消すような訳にはいきません。文字をすべて削り、再度磨き直してから彫刻します。奥様との連名を希望される方は、よくお考えになった上でお決めください。

ただ連名でも例外がございます。若くしてお父様を亡くされたご家族で、ご長男が未成年の場合、お母様がサポートするという意味も含め、お母様のお名前を刻み「長男○○」というようにすることも可能です。逆にご長男のお名前を始めに刻み、「母○○」と表記するケースもございます。

ご家族でよく話し合って

このように建立者の名前彫刻は意外と奥が深いものです。その時々で勢いで決めてしまうのではなく、ご家族でよく話し合ってお決めください。

個人的には今までの経験上、お墓に刻まれた自分の名前を見た方々が、その瞬間にピンと背筋が伸び、意識が変わっていく様を何度も拝見しております。若い代表者であったとしても、刻む御名前は一人が最善であると考えています。

お墓に刻む年齢の話

あの世でも年齢は大切？

皆さんからよくいただく相談事の中に「お墓に刻む年齢」についてのお悩みがございます。お墓に刻む年齢には「満年齢」と「数え年」の2通りの表記方法があります。「満年齢」は、皆さんが普段よく使われているお年そのもので、生まれた日を誕生日として、一年が経過したら1歳。その後も2歳、3歳と一年でひとつずつ積み重なります。この満年齢に対して「数え年」は生まれて1歳。その後は誕生日が来なくても元日を経過したら1歳ずつ増えてゆきます。

「数え年」のほうが簡単な計算方法

たとえば「満年齢」で45歳でも「数え年」なら元日以降は2歳増えて47歳です。誕生日月以降は満年齢と数え年の差が一つに縮まります。とてもややこしく感じます

が、実は数え年の方が簡単な計算方法なのです。

ゼロという概念が一般的ではなかった時代の名残とも言えますが、誕生日を境に一つ年齢が増える手続きは意外と面倒だったようです。その昔は現代と違って10人兄弟などの大家族も当たり前の事でしたから、元日を迎えて一斉に年をとって行った方が楽だったのでしょう。

法要を行うお年忌も実は「数え」

ややこしく感じる「数え年」ですが、実は法要を行うお年忌も「数え」です。一回忌は1年目ですが、三回忌は2年目。一の次は三なのです。一年後の法要を二回忌と言っても良さそうですが、そこはなぜか一周忌です。これらの呼び方も、お悔やみ事の数え方について、皆さんがややこしいと感じられる原因のひとつかと思います。さらに「享年」「行年」が絡んできます。基本的には同じ意味なのですが、区別するとしたら「享年」は天から授かった年数となりますので「〇歳」とは入りません。「享年60」となります。「行年」は何歳まで生きました、という意味合いを持ちますので「行年60歳」という表記です。これらの呼び方は諸説ありますので、これが絶対的に正しい訳ではありませんが、根本の意味合いからすると今ご説明した通りです。

長生きしてほしかったという 家族の想いも込めて

ここまでお伝えしてきた「数え年」は現代では一般的に使うことはありません。法律でも満年齢を使うように定められています。ではなぜお墓には「数え年」を刻むのでしょうか？そこにはお亡くなりになった方に対して、より長生きして欲しかったという家族の想いが込められているからです。

たとえば満年齢58歳の方がお亡くなりになったとして、数えにしたら60歳。還暦です。そうなるとせめてお墓に刻む年齢は還暦にしてあげたいとなる訳です。お墓に刻む年齢には、故人により長生きしてほしかったという、家族の愛情が込められているのです。

お施主さまからのご要望を汲み入れます

ただ最近ではお葬儀の際に「満年齢」で進めることも増えてきました。お位牌にも「満年齢」が刻まれることも増えました。その場合は、お墓だけ「数え」にすると後の代の方が混乱しますので、一般的にお位牌とお墓の

年齢を統一します。お墓はお位牌の後につくられますので、基本的にはお位牌を参考にして刻みます。

この数字に関して弊社では、生年月日と死亡年月日から「満で何歳」「数えで何歳」ということをしっかりと計算した上で、お施主さま達の要望を汲み入れて刻ませて頂いております。どうぞご安心ください。

お墓の建立日

〇〇年〇月吉日 建之

今回は「お墓の建立日」についてお伝えします。建立日とはお墓の側面、もしくは後面に刻まれている日付のことです。〇〇年〇月吉日 建立（こんりゅう）、もしくは〇〇年〇月吉日 建之（これをたつ）と刻まれて、そのあとにお名前が続きます。これはお墓がつくられた日、建てられた日を表すものです。そして日付に続いてお名前を刻まれている方がお墓をつくった人、建てた人となります。

一般的にお墓は「建立」とは刻まずに「建之」と刻みます。「建立」は神社の鳥居であったり、灯籠や大きな石造物に使われることが多いです。お墓はいつ建てたかよりも、誰が建てたかを大切にします。人と人とのつながりが大きく関わっていて、次の世代へ伝えること自体に意味があるからです。

またこの場合、お墓を建てた人というのは、基本的に

はお亡くなりになられた方ではありません。お亡くなりになられ、お墓で祭られている方は別の面に刻まれます。祭られる方が増えますと、追加でお名前を刻んで増えていきます。お墓をつくった方のお名前は増えません。お墓がつくられた時の情報がすべてなのです。

建立日をいつにしたらよいのか？

話を戻しますが、「お墓に刻まれる建立日を、いつにしたらよいのでしょうか？」というご相談を頂きます。昔の話で私がまだ学生の頃、父に連れられてお墓の建立を手伝っていました。当時はお墓を一日でつくり上げていました。そして完成したお墓にその場でお骨を納め、ご住職が来て入魂のお経をあげてもらったものです。

しかし現代のお墓づくりは昔と違い一日では終わりません。より頑丈にするために、基礎のコンクリートをつくります。また工程も細かく管理されていて、外柵、土台、墓石本体、そして仕上げとなり、それぞれ養生期間も設けています。そのため「建立日はいつなのか？」と皆さまお迷いになられるのです。

結論を申し上げますと、今は墓石が建ちあがった日ではなく、完成したお墓にご遺骨を納めたり、お精入れの式の日を建立日にします。「〇〇年〇月吉日 建之 矢田敏

起」というような表記です。具体的な日付ではなく「吉日」と入れます。浄土真宗の場合は、教えとして日の吉凶がありませんので、○月建之となります。

知っている人に聞くのが一番

このような事は、普通に暮らしてはまったく知識が蓄えられないものです。いざお墓をつくる時になり、はじめて気にかかる程度。しかも正解がわからない。なので皆さんお迷いになられます。他にも「誰の名前を刻んだらよいのか？」も聞かれることが多い質問です。

もしもお墓についてわからない事、迷っている事がございましたら遠慮なくご相談ください。知っている人に聞くことが一番早く楽になる方法です。矢田石材店では墓石見学会も随時開催していますので、お墓づくりの「はじめの一步」にぜひご活用ください。お飲み物やお菓子などをご用意してお待ちしております。いつ行うのかはインターネットでホームページなどをご参考ください。

お墓と戒名の関わり

皆さまがお墓をつくるときに直面する「戒名とは何なのか？」という疑問。今回はお墓の専門家の立場から「お墓と戒名の関わり」についてお伝え致しましょう。お亡くなりになられた後にいただくお名前については、各宗教・宗派それぞれの名称（戒名、法名など）・考え方がございますので、そのあたりのことは宗教の専門家にお任せします。この場ではお墓と戒名の関係について、墓石店の立場でお話をします。

戒名とは何なのか

「戒名」とは、お仏壇にある「お位牌」や「過去帳」に書かれている、お亡くなりになられた方のお名前やご先祖様のお名前、日常生活においてはあまり馴染みのないものです。

ではどんな時に「戒名」のことを意識するのか。まずはお葬儀の際です。それから先ほどもお伝えしたお位牌

に書く時。そしてお墓に刻む時です。「戒名」が出てくるのは、大体この3つのケースです。

仏様のお弟子になること

「戒名」は、ほとんどの方が亡くなられた後に頂きます。中には生前にいただく方もいらつしやいます。そんなことから「戒名」がないとお墓に入れないと思う方もいますがそういう訳ではありません。

最近では「戒名」を頂かずに、自分たちで亡くなった方と最後の時間を過ごす葬送の方式もあるようです。お墓に「戒名」を刻まない人も以前より増えました。

なぜ「戒名」が必要なのか分かっていない方もいらつしやいます。「戒名」を授かるということは、基本的な考えとして仏様のお弟子となり、ご加護が得られることを意味します。

言霊信仰との深いつながり

そして日本には「戒名」という仏教的文化が定着する前から、名前を変えていくという民族としての風習文化がありました。亡くなった後につける名前を「忌み名」

といい、功績をたたえて付けられる名前が「諡（おくり名）」です。馴染みのあるものでは「芸名」であったり、歌舞伎の世界での「襲名」、そしてお相撲さんの「しこ名」であったり。名前が変わって出世するのです。

歴史に詳しい方なら良く知られていることですが、元服して名前が変わったり、現代でも老舗の会社を継ぐと代表者の名前を引き継ぐこともございます。これは日本に古くから伝わる言霊信仰と深いつながりがあります。名は体を表すといわれ、言葉を大切にする日本らしい文化なのです。

旅立たれた方の幸せを願って授かる戒名

繰り返しとなりますが、日本の仏教における「戒名」は仏様のお弟子になることを意味します。日本独特の解釈による「戒名」は、亡くなった方が極楽浄土に行くことができるように願いを込めて付けられるものなのです。

このようにお亡くなりになってから名前が変わる「戒名」は、日本独自の文化として他の仏教国にはない風習です。「戒名」を授かる事は、私たちの住む世界から旅立った故人を仏の世界へ正しく導いてもらうという意味がある事を覚えておいてください。

残された方々からの故人への贈り物として

私ども墓石店は戒名をつけることは出来ませんが、石に刻むことは出来ます。旅立たれた方の幸せを願って刻まれる「戒名」は、向こうの世界へ行ってもよい扱いをうけられるようにと、残された方々からお亡くなりになられた方の幸せを願う贈り物です。今一度その意味をしつかりと理解して欲しいです。そして供養とは何か、お墓とは何か、しっかりと考えた考えのもとお墓づくりに臨んでください。

お墓の正面文字についての話

「〇〇家の墓」

お墓の顔といえは正面文字。お墓の部位の中でもっとも目に付き、そのお墓を象徴する文字です。そんな「お墓の正面文字」について、今回いろいろとお伝えします。

一般的なお墓の正面文字は「〇〇家之墓」が多く、矢田家であれば「矢田家之墓」、田中さんであれば「田中家之墓」が一般的です。現代のお墓は「家墓」と呼ばれ、家族全員がお墓で祭られますから、このような表記が多いです。

ところが元々お墓は「一人に一基」。以前はお墓の正面に祭られる方の戒名が刻まれていました。それが次第に「夫婦墓」となり、夫婦2人の連名が刻まれるように。そして先ほどお伝えしたように、家族みんなが入るお墓となりました。なので個人の名前ではなく「〇〇家」とい

う表記に代わってきたという歴史があります。

ご先祖さまがたくさんいらっしゃるお家柄の方であれば「〇〇家先祖代々」「〇〇家先祖代々之墓」というような表記も選択肢に加えられます。

「南無阿弥陀仏」などの名号や「感謝」などの言葉

または宗派によって「南無阿弥陀仏」や「南無釈迦牟尼仏」などの名号や本尊を刻みます。日蓮宗では「南無妙法蓮華経」のお題目です。お寺の境内にある墓地でお墓をつくる時は、お坊さまからのご指示で宗派のしきたりに沿った文字を刻みなさいと勧められます。勝手に文字を刻まないようにお気を付けください。

市営墓地などでは基本的に厳しい決まりはありません。どのような文字を刻んでも自由です。横型のお墓やデザイン墓石の方は、好きな文字を刻まれています。またお墓をつくる方々が、祭られる方へ向けてのメッセージとして「ありがとう」とか「感謝」などの文言を選ぶことも。中には家族を象徴する文字として「愛」「絆」「和」といった言葉から「一文字」を刻むケースも増えてきました。

「来てくれてありがとう」などの メッセージも

その他には、残された家族に対してのメッセージとして「みんな仲良く」とか「来てくれてありがとう」などの文字を入れ「こういう家族であってほしい」という希望を刻む方もいます。最近のお墓は「デザインが自由」になったと同時に「刻む文字も自由」になっています。亡くなられた方を仏さまとして祭ること以上に、お墓に何かしらのメッセージを象徴とする事に重きを置かれる方が多いのかもしれませんが。

ただお墓は信仰の対象であり、仏塔とも呼ばれるように、故人を仏さまとしてお祭りし、お墓参りを繰り返して供養することが目的です。その本筋から逸脱しないようにご注意ください。

話を戻しますが書体に関しては主に「楷書体」でつくられます。読みやすさから9割以上のお墓が「楷書体」です。時折「行書体」の時もありますし、稀には「草書体」や「隷書体」などの書体でつくられることもあります。ご自身で書いた文字や、お気に入りの書家先生に書いてもらった文字を刻む方もいます。

丁寧にお墓をつくるために

亡くなられた方やご家族の今後のことを考えて、どうしたら一番よい供養になるのかと話し合つてほしいです。どんな文字を刻んだら喜んでくれるのかなと想像することが、お墓づくりを通じて、ていねいにお祭りするということなのです。文字選びには地域のしきたりや習慣も関わってきますので、自由にやりすぎると後々困る可能性もあります。ご不安であれば遠慮なくご相談ください。何時でもお待ちしております。

文字の色、彫刻の色

金銀キラキラ光る文字

地域によってさまざまな「お墓の文字色」についてお伝えします。ご存知だと思いますが、お墓の文字は表面に書いてあるのではなく彫刻したものです。彫刻した部分は彫ったそのままの状態です。仕上げの時に色を入れますが、判読しにくい場合は塗料を使い、色を入れて文字をハッキリ目立たせます。その場所はお墓の正面や側面、背面に刻んである建立者のお名前、建立された日付や戒名、そして家紋となります。

愛知県は白色の文字、 京都では青色の文字を入れるお墓も

愛知県では文字に入れる色は白色が一般的。三河地域は着色しないで仕上げるお墓も多いですが、着色する場合は白色です。彫ったままの状態を選ばれる方が多いの

は、岡崎の石材は色合いが濃く、彫った部分と彫ってない部分のコントラストがハッキリとするからです。見た目とお好みで選んで頂きます。

先日あるお客さまが京都へ旅行に行った時、なんとなく墓地へ行ったところ、文字にはすべて青色が入っていたそうです。愛知県ではほとんど見た事のない文字色だったため、これは一体どういう事なのでしょう？というご相談を受けました。

青色の文字に関しては、墓相式のお墓によくみられる特徴です。墓相とは、家相とか、手相などのように、お墓の相を見て作っていく流派のこと。いくつかあるお墓の作り方の一つです。愛知県でも墓相式のお墓は、彫刻した部分に入れる文字を青色にすることが多いです。恐らくお客様がご覧になったのは、墓相式でつくられたお墓が沢山並ぶ墓地だったのでしょう。

関東などでは黒が基本、 九州では金文字が多い

関東などでは文字の色は黒が基本。関西は正面文字の彫刻が深いという特徴のため、正面に色を入れることはありません。九州は金文字です。文字彫刻した部分に金

箔を貼り付けます。彫刻した文字のところに黄色の漆塗料を塗って、その上から金箔を張りつけます。金色のラッカーと比べると、金箔の方がきれいですが、これだけでご費用は一気に跳ね上がります。

九州の墓石店さんは金箔の塗り替え需要もあるらしく、ここ数年は金の価格が高騰しているので、昔と比べ同じ価格ではできないと嘆いていました。値上げをすると皆さん補修を渋るそうです。九州の中でもとくに長崎県あたりは金箔墓石の数が多く、愛知県在住の方でもご出身が長崎県の方はよく金箔文字を選ばれます。最近では金箔が目立ちすぎるので、プラチナ箔の文字にする方もいるようです。どちらにしても派手で目立つため、相当な覚悟が必要です。

地域のしきたりなどでも変わる 文字の色は慎重に

このように彫刻した文字に入れる色に関しては、地域性やしきたりが色濃く影響します。風習などに関してもその他の地域と違う場合は「なぜそうなっているのか?」という理由が必ずあります。「カッコいい」「人と違うことをしたい」という理由だけで選ぶと後悔しかねません。

他の方々と違うことを行う時は、慎重に事をお運びください。お悩みになられたらいつでもご相談ください。お待ちしております。

家紋の話

あこがれの家紋

ご年配の方々を中心に人気の高まる「家紋」。今回は「家紋」についてお伝えします。「家紋」は、普段の生活の中でなかなか意識することが少ないです。家紋を意識する時といえば、結婚式やお葬式などの人生の節目。もしかしたら一般の皆さまがもつとも「家紋」を意識する時期は、お墓づくりの時なのかもしれません。

平安時代からある家紋

そもそも「家紋」とは何なのか。簡単にいえば、書いてある字の如く「家の紋章」であり、西洋風にカッコよくいえば「エンブレム」のようなものです。

古くは平安時代後期から「家紋」が見られ、合戦時に敵味方の判別に用いられました。戦国時代になると派閥もドンドン分化し、同族同士でも争うようになったので、

「家紋」の数は一気に増えて、現代ではその数は2万種類ほどあると言われています。

本当に間違えやすいお墓の家紋

お墓をつくる時、多くはお水鉢の位置に家紋を彫刻して刻むことが習慣づいています。お墓をお持ちの方から、家紋について一番多くいただくご相談は「違う家紋を彫ってしまったので直して欲しい」というご依頼です。実は家紋には丸があったり、なかったり、天地が微妙に分からなかったりと、よく見ないと間違えてしまうようなものが沢山あるのです。

そこで石に刻む時は「家紋帳」と呼ばれる本を参考にします。しかしこれも出版元や編集者が違うと形が微妙に合わないこともあります。同じような家紋がいくつもあることも、間違えやすい原因です。

石に彫る文字、家紋はお間違いなく

以前、本当は「下がり藤」なのに「上り藤」を刻んでしまった方がいました。お墓を建ててから20年間ほど悩んでいたようですが、意を決して修正依頼にお越しになられました。

した。

本来はお墓をつくった墓石店が直すべきなのですが、当時、石に彫ったから直せないと開き直られてしまったそうです。たしかに一度石に刻んでしまったら、消しゴムで消して書き直すようにはいきません。石に彫った「家紋」は修復できません。

お墓をつくる際は原稿確認を必ず行う

このようなケースは、お墓をつくった墓石店さんともう少し配慮していれば、間違えもなかったはず。弊社では契約時にすべての彫刻部位の原稿をご確認頂いております。一度彫ったら元に戻せない訳ですから、必ず間違えないように厳重な確認が必要です。

矢田石材店ではお墓をつくる際、「家紋」も「文字」も必ず原稿をつくり、ご確認を頂いております。追加で彫刻をする場合も同様です。どうぞご参考ください。

おわりに

とりとめもなく、お墓の話を書き連ねてしまいました。

いかがでしょうか？

冒頭でお伝えした「わからない」「知らない」お墓について、

少しは「分かっていること」「知っていること」に変化して頂けましたか？

もしそうなられたのであれば、微力であつたとしてもお力になることが出来、大変うれしいです。

ただ分かればわかるほど、そして知れば知るほど、マイナスやリスクも分かってしまうもの。

お墓づくりで失敗などはあつてはならないこと。

出来る限り事前に失敗要因は排除したいですね。

何事も失敗しない為には事前体験が大切といわれます。

お墓と同じような高額な商品で例えるなら、試乗車やモデルハウスが考えられます。

最近では、高級外国車ディーラーは試乗車を数日間貸し出したり、

大手ハウスメーカーはモデルハウスへの宿泊を提案しているそうです。

しかしながらお墓は事前体験がとても難しい。

お墓を購入し、完成、納骨、そしてお墓参りの事前体験は限りなく不可能に近い。

出来ることならお墓が完成した後の感覚を体験して頂いてからお墓づくりを始めて頂きたい。

この構想は私共矢田石材店の長年の夢であり、課題でもありました。

そしてついにその挑戦が実を結びそうです。

幾度もの試行錯誤を経て、弊社展示場はお墓づくりの事前体験ができる施設へと成長しました。

お墓をつくる前に、「お墓が出来上がったらどうなるのだろう」という気持ちになれる。

事前に墓づくりの体験ができる展示場です。

供養の在り方を実感できる。

お墓を通じて故人と再びつながる。

断続された絆が再構築される感覚。

絆を思い出せる場所としてのお墓。

そのような気持ちの入り口が矢田石材店の無人展示場です。

お墓づくりに対しての不安や心配を払拭する場所がお墓の展示場なのです。

ぜひお墓づくりの際はお立ち寄りください。

お墓を守る方々は皆さんお墓を指さして、

「うちのおじいさん」そして「うちのお墓」とお墓を呼びます。「私のお墓」とは言わない。

自分以外のものに行う行為の中でお墓をつくることほど尊いことはありません。

車も家も株も、みんな自分の為にお金を使います。

同じような金額を使うにしてもお墓は【大切な誰かのために】お金を使う行為。

世の中にある徳を積む行為の中でも陰徳にあたり、得られる功德も大きいものとなります。

お墓づくりとは、故人の再生プログラム。

記憶の中にある、あの人を想い出として、私たちの一部にする行為。

その第一歩が矢田石材店の展示場であって欲しいという願いを込めて、最後の言葉とします。

◆著者プロフィール

矢田 敏起(やたとしき)

「お墓参りこそ最高の人間教育」と説く、日本人の心とお墓を直す世直し職人。高校卒業後、心身を鍛えるため自衛隊に入隊。配属された特殊部隊では教育課程を首席で卒業。お墓職人となった後、ニートを弟子に取り徹底指導で更生。年間1000件を超えるお墓相談のやり取りから、お墓と人間成長を結びつける独自の理論を展開。NHKをはじめテレビ局数社に取り上げられる。また2千以上の墓石修復経験を生かし、重要文化財や世界遺産寺院の石造物、今川義元のお墓修復にも携わる。矢田石材店3代目代表。

「お墓づくりで迷ったらいつでもご相談ください。」

矢田石材店

■ 岡崎本店

〒444-0007 愛知県岡崎市大平町字南田漬28-1

Tel 0564-73-2018 Fax 0564-73-2058

■ 西尾展示場

〒445-0072 愛知県西尾市徳次町明大寺22-1

Tel 0563-65-0773

■ 豊川稲荷前展示場

〒442-0041 豊川市旭町15-1

Tel 0533-95-9902

■ 名古屋店

〒465-0097 愛知県名古屋市名東区平和が丘2-213

Tel 052-768-6620 Fax 052-768-6647

e-mail info@yatasekizai.com

ホームページ <https://yatasekizai.com>

令和元年7月1日 第1刷

お墓と供養のしきたり

定価(本体1,000円+税)

